

適用は 印を記入する。

(1) 工事名称 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事
 建築場所 鳥取県境港市昭和町9番3 ほか

(2) 工事種別 ☐ 新築 ☒ 増築 ☐ 増改築 ☒ 改築

(3) 構造種別

☐ 木造 (W) ☐ 補強コンクリートブロック造 (CB) ☒ 鉄骨造 (S)

☐ 鉄筋コンクリート造 (RC) ☐ 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)

☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)

☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐

(4) 階 数

地下 階 地上 3 階 塔屋 階

(5) 主要用途 作業所

(6) 屋上付属物

☐ 鉄骨屋根 ☐ 高架水槽 ☐ 空調機、室外機 ☐

☐ 煙突 ☐ キュービクル ☐ プール ☐

(7) 増築計画 ☐ 有 () ☒ 無

(8) 付帯工事

☐ 門扉 ☐ 擁壁 ☐ ☐ ☐

(9) 特別な荷重

☐ エレベータ ☐ リフト kN

☐ 倉庫積載未用 kN/m² ☐ 受水槽 kN ☐ ホイスト kN

(10) その他

(1) コンクリート				
適用箇所	種類	設計基準強度 $F_c = \text{kN/m}^2$	スランプ cm	備 考
捨コンクリート	普通	(18)	15	
土間コンクリート	普通	18、(21)	15	
基礎 基礎梁	普通	18、(21) 24、27	15	
デッキコン	普通	18、(21) 24、27	18	
		18、21、24		
		15、18		

☐ A 種 ☐ B 種 ☐ C 種 厚 ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190

(3) 鉄 筋	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	SD295A	D10～D16	躯体	重ね継手 (D16以下)
	SD295A			
	SD345	D19以上	躯体	ガス圧接継手 (D22以上)
丸 鋼	SR235			特殊継手
高強度せん断用鉄筋	KSS785	16	躯体	()

(4) 鉄 骨		種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
鋼 材	SS400	B295	躯体	☐ 有 ☒ 無	
	SN490BC	STK400	躯体		
	☐ SM490A, B				
	SSC400		脚溶接		

☒ 高力ボルト
 ☒ 普通
 F 8 T
 ☒ 特殊 S 1 0 T
 認定品
 (☐ M 1 2
 ☒ M 1 6
 ☒ M 2 0
 ☒ M 2 2)

☒ 中力ボルト
 図示
 高力ボルト すべり係数試験
 ☐ 要
 ☒ 否

☒ アンカーボルト
 図示
 =
 L=
 mm
 ナット (シングル, ダブル)

図示
 =
 L=
 mm

☒ スタッド ボルト
 図示
 =
 L=
 mm

☐ ALC 版

☒ 折 版 図示

☐ キーストンプレート

☒ デッキプレート 図示

☒ スラブ、土間 図示

(1) 地盤調査資料

☒ 有 (☒ 敷地内 ☐ 近隣) ☒ ボーリング調査 ☐ 平板載荷試験 ☐ 水平地盤反力係数の測定

☐ 無 (調査予定 ☐ 有 ☐ 無)

(2) 地盤調査計画

☐ ボーリング調査 ☐ 静的貫入試験 ☐ 標準貫入試験 ☐ 水平地盤反力係数の測定

☐ 土質試験 ☐ 物探調査 ☐ 平板載荷試験 ☐ 支持層確認

(3) 地盤調査及び試験結果の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎 杭の位置を明記すること)

[illegible]

(1) 直接基礎 ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☒ 独立基礎 試験掘 ☐ 有 ☒ 無
深さ G1 = 20.5m 支持層 シルト 長期許容支持力 150 kN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
☐ RC ☐ NH ☐ PHC ☐ PFC ☐ H鋼 摩擦杭 ☐ 鋼管 ☐ SC	NH (☐ A種 ☐ B種 ☐ C種) PHC (☐ A種 ☐ B種 ☐ C種) PFC (☐ IV種 ☐) 鋼材 □ S400 □ STK490	☐ 打ち込み ☐ 埋込み ☐ 管間杭回転貫入工法 ☐	
☐ 場所打ち コンクリート杭	コンクリート Fc= _____ セメント量 kg/m^2 鉄筋 主筋 SD _____ HOOP SD _____	☐ オールケーシング ☐ 掘底杭 ☐ リバースサーキュレーション ☐ アースドリル ☐ ミニアース ☐ BH 深礎 ☐ 手掘 機械掘	掘底杭 日本建築センター認定 第 ____ 号 年 月 日

杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書
試験杭 (☐ 有 ☐ 無) (☐ 打ち込み ☐ 載荷) 各棟 2 本

[illegible]

① コンクリート

● コンクリートはJIS認定工場製の製品とし施工に關してはJASSによる。

● セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

● 調査計画は、工事開始前日工事監理者の承認を得ること。

● 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

● フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの材料評価室をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。

測定検査の回数数は、標準仕様書による。

● 構造体コンクリート 現場の圧縮強度試験用試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取対策は5m区ごとに打込み日ごととする。また、打込み量が150㎡を超える場合は150㎡としたり、その数値ごとに一回を標準とする。一回ご採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数採取する。なお、供試体の数値は、特別指示なき場合は、一回当たり12本以上とし、そのうち4回割3台3本を用いる。

● ポンプ打ちコンクリート は、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリート が分離しない範囲とする。ポンプ圧送の際には、コンクリート 圧送技術または同等以上の技能を有する者が従事すること。

☐ 鉄筋別 JIS G3112 の規格品を標準とする。

☒ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ
 は、「構造関係系共通事項」による。
 （ 型式鉄筋コンクリート 造は除く ）

☒ D19 未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19 以上）をガス圧接とする場合
 は、日本鉄筋協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

☒ ガス圧接部の取り出し検査は、標準仕様書による。

外観検査 ☒ 有 ☐ 無 引張試験 ☐ 有 ☒ 無 超音波深さ試験 ☒ 有 ☐ 無

☒ 柱の帯筋（H OOP）の加工方法は、
 ☒ H型（タガ型）
 ☐ W型（溶射型）

☐ S型（スパイラル型）
 とする。

☐ コンクリート及び鉄筋の品質検査は、建築物の工事に関する試験及び検査に関する東京都建設要綱第4条の規定に準拠で行うこと。

試験機関番号

代行業者名

代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

☒ 材料 合板厚 12 mm を標準とする。 ☐ メッシュ型枠

☒ 型枠存置期間

種類 セメント の種類 平均 気温の 範囲	せ き 板				支 柱			
	基礎、はり側 柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント 普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	
コンクリートの 圧縮強度	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5 N/mm2			設計基準強度の 50 %		設計基準強度の		
						85 %又は 2 N/mm2 以上 100 %		

注) 1. 片持り、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2. 大まりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注) 3. 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート 打ち後とする。

注) 4. 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受け板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5. 支柱の盛りかえは、小振りが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注) 6. 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

☒	日本建築学会「 J A S S 6 」 「 鉄骨工事技術指針」
☐	鋼材倶楽部「 建築鉄骨工事施工指針」
☐	

(2) 工事監督者の承認を必要とするもの

☒ 製作工場	☒ 製作要領書	☒ 工作図	☒ 施工計画書
建設省告示第1103号による認定工場（大臣認定 M グレード）			
☒ 材料財情証明書または検査成績書			
☒ 鋼材	☒ 高力ボルト	☒ 特殊ボルト	☒ スタッド ボルト
☒ 社内検査表	☐		☐

(3) 工事監理者に検査報告連絡 指示を受けるもの

☐ 現寸検査	☒ 組立、開先検査	☒ 製品検査
☒ 建方検査	☐	☐

(4) 接合部の割裂は下記によること

☐	東京都アーク溶接工事管理基準	(建築構造設計指針第12章)
☒	鉄骨造建築物の溶接工事に関する指針指針	(建築構造設計指針第12章)
☒	日本建築学会「溶接工作基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」	

(5) 溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること

● 溶接部及び接合部の検査報告

	A O Q L (%)	檢查水準
・ 工場溶接	□4 . 0 □2 . 5	□第6水準 □第 水準
・ 現場溶接	□4 . 0 □2 . 5	□第6水準 □第 水準

現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

● 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態ですべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。

② 高カパリトの締付カギに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付カギの順序は締付が十分密着するよう注意して行う。また、締付カギは原則として2度締めとする。

締付後の検査は、各締付カギ工法別に適切な締付が行われているか検査する。

(6) 防錆塗装

● 防錆塗装の範囲は、高力バルト 接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは J I S K 5 6 2 1、2 回塗り を標準とする。

● 現場における高力バルト 接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し 2 回塗りとする。

■建築基準法施行令第129条の2の3の事項

※ 設計が該当する場合は、■とする。

■ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

- 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90 cm以下とすること。
- 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

- 風圧、土圧及び土圧並に地震その他の震動及び衝撃に對して安全上支障のない構造とする。
- 建築物の部分を通ずる場合に對して、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な震害の損傷防止のための措置を講ずること。
- 管の経路その他の要領により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、管の保護及び可視性を設ける等有効な震害防止のための措置を講ずること。
- 地震を支持し、又は固定する場合に對して、つぎの物及び固定方法に用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

□ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

■ 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示1388号第5に規定する構造方法によること。

※「給湯設備」：建築物における電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

建物概要等	構造関係共通事項（共通事項）	構造関係共通事項（配筋標準図）																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
1. 建物概要等 <table border="1"> <tr><td colspan="2">建物概要</td><td>備考</td></tr> <tr><td>工事名称</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>工事場所</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>延べ面積</td><td>()m²</td><td></td></tr> <tr><td>建築面積</td><td>()m²</td><td></td></tr> <tr><td>階数</td><td>地上()階 地下()階 地盤()階</td><td>階数に算入しない階・無し・有り()</td></tr> <tr><td>高さ関係</td><td>高さ()m 軒高()m</td><td></td></tr> <tr><td>工事種別</td><td>・新築・増築・改築・移転 ・大規模の修繕・大規模の模様替</td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="2">構造概要</td><td>備考</td></tr> <tr><td>構造種別</td><td>地上()階～()階()造 地下()階～()階()造</td><td></td></tr> <tr><td>架構形式</td><td>X方向()構造 Y方向()構造</td><td></td></tr> <tr><td>耐震構造方式</td><td>・耐震構造・制振構造 ・免震構造(免震層の位置・基礎下発表・中間階免震()階)</td><td></td></tr> <tr><td>基礎方式</td><td>・直接基礎・独立・連続・べた・ ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭・既製コンクリート杭)</td><td>適用箇所は図示による()</td></tr> <tr><td>耐震安全性の分類</td><td>・Ⅰ類(1.5)・Ⅱ類(1.25)・Ⅲ類(1.0)</td><td></td></tr> </table> 2. 構造設計条件等 <table border="1"> <tr><td colspan="2">計算方法</td><td>X方向</td><td>Y方向</td><td>備 考</td></tr> <tr><td>許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>許容応力度等計算 【ルート2】</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>保有水平耐力計算 【ルート3】</td><td></td><td></td><td></td><td>X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する</td></tr> <tr><td>限界耐力計算</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>その他の計算法()</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>特別な検証法(時刻歴応答解析による)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>大臣認定(認定番号)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>指定性能評価機関名()</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>評価・高層評価・免震評価・その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>評価番号</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="2">外力等</td><td>備考</td></tr> <tr><td rowspan="4">地震力</td><td>設計用一次固有周期</td><td>()秒</td></tr> <tr><td>地震地域係数(Z)</td><td>Z=・1.0 ○0.9 ・0.8 ・0.7</td></tr> <tr><td>地盤の種別</td><td>第()種地盤 Tc=()秒</td></tr> <tr><td>標準せん断力係数</td><td>X方向 Y方向</td></tr> <tr><td rowspan="2">風圧力(施行令第87条)</td><td>一次設計</td><td>C_s=() C_s=()</td></tr> <tr><td>二次設計</td><td>C_s=() C_s=()</td></tr> <tr><td rowspan="2">風圧力(施行令第82条の4)</td><td>地表面粗度区分</td><td>基準風速(V₀) 速度圧(q)</td></tr> <tr><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</td><td>(30)m/s</td></tr> <tr><td rowspan="2">風圧力(施行令第82条の4)</td><td>地表面粗度区分</td><td>基準風速(V₀) 平均速度圧(q)</td></tr> <tr><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</td><td>(30)m/s</td></tr> <tr><td rowspan="4">積雪荷重</td><td>区域</td><td>・多雪区域 ○多雪区域以外</td></tr> <tr><td>設計垂直積雪量</td><td>(70)cm</td></tr> <tr><td>単位荷重</td><td>(20)N/m²/cm</td></tr> <tr><td>垂直積雪量の低減</td><td>・低減する ○低減しない</td></tr> </table> 3. 地盤調査資料 ※当該敷地の既往調査報告書 ・構造図による 4. 液状化対策 ・有り (範囲・工法・仕様・計測・試験等については構造図を参照) ○無し	建物概要		備考	工事名称			工事場所			延べ面積	()m ²		建築面積	()m ²		階数	地上()階 地下()階 地盤()階	階数に算入しない階・無し・有り()	高さ関係	高さ()m 軒高()m		工事種別	・新築・増築・改築・移転 ・大規模の修繕・大規模の模様替		構造概要		備考	構造種別	地上()階～()階()造 地下()階～()階()造		架構形式	X方向()構造 Y方向()構造		耐震構造方式	・耐震構造・制振構造 ・免震構造(免震層の位置・基礎下発表・中間階免震()階)		基礎方式	・直接基礎・独立・連続・べた・ ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭・既製コンクリート杭)	適用箇所は図示による()	耐震安全性の分類	・Ⅰ類(1.5)・Ⅱ類(1.25)・Ⅲ類(1.0)		計算方法		X方向	Y方向	備 考	許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】					許容応力度等計算 【ルート2】					保有水平耐力計算 【ルート3】				X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する	限界耐力計算					その他の計算法()					特別な検証法(時刻歴応答解析による)					大臣認定(認定番号)					指定性能評価機関名()					評価・高層評価・免震評価・その他					評価番号					外力等		備考	地震力	設計用一次固有周期	()秒	地震地域係数(Z)	Z=・1.0 ○0.9 ・0.8 ・0.7	地盤の種別	第()種地盤 Tc=()秒	標準せん断力係数	X方向 Y方向	風圧力(施行令第87条)	一次設計	C _s =() C _s =()	二次設計	C _s =() C _s =()	風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V ₀) 速度圧(q)	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(30)m/s	風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V ₀) 平均速度圧(q)	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(30)m/s	積雪荷重	区域	・多雪区域 ○多雪区域以外	設計垂直積雪量	(70)cm	単位荷重	(20)N/m ² /cm	垂直積雪量の低減	・低減する ○低減しない	構-1 総則 1.1 適用範囲 (1) 構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。 (2) 構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。 1.2 優先順位 設計図書(の図面のうち建築構造図に相連がある場合)の優先順位は以下のとおりとする。 1. 構造図及び構造関係共通事項(共通事項) 2. 構造関係共通事項(配筋標準図)、構造関係共通事項(鉄骨標準図) 1.3 用語の定義 (1) 構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。 (2) 異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。 (3) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。 1.4 記号等 図面で使用する記号等は表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。 <table border="1"> <tr><td colspan="9">表1.1 異形鉄筋の断面表示記号</td></tr> <tr><td>区分</td><td>径</td><td>D10</td><td>D13</td><td>D16</td><td>D19</td><td>D22</td><td>D25</td><td>D29</td><td>D32</td></tr> <tr><td>建築</td><td></td><td>○</td><td>×</td><td>◇</td><td>○</td><td>○</td><td>⊙</td><td>⊗</td><td>⊙</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="4">表1.2 各階伏図における記号</td></tr> <tr><td>記号</td><td>説明</td><td>記号</td><td>説明</td></tr> <tr><td>○S</td><td>スラブの配筋種別</td><td>⊕</td><td>杭の位置</td></tr> <tr><td>◇</td><td>スラブ厚さ</td><td>⊕</td><td>試験杭の位置</td></tr> <tr><td>○</td><td>階段の配筋種別</td><td>▨</td><td>打増しの範囲</td></tr> <tr><td>○DO</td><td>土間コンクリート</td><td>⊗</td><td>スラブ開口</td></tr> <tr><td>□□□</td><td>コンクリートブロック壁(CB壁)</td><td>⊕</td><td>ボーリング位置</td></tr> <tr><td>▨</td><td>梁・スラブの上り下り下りの範囲</td><td>(±)</td><td>FLからの上り下り</td></tr> <tr><td>EW○○ EKW○○ ERW○○</td><td>耐力壁 片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁 土圧を受け、かつ耐力壁</td><td></td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="16">表1.3 梁貫通孔記号</td></tr> <tr><td>区分</td><td>径</td><td>50</td><td>75</td><td>100</td><td>125</td><td>150</td><td>175</td><td>200</td><td>225</td><td>250</td><td>275</td><td>300</td><td>325</td><td>350</td><td>375</td><td>400</td></tr> <tr><td>建築</td><td></td><td>○</td><td>×</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="5">表1.4 スリーブ材質の凡例</td></tr> <tr><td>管 名</td><td>鋼 管</td><td>溶融亜鉛めっき鋼板</td><td>硬質塩化ビニル管(薄肉管)</td><td>つば付き鋼管(黒管)</td></tr> <tr><td>記号(建築用)</td><td>SP(白管)</td><td>GA</td><td>VU</td><td>RS</td></tr> </table> ※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。	表1.1 異形鉄筋の断面表示記号									区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	建築		○	×	◇	○	○	⊙	⊗	⊙	表1.2 各階伏図における記号				記号	説明	記号	説明	○S	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置	◇	スラブ厚さ	⊕	試験杭の位置	○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲	○DO	土間コンクリート	⊗	スラブ開口	□□□	コンクリートブロック壁(CB壁)	⊕	ボーリング位置	▨	梁・スラブの上り下り下りの範囲	(±)	FLからの上り下り	EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁 片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁 土圧を受け、かつ耐力壁			表1.3 梁貫通孔記号																区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400	建築		○	×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	表1.4 スリーブ材質の凡例					管 名	鋼 管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管(薄肉管)	つば付き鋼管(黒管)	記号(建築用)	SP(白管)	GA	VU	RS	1.1 鉄筋の加工 鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。 表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">折曲げ角度</th><th rowspan="2">折曲げ図(余長)</th><th colspan="3">折曲げ内法直径(D)</th></tr> <tr> <th>鉄筋の種類</th><th>SD295A SD295B、SD345</th><th>SD390</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td>呼び名</td><td>D16以下</td><td>D19～D38</td></tr> <tr> <td>180°</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>135°</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>90°</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> </tr></table>	折曲げ角度	折曲げ図(余長)	折曲げ内法直径(D)			鉄筋の種類	SD295A SD295B、SD345	SD390			呼び名	D16以下	D19～D38	180°					135°					90°				
建物概要		備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
工事名称																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
工事場所																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
延べ面積	()m ²																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
建築面積	()m ²																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
階数	地上()階 地下()階 地盤()階	階数に算入しない階・無し・有り()																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
高さ関係	高さ()m 軒高()m																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
工事種別	・新築・増築・改築・移転 ・大規模の修繕・大規模の模様替																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
構造概要		備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
構造種別	地上()階～()階()造 地下()階～()階()造																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
架構形式	X方向()構造 Y方向()構造																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
耐震構造方式	・耐震構造・制振構造 ・免震構造(免震層の位置・基礎下発表・中間階免震()階)																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
基礎方式	・直接基礎・独立・連続・べた・ ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭・既製コンクリート杭)	適用箇所は図示による()																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
耐震安全性の分類	・Ⅰ類(1.5)・Ⅱ類(1.25)・Ⅲ類(1.0)																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計算方法		X方向	Y方向	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
許容応力度等計算 【ルート2】																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
保有水平耐力計算 【ルート3】				X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
限界耐力計算																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
その他の計算法()																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
特別な検証法(時刻歴応答解析による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
大臣認定(認定番号)																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
指定性能評価機関名()																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
評価・高層評価・免震評価・その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
評価番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
外力等		備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地震力	設計用一次固有周期	()秒																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	地震地域係数(Z)	Z=・1.0 ○0.9 ・0.8 ・0.7																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	地盤の種別	第()種地盤 Tc=()秒																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	標準せん断力係数	X方向 Y方向																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
風圧力(施行令第87条)	一次設計	C _s =() C _s =()																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	二次設計	C _s =() C _s =()																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V ₀) 速度圧(q)																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(30)m/s																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V ₀) 平均速度圧(q)																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(30)m/s																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
積雪荷重	区域	・多雪区域 ○多雪区域以外																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	設計垂直積雪量	(70)cm																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	単位荷重	(20)N/m ² /cm																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	垂直積雪量の低減	・低減する ○低減しない																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
表1.1 異形鉄筋の断面表示記号																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32																																																																																																																																																																																																																																																																																												
建築		○	×	◇	○	○	⊙	⊗	⊙																																																																																																																																																																																																																																																																																												
表1.2 各階伏図における記号																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
記号	説明	記号	説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○S	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
◇	スラブ厚さ	⊕	試験杭の位置																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○DO	土間コンクリート	⊗	スラブ開口																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
□□□	コンクリートブロック壁(CB壁)	⊕	ボーリング位置																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
▨	梁・スラブの上り下り下りの範囲	(±)	FLからの上り下り																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁 片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁 土圧を受け、かつ耐力壁																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
表1.3 梁貫通孔記号																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400																																																																																																																																																																																																																																																																																					
建築		○	×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+																																																																																																																																																																																																																																																																																					
表1.4 スリーブ材質の凡例																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
管 名	鋼 管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管(薄肉管)	つば付き鋼管(黒管)																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
記号(建築用)	SP(白管)	GA	VU	RS																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
折曲げ角度	折曲げ図(余長)	折曲げ内法直径(D)																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		鉄筋の種類	SD295A SD295B、SD345	SD390																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		呼び名	D16以下	D19～D38																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
180°																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
135°																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
90°																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

(注) 1. L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)
2. L_b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持小梁及び片持スラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、 L_1 は表3.1に、 L_2 及び L_3 は表3.3による。

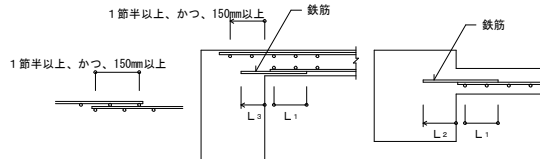


図3.4 溶接金網の継手及び定着

(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

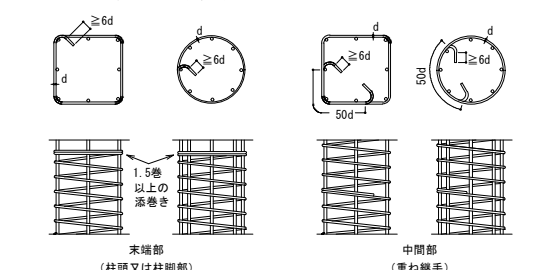


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にD 29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表 4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ				
構造部分の種別			最小かぶり厚さ (mm)	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20	
		仕上げなし	30	
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁、耐圧スラブ		40	
	土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		40
基礎、擁壁、耐圧スラブ		60		
煙突等高熱を受ける部分		60		

(注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10 mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
(1) 細骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25 mm
(3) 隣り合う鉄筋の径の平均（呼び名の数値）の1.5倍

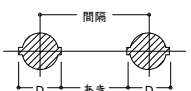


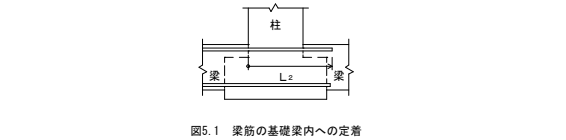
図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

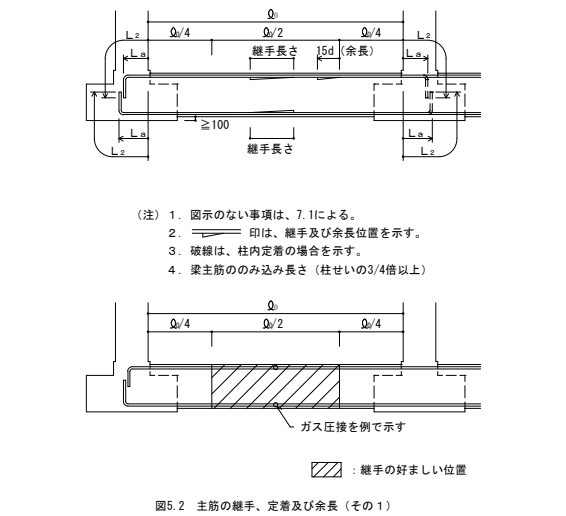
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

(a) 一般事項
(1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。



(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。

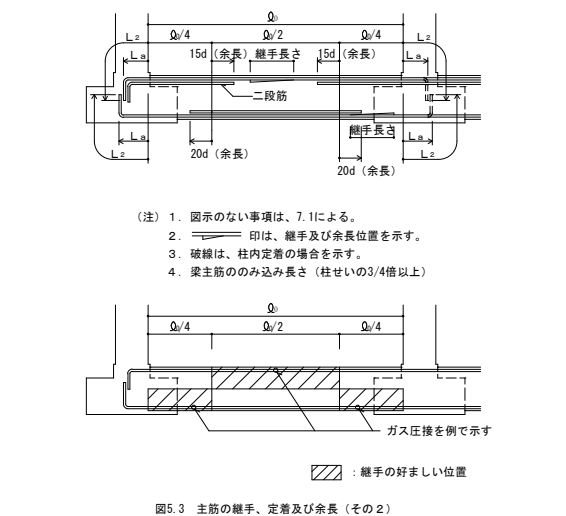
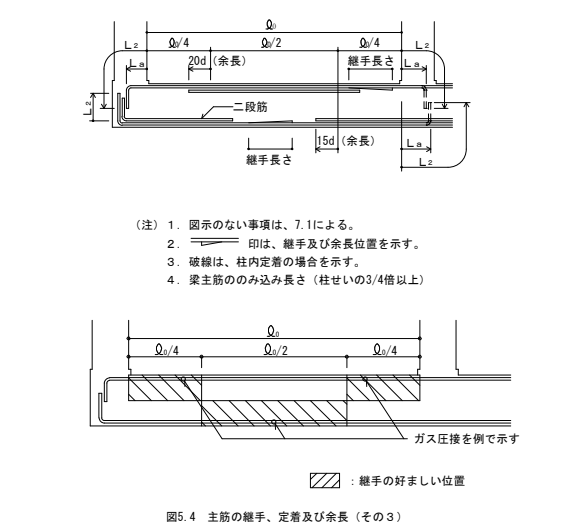


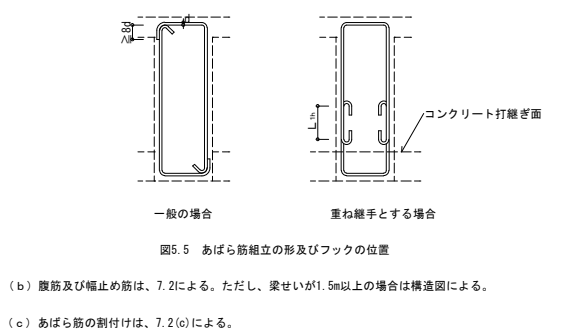
図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



5.2 基礎梁のあばら筋等

(a) 一般事項
(1) あばら筋の径および間隔は、構造図による。
(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。



6.1 柱

(a) 一般事項
(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4 (hoは柱の内法高さ) 以下とする。
(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

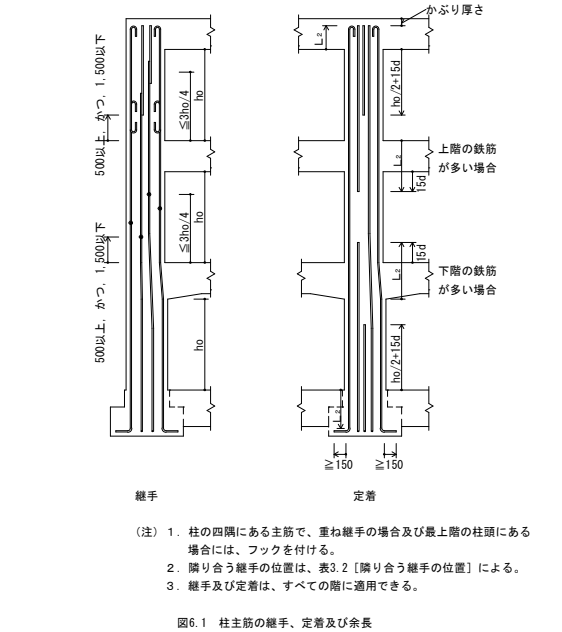
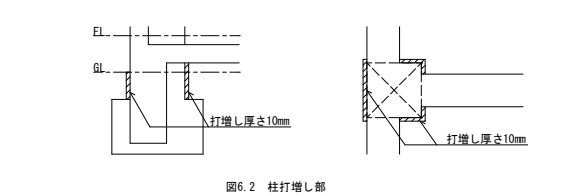


図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

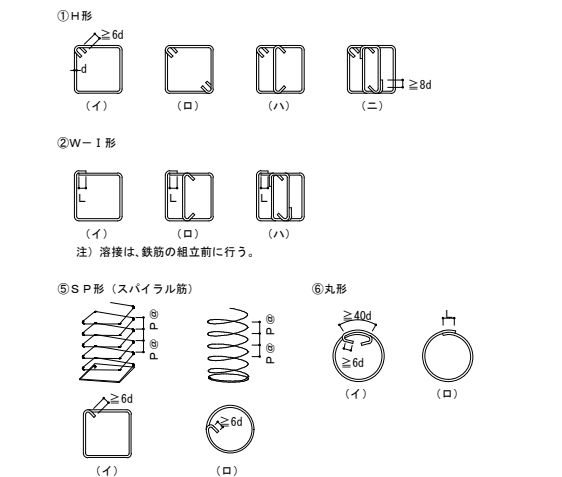
(b) 柱打増し部
(1) 打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合の壁、梁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。
(2) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。



6.2 帯筋

(a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。

(b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。
(1) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(2) 溶接する場合の溶接長さ L_1 は、両面フレア溶接の場合は5 d以上、片面フレア溶接の場合は10 d以上とする。
(3) S-P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。



(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は構造図による。

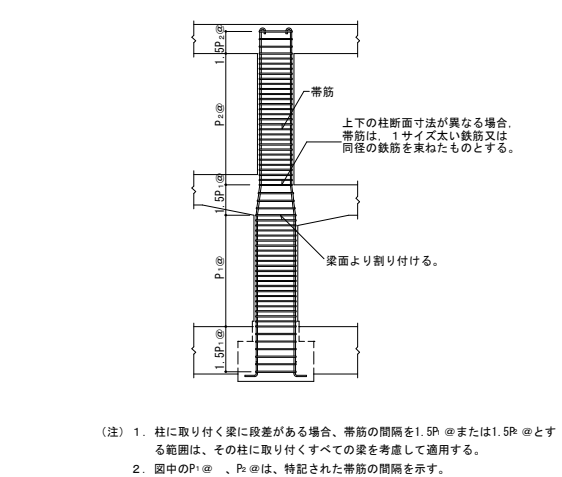
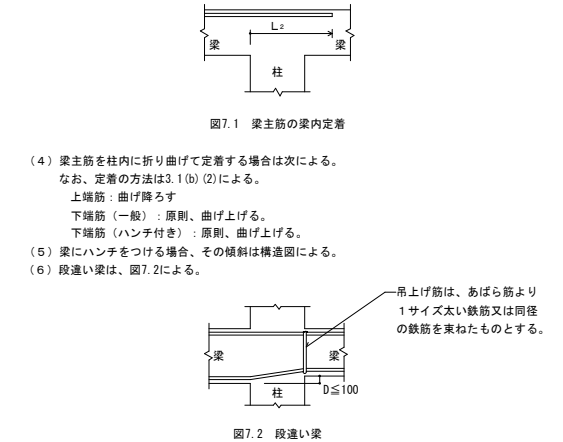


図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

(a) 一般事項
(1) 梁の上がり下がりは F_L を基準とした寸法値とする。
(2) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は構造図による。
(3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合のスラブ、壁、梁筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
(1) 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 $Q_o/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、 $Q_o/4$ を加えた範囲以内
(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
(3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。



(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。

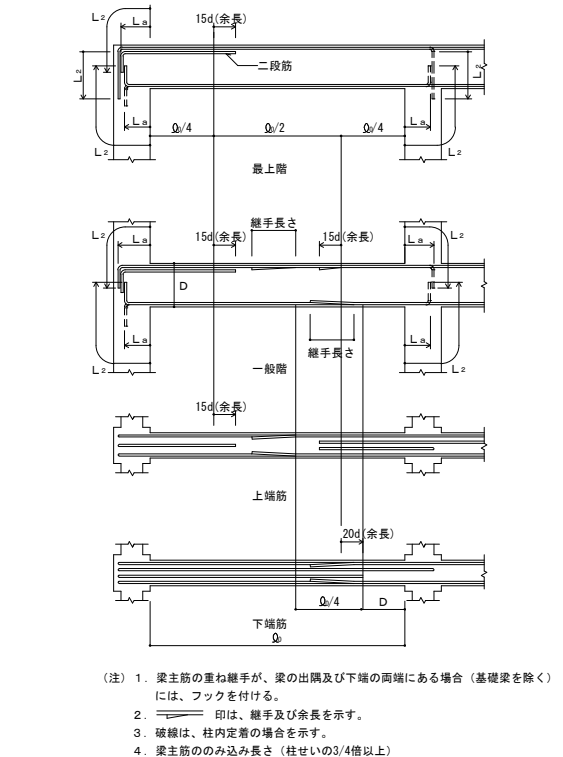


図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。

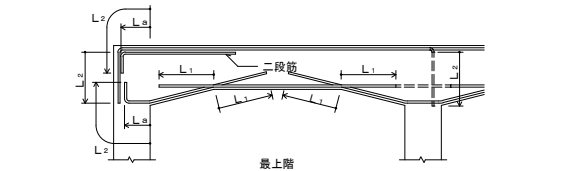


図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。
(2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さは、定着長さは構造図による。
(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

(b) あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、図7.5 (イ) とする。
ただし、L形梁の場合は、(ロ) または (ハ)、T形梁の場合は (ロ) ~ (ニ) とすることができる。
(2) フックの位置

i. (イ) の場合は交互とする。
ii. (ロ) の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
iii. (ハ) の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

(c) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。

図7.6 あばら筋の割付け (その1)

(2) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7.7による。

図7.7 あばら筋の割付け (その2)

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け (その3)

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@、P' @は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

(d) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁は、図7.9による。

図7.9 腹筋および幅止め筋

600 ≤ D < 900 900 ≤ D < 1,200 1,200 ≤ D < 1,500

7.3 小梁

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

(c) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

(1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、余長位置を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからぶり厚さを除いた長さとする。

(2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。

図7.13 片持梁主筋の定着

(b) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

(a) 一般事項

(1) 壁配筋の重ね継手の長さはL₁、定着の長さはL₂とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
(2) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
(3) 打増し部分に、壁、スラブ等が取り付く場合の壁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

図8.1 壁の配筋

(注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

(b) 壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。

表8.1 壁の配筋

(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

(e) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。
なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

(2) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。
(2) 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は構造図による。
(3) 土間コンクリート補強筋 (D0) の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
(4) スラブの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.1 S形配筋

図9.1 スラブの配筋

(5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(6) 鉄筋の重ね継手長さは、L₁とする。
(7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

9.2 片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、構造図による。
片持スラブの配筋は、次による。

(1) 片持スラブの配筋 (C形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

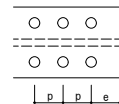
表9.2 C形配筋

構造関係共通事項 (鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

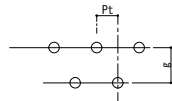
(a) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位mm)		
ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70



(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位mm)			
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt ねじの呼び		
	M12, M16, M20, M22	M24	
35	50	65	
40	45	60	
45	40	55	
50	35	50	
55	25	45	
60	-	40	



(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径
形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位mm)

又はB	g ¹	g ²	最大軸径	B	g ¹	g ²	最大軸径	B	g ¹	最大軸径
45	25	12	100	56	16	50	30	12		
50	28	16	125	75	16	65	35	20		
60	35	16	150	90	22	70	40	20		
65	35	20	175	105	22	75	40	22		
70	40	20	200	120	24	80	45	22		
75	40	22	250	150	24	90	50	24		
80	45	22	300	150	40 ^{※1)}	24	100	55	24	
90	50	24	350	140	70	24				
100	55	24	400	140	90	24				
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1 千鳥打ちとした場合

(d) ボルト記号

表1.4 高力ボルト径の記号							
区分	径	M12	M16	M20	M22	M24	
高力ボルト (F10T, S10T)	○	Φ	Φ	Φ	Φ	Φ	米
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)	△	Φ	Φ	Φ	Φ	Φ	米

表1.5 普通ボルト径の記号							
区分	径	M12	M16	M20	M22	M24	
普通ボルト	○	Φ	Φ	Φ	Φ	Φ	米

表1.6 溶接継手及び溶接面の分類別記号

溶 接 継 手	分 類		記 号
	完全溶込み溶接	突合わせ継手 T型継手 かど継手	
溶 接 面	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フラア溶接		FL
	片面溶接		1
	両面溶接		2

表1.7 溶接の補助記号

区 分	補助記号
現 場 溶 接	▲
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	○▲
断続溶接の長さ及び間隔	L-P

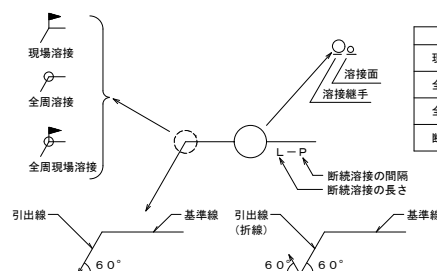


図1.1 溶接記号の記載例

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合わせ継手(B)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12		t ≤ 12		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22		12 < t ≤ 22		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

T型継手(T)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12		t ≤ 12		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22		12 < t ≤ 22		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

部材が直交しない場合の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	19 < t ≤ 40
6 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40
1/4 t ≤ S ≤ 10		1/4 t ≤ S ≤ 10

かど継手(L)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12		t ≤ 12		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

隅肉溶接(F)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	16 < t ≤ 40
t ≤ 16		16 < t ≤ 40
1/4 t ≤ S ≤ 10		1/4 t ≤ S ≤ 10

隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
a	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接(P)の開先標準

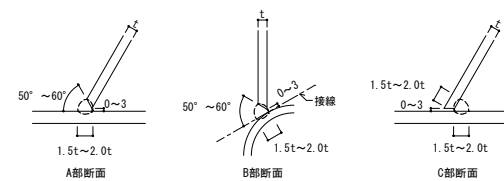
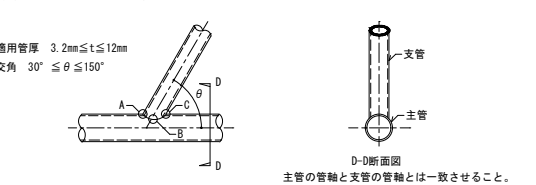
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40	
16 ≤ t ≤ 40	
1/4 t ≤ S ≤ 10	

フラア溶接(FL)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3		t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3	

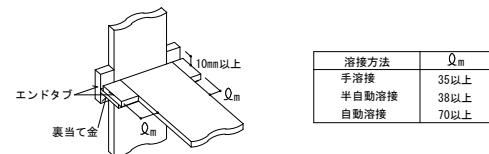
1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。



1-4 鉄骨溶接施工

(a) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
(b) エンドタブ
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



(c) 裏当て金
(1) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。
(2) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

溶接方法		Q _m
手溶接	35以上	
半自動溶接	38以上	
自動溶接	70以上	

溶接のサイズ		裏当て金の厚さ
t ≤ 9	5	
t > 9	9	

(d) スカラップ

改良型スカラップ

(1) スカラップ半径 Sr_1 は35mmとする。 Sr_2 は10mmとする。

(2) スカラップ内弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

従来型スカラップ

(1) スカラップ半径 Sr は35mmとする。

(e) スニップカット

(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

スニップカット

Sc

(2) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc \geq r + 2$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

(f) 溶接部分の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合

1/2.5以下

(g) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-I1, 15	40以下	350以下
		YGW-I8, 19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	40以下	350以下
		T490Tx-yMA-U		
		T550Tx-yCA-U	30以下	450以下
490N級鋼	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm ² 以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
		YGW-I1, 15	30以下	250以下
	JIS Z 3312	YGW-I8, 19	40以下	350以下
		YGW-I8, 19	40以下	350以下
520N級鋼		T490Tx-yCA-U	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U	40以下	350以下
		T550Tx-yMA-U		
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm ² 以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
400N級STKR、 BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-I8, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yMA-U		
	JIS Z 3312	YGW-I1, 15	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	30以下	250以下
		T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
490N級STKR、 及びBCP	JIS Z 3312	YGW-I8, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yMA-U		

1-5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合の溶接長さ（L）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

L: 片面フレア溶接の場合 10d

両面フレア溶接の場合 5d

L a 及び L b は1 d（軽量形鋼については1 S）以上

d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値

S: 溶接のサイズ

L a

L

L b

1-6 梁貫通孔補強

(a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。

(1) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。

(2) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

貫通孔の位置の限度（単位：mm）

H: 鉄骨せい
D: はりせい
φ: 貫通孔の内径寸法
(φ ≤ H/2かつφ ≤ D/3)

(b) 貫通孔の補強方法は、構造図による。

(1) 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

(1) 補強プレート厚が16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。

(2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

補強トラス法

(1) スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。

1-7 壁筋の周辺部材への定着

梁への定着方法

柱への定着方法

1-8 柱組立筋

組立筋
6φ-1000E

D13以上の組立筋（柱幅≥700mm）

1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。

1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

(単位：mm)

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

小梁下端主筋が貫通する場合

小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）

(bs): 主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 普通ボルト接合

もや、鋼縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

TITLE	NAME	SCALE		株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S - 07 /
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	構造標準 (6)	—			R06.03			
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					

1. NDコア仕様

部材記号	長さ(mm)	設計記号 ※1	数量(個)	斜め切断(勾配)
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 () 度、寸

※1 設計記号は、部材記号-長さ(mm)で記入する。(例)ND300-600、ND200-550

(1) NDコアの形状寸法および重量

外径B※2		板厚t	単位質量	長さ範囲※3	材質	断面形状※4※5	
部材記号	(mm)	(mm)	(kg/m)	(mm)			
ND150	152	16.5	69.8	150～	SN490B		
ND175	177	17.0	85.1				
ND200	202	22.0	124		SN490B-ND※6		
ND250	252	24.0	184				
ND300	302	29.0	265				
ND350	352	33.8	360				SN490B-ND※6
ND400	402	38.6	470				

※2 コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径Bを基準寸法としている。

※3 NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。

※4 NDコア側面には溶接ビードの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするかもしくは梁ウェブを切り欠くなど適切に処置すること

※5 NDコアの角部に突起が生じると干渉する場合、はり取付時にグラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。

※6 SN490B-ND 日本産業規格JIS G 3136(建築構造用圧延鋼材)2012の9形状、寸法、質量およびその許容差には適合していないが、当該JISに示されるSN490Bの4化学成分、6炭素当量及び溶接割れ感受性組成、7機械的性質 10外観、11試験、12検査、13再検査の各規定に適合している。

※7 NDコアの表面に錆が発生していることがあります。梁との溶接時に支障となる錆は除去して下さい。

(2) 適用する柱およびはり材

a) 適用する柱材の材質および規格

- ・建築構造用冷間成形角形鋼管 BCR295
- ・一般構造用角形鋼管(JIS G 3466) STKR400

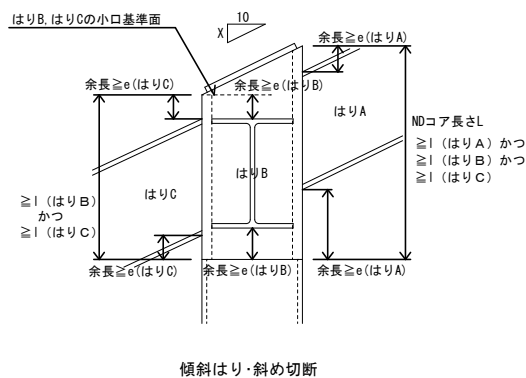
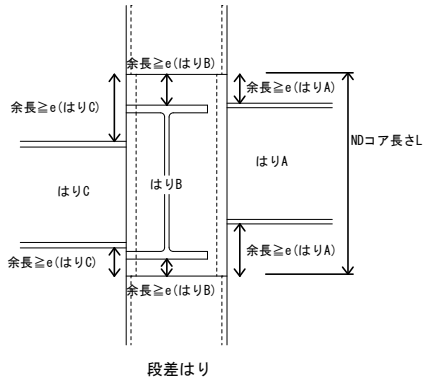
b) 適用するはり材の材質および規格:下記規格のH形鋼

- ・建築構造用圧延鋼材(JIS G 3136) SN400B、C
- ・一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) SS400
- ・溶接構造用圧延鋼材(JIS G 3106) SM400A、B

2. NDコア仕様の決め方

(1) NDコア長さLの設定方法と注意点

- a) NDコアの長さLは、取付く各はり(最大で4方向)全てに対して、最小余長eを確保し、かつ最小長さl以上となるようにする。
最小余長e、最小長さlは柱はりの組合せで決まっている寸法であり「設計・施工標準仕様書【柱はり組合せ編】」を参照する。
- b) はりに傾斜がある場合には、はり取り付け部の長さの増加を加えてNDコア長さを設定すること。
- c) 柱頭部上部を斜め切断仕様とする場合は、それぞれの接合面に対応する小口において、最小余長e、最小長さlを確保する。
小口が傾斜している面では、低い位置を基準として最小余長e、最小長さlを確保する。
- d) 柱頭部の斜め切断の勾配は45°(10寸勾配)以下とする。(斜め切断は一方のみとし、部分切断は不可)



(2) 柱頭部仕様

- a) 柱頭部では、NDコア小口面に下表に示す補強プレートを取り付けること。
- b) 柱頭部を斜め切断する場合は、片流れの切断とし、切断角度は45°以下とする。
(斜め切断は一方のみとし、部分切断は不可)
- c) 柱頭部を斜め切断した場合は、はりの傾斜は切断角度以下とする。
- d) どぶ付けめっきのため補強プレートに開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。

補強プレート仕様				
NDコア部材記号	斜め切断無し 寸法(mm)	板厚(mm)	斜め切断有り 寸法(mm)	板厚(mm)
ND150	130×130	≥6	130×PL	≥6
ND175	155×155		155×PL	
ND200	170×170	≥9	170×PL	≥9
ND250	220×220		220×PL	
ND300	270×270	≥12	270×PL	≥12
ND350	310×310		310×PL	
ND400	360×360	≥16	360×PL	≥16

材質: SN400A、B、C、SS400、SM400A、B、C

【NDコア長さLの採り方例】

段違い形式はり	柱頭部	傾斜はり	斜め切断

3. 鉄骨躯体の設計方法

- a) NDコアは柱・はり組合せ表の範囲において柱、はりに対して、許容応力度設計、保有耐力接合条件を満足しており、あらかじめ接合部の検討は不要である(【柱はり組合せ編】参照)。
- b) NDコアを用いた柱はり接合部では、通しダイアフラム形式の架構と同様に節点を剛とし、柱およびはりを線材置換して、鉄骨フレームの設計を行うことができる。
- c) NDコアを用いた柱およびはり等の鉄骨フレームの設計については、下記の規基準等によるものとし、通常の設計フローに従って、部材の設計、架構解析、耐力の確認等を行う。ただし、ルート3を用いて設計をする場合、NDコアは適用範囲においてパネル崩壊とならないため、柱はり耐力比から崩壊形を判定して保有耐力の検討を行う。
- ・平成20年5月23日施行改正建築基準法
 - ・平成19年国土交通省告示第593号、第594号、第595号、第596号
 - ・(一財)日本建築センター「2015年版建築物の構造関係技術基準解説書」
 - ・同「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」

4. NDコア鉄骨製作要領

(1) 鉄骨製作方法

- a) NDコアと柱およびはりの接合は鉄骨製作者が行い、施工管理は鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者が行う。鉄骨製作に関し特に確認すべき事項については「NDコア鉄骨加工要領書」に示す。
- b) 記載なき事項については、(一社)日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS6鉄骨工事」、同「鉄骨工事技術指針」、および(一財)日本建築センター「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」による。

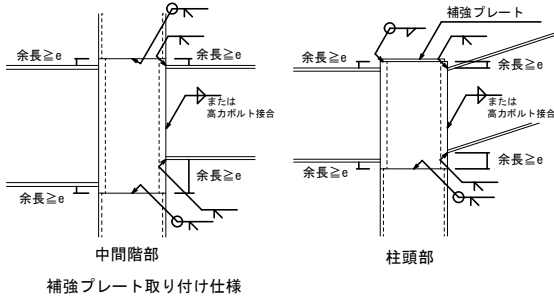
(2) 接合方法

- a) NDコアと柱およびはりフランジとの接合は完全溶け込み溶接とし、NDコアとはりウェブとの接合は隅肉溶接または高力ボルト接合とする。
- b) NDコアとはりの接合はNDコア小口面から余長e以上を確保して接合する。余長eは別紙「柱はり対応表」にて特記の無い限りは25mmとする。
- c) NDコアは、NDコア小口面から余長eを除いた全ての部分ではりの取り付けが可能だが、はり外面合せの場合、NDコアの角部分と裏当て金に隙間が生じたときは、隙間を溶接で埋めて本溶接を行う等適切に処置する。
- d) NDコアとはりとの接合の際、NDコア製作時の溶接余盛とはりが接触する場合は、グラインダで平滑に仕上げる等適切に処置する。

(3) 柱頭部補強プレート取り付け方法

- a) 柱頭部は、NDコア小口面に右表に示す仕様の補強プレートを全周隅肉溶接により取り付ける。
- b) 全周隅肉溶接は右表に示す溶接サイズで、490N級の溶接ワイヤを用いて行う。
- c) 柱頭部を斜め切断すると、NDコア小口面の長さが増加するため、右図を参考に、実状に合わせて補強プレートを準備する。

ルート1-1	通しダイアフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。
ルート1-2	
ルート2	
ルート3	通しダイアフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。 ただし、NDコア使用部においてパネル崩壊が生じないため、柱・はり耐力比から崩壊形を判定して、フレーム設計を行う。 崩壊形の判定に影響しない、柱頭部については、特別な検討は不要である。



補強プレート取り付け仕様

NDコア部材記号	斜め切断無し 寸法(mm)	板厚※ (mm)	斜め切断有り 寸法(mm)	板厚※ (mm)	隅肉溶接仕様 溶接サイズ(mm)
ND150	130×130	≥6	130×PL	≥6	≥6
ND175	155×155		155×PL		
ND200	170×170	≥9	170×PL	≥9	≥9
ND250	220×220		220×PL		
ND300	270×270	≥12	270×PL	≥12	≥12
ND350	310×310		310×PL		
ND400	360×360	≥16	360×PL	≥16	≥16

材質: SN400A、B、C、SS400、SM400A、B、C

※ 角落ち防止のため、板厚は1サイズアップを推奨する。

5. NDコア納まり例

(1) はり取り付け位置				(6) デッキプレート納まり
隅柱・側柱	中柱	中柱(柱径=はり幅)	はり芯が斜めの場合	
(2) 一般部	(3) 段違い形式はり	(4) スロープ	(7) NDコアと屋根用かさ上げ材の納まり	
一般部	はり下端の段差	バルコニー部の段差	スロープ部	
(5) 柱頭部	(8) 補強プレートどぶ付けめっき用開口			
陸屋根	棟部	桁部	桁部(斜め切断)	

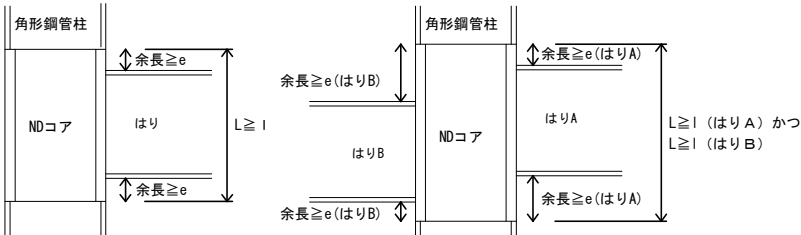
※ 柱頭上部の斜め切断の勾配は45°以下とすること

※ 開口位置・大きさについては、どぶ付けめっきメーカーと相談して決めることが望ましい。
※ 開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。

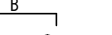
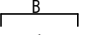
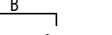
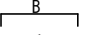
1. 表の見方

使用する柱（横軸）、はり（縦軸）を選択し、NDコアの必要最小長さ*l*と余長の必要最小寸法*e*を確認する
※1 記載の無い場合は25mmとする。記載がある場合、数値以上の余長を確保する。

- ・柱材：BCR295およびSTKR400の冷間ロール成形角形鋼管
- ・はり材：40N級（SS400、SM400、SN400B-C等）のJIS G 3192記載のH形鋼
- ・NDコア長さ*L*：NDコアの長さ
- ・最小長さ*l*：柱はり組合せで決まるNDコアの最小長さ
- ・余長：NDコア小口面から はりフランジ端面までの距離
- ・最小余長*e*：確保する余長の最小値



2. NDコアの形状および寸法

	外径 ^{※2}		板厚 ^t	単位質量	長さ範囲 ^{※3}		材質	断面形状 ^{※4※5}		
部材記号	(mm)	公差	(mm)	(kg/m)	(mm)	公差				
ND150	152	+2.0 -2.0	16.5	69.8	150~	+3.0 -0	SN490B			
ND175	177		17.0	85.1						
ND200	202		22.0	124						
ND250	252		24.0	184						
ND300	302		29.0	265			SN490B-ND ^{※6}			ND150~ND200
ND350	352		33.8	360						
ND400	402		38.6	470	SN490B-ND ^{※6}		ND250~ND400			

※2 コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径Bを基準寸法としている。

※3 NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。

※4 NDコア側面には溶接ビードの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするか、もしくは梁ウェブを切り欠くなど適切に処置すること。

※5 NDコアの角部に突起が生じて梁と干渉する場合、はり取付時にグラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。

※6 SN490B-ND 日本産業規格JIS G 3136（建築構造用圧延鋼材）2012の9形状、寸法、質量およびその許容差には適合していないが当該JISに示されるSN490Bの4化学成分、6炭素当量及び溶接割れ感受性組成、7機械的性質 10外観、11試験、12検査、13再検査の各規定に適合している。

3. 注意点

- ・組合せ表の最小長さ*l*、最小余長*e*は、はりの短期降伏耐力をはり全断面を有効として設定している。
- ・NDコアの標準的な納まり等は、「NDコア設計・施工標準仕様書【基本仕様編】」に記載している。
- ・NDコアの表面に錆が発生していることがあります。梁との溶接時に支障となる錆は除去して下さい。

4-2. ND250～ND350

柱	NDコア		ND250										ND300										ND350																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	径 (材質)	板厚	□250 (BCR295)					□250 (STKR400)					□300 (BCR295)					□300 (STKR400)					□350 (BCR295)					□350 (STKR400)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
			6	9	12	16	19	6	9	12	16	6	9	12	16	19	6	9	12	16	19	9	12	16	19	22	9	12	16	19	22																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
最小長さl 最小余長e		l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e	l	e																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
はり 中幅 系列	H-148×100×6×9	198		198		198		198		198		198		198		198		198		198		198		198		198		198		198		H-148×100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	H-194×150×6×9	244		244		244		244		244		244		244		244		244		244		244		244		244		244		244		H-194×150																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	H-244×175×7×11	335		310		294		294		294		320		300		294		294		294		294		294		294		294		294		H-244×175																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	H-294×200×8×12	344		400		380		344		344		344		394		354		370		353		344		344		344		344		344		H-294×200																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	H-340×250×9×14	390		390		390		492	75	445	50	390		390		390		390		460		466		435		395		390		470	35	455	422	430	407	390	390	390	435	420	390	390	390	H-340×250																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	H-390×300×10×16	NG										NG										440		440		440		575	90	560	85	440		440		440		440		505		440		565	70	525		488		445		440		440		542	60	515		480		H-390×300																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	H-440×300×11×18																					490		490		490		490		525		490		490		490		490		490		490		640	90	605	65	560		490		490		510		625	70	595	60	H-440×300																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	H-482×300×11×15																					532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		532		5

スリーエスG工法特記仕様書〔GBRC性能証明 第07-21号改2〕

1. 工 事 概 要

本地業は、セメントスラリーを用いたスラリー系機械攪拌式深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、現地盤をコラム状に固化する地盤改良を行うものである。

2. 一 般 事 項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（以下指針という）及びスリーエスG工法 品質・施工マニュアルによる工事を行う。

3. 特 記 事 項

- (1) コラムの径、掘削深度（改良長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。但し、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) コラム設計基準強度はFc=900kN/㎡、設計時に想定するF検定結果は既往の調査結果から変動係数の推定値を25%以下、不良率10%とする。
- (3) 施工法は改良体の変動係数が25%以下であることが、公的機関で証明されている工法とする。
- (4) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (5) セメントスラリーを用いた機械攪拌式深層混合処理工法のスリーエスG工法協会に所属する会員とする。
- (6) 工法の選定は、(財)日本建築総合試験所における性能証明を有する工法を選定する。
- (7) 品質及び施工管理は、スリーエスG工法品質・施工管理マニュアルに基づいて行うものとする。

4. 施 工 計 画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は次の事項を明記する。

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------|
| (1) 地盤概要 | (5) 施工機器及び仮設備と配置 |
| (2) 工事内容（コラム径・コラム長・空掘り長・コラム数・設計基準強度） | (6) 配合管理・施工管理・品質管理の方法 |
| (3) 工事期間及び工程 | (7) 建築技術性能証明書 |
| (4) 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等） | (8) その他、必要事項 |

5. 施 工 機 械

- (1) 攪拌翼はセメントスラリーと原位置土を確実に攪拌混合するための共回り現象を防止する攪拌装置を装備すること
- (2) 攪拌翼は上下にセメントスラリー吐出口を設け、掘削時に下吐出口から引上げ時に上吐出口からセメントスラリーを吐出可能な吐出切替構造であること
- (3) 所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること
- (4) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したものでリーダー付及び自走式タイプであること
- (5) ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給できる能力を有していること

6. 配 合 試 験

- (1) 本工事に先立ち現場から試料土を採取して、所定の室内配合試験を実施し、所要の強度が得られるよう配合条件を決定する。

試験名	室内配合試験
試料箇所数	1箇所

7. 配 合 管 理

- (1) セメントスラリーに使用する固化材は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
配合管理目標変動係数を想定し、「8. 品質検査」に規定する抜き取り箇所数Nから表 1 を用いてα_tを決め、配合強度X_fを設定する。

$$X_f = F_c \times \alpha_t$$

X_f: 配合強度
F_c: 設計基準強度
α_t: 割増係数

表1. 割増係数（L(p)=80%, Vd=25%の場合）

配合管理目標Vd	抜き箇所数(N)	1	2	3	4～6	7～8	9～
25%	割増係数α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

- (3) 配合量（固化材量とW/C）

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$$X_i = X_f / \alpha_{f1}$$

X_i: 室内配合強度
X_f: 配合強度
α_{f1}: 現場／室内強度比（強度比0.65；実績より）

暫定配合量300(kg/㎡)、W/C＝70% 【最終的には配合試験により決定する。】

8. 品 質 検 査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数。

- ① 検査対象群は概ねコラム300本を 1 単位とする。（※検査対象層は50cm以上の土層を対象とする。）
- ② 検査対象層（シルト、砂質シルト、シルト質砂）であり設計対象層を（シルト）とする。
- ③ 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。その場合は、選定工法による改良体の強度のバラツキデータを添付すること。
- ④ 調査箇所数（検査対象群に対して）

表2. 調査箇所数

検査手法A	頭部モールドコア試験試験		3箇所
	深部コア試験	全長ボーリングコア	1箇所
		モールドコア	2箇所

注記）深部コア採取の内、最低1箇所については機械ボーリングによる全長コア採取を行い、下記(2)コア採取率を調査する。
他の箇所については、モールドコアで行ってもよい。

- (2) コア採取率による調査

コアボーリング調査の内、検査対象群に1箇所の割合でコア採取率を調査する。

コア採取率が、全長に対して粘性土で90％、砂質土で95％、深さ 1 m ごとに粘性土で85％、砂質土で90％以上であることを確認する。

- (3) 可否の判定

- ① 設計対象層についての抜き取り 1 箇所に対して 3 個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は、公的機関、第三者機関または検査員立会いのもとに行うものとする。
- ③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aとする。

- ④ 検査手法Aによる品質検査

可否の判定は設計対象層におけるN箇所(抜き取り箇所数)の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$\bar{X}_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

$\bar{X}_N$: N箇所の一軸圧縮強度の平均値 (kN/㎡)

X_L : 合格判定値 (kN/㎡)

F_c : 設計基準強度 (kN/㎡)

k_a : 合格判定係数

σ_d : 標準偏差 (kN/㎡) (σ_d=V_d・ $\sqrt{qu_d}$)

V_d : 想定した強度の変動係数

qu_d : 想定した平均一軸圧縮強さ (kN/㎡)

抜き箇所数N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数K _a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

- (4) 六価クロム溶出試験

配合計画段階に、六価クロム溶出試験を実施し、試験結果(計量証明書)を提出するものとする。なお、試験方法はセメント

及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領によるものとする。

(環境庁第46号（土壌汚染に係る環境基準）による。)

検査検体数、検査対象層、基準値は下記のものとする。

検体数：1検体

対象層：設計対象層（シルト）

基準値：0.05 (mg/L) 以下

9. 工 事 報 告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- ① コラム伏図及び番号
- ② コラムの施工日
- ③ コラムの径及び改良長
- ④ 掘削深度
- ⑤ 固化材の配合と使用量
- ⑥ コア圧縮強度試験結果
- ⑦ 合格判定結果

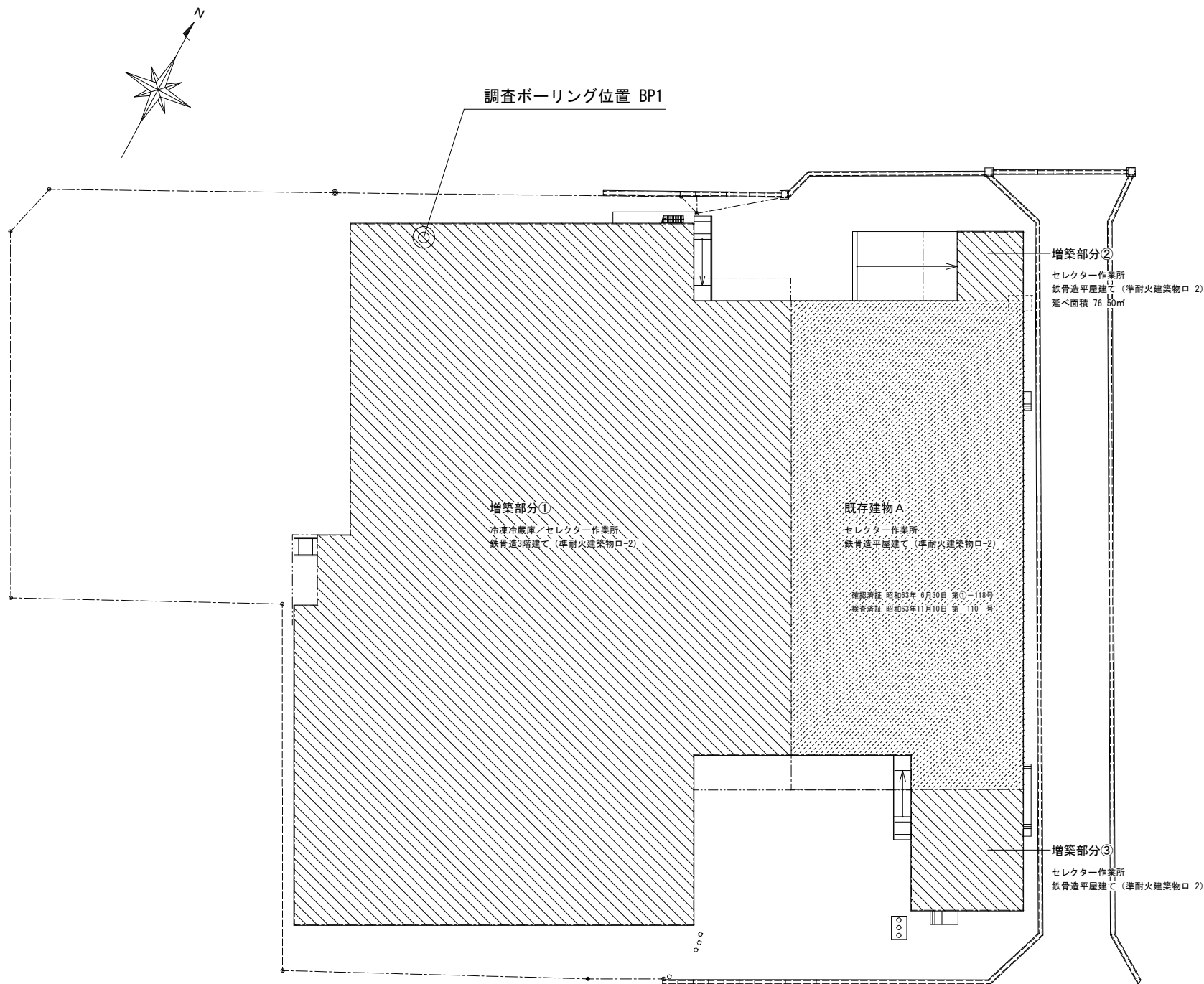
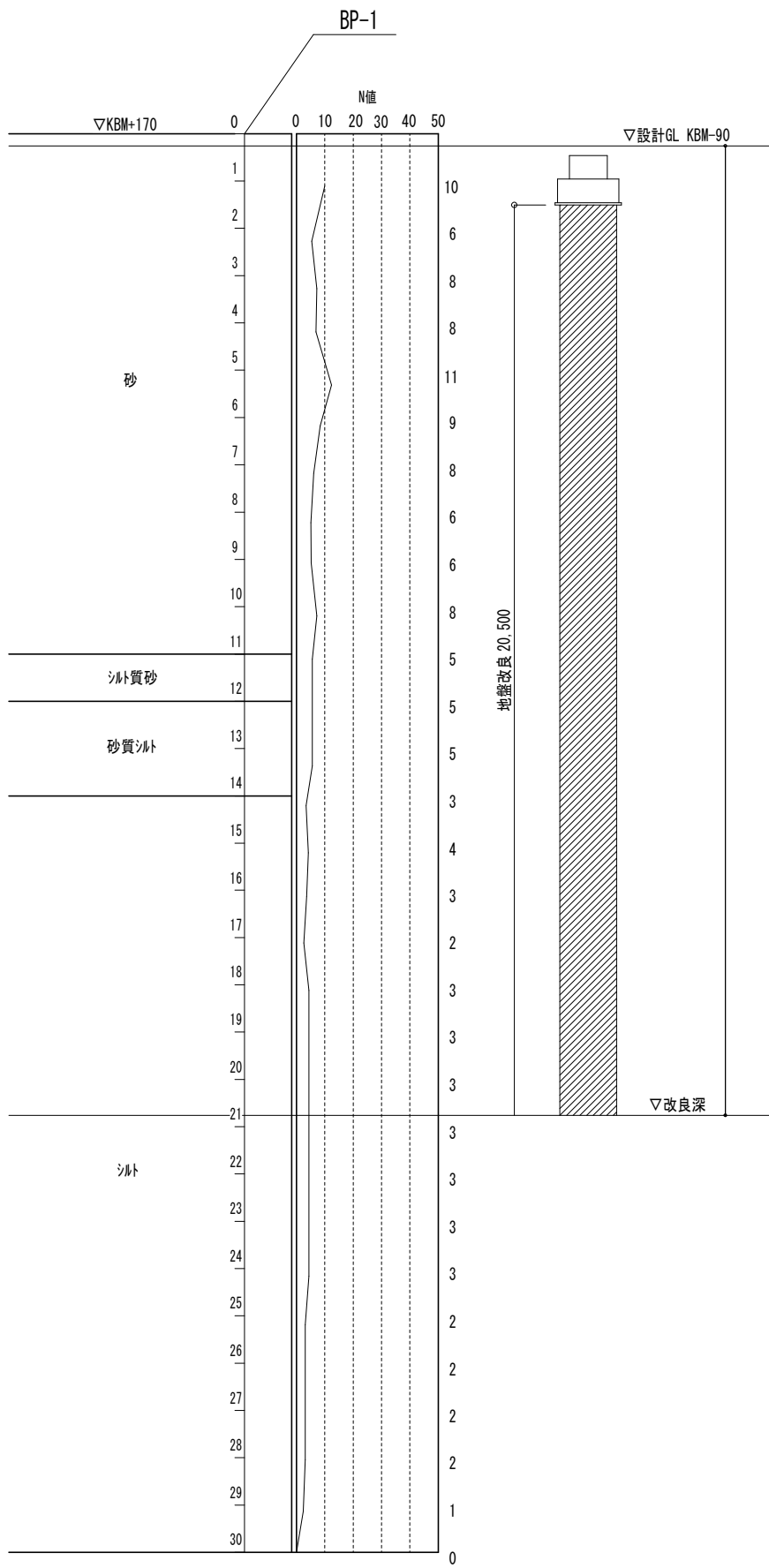
10. その他

本工事は、施工計画等に関する施工実績及び技術資料を受け付けた工事である。

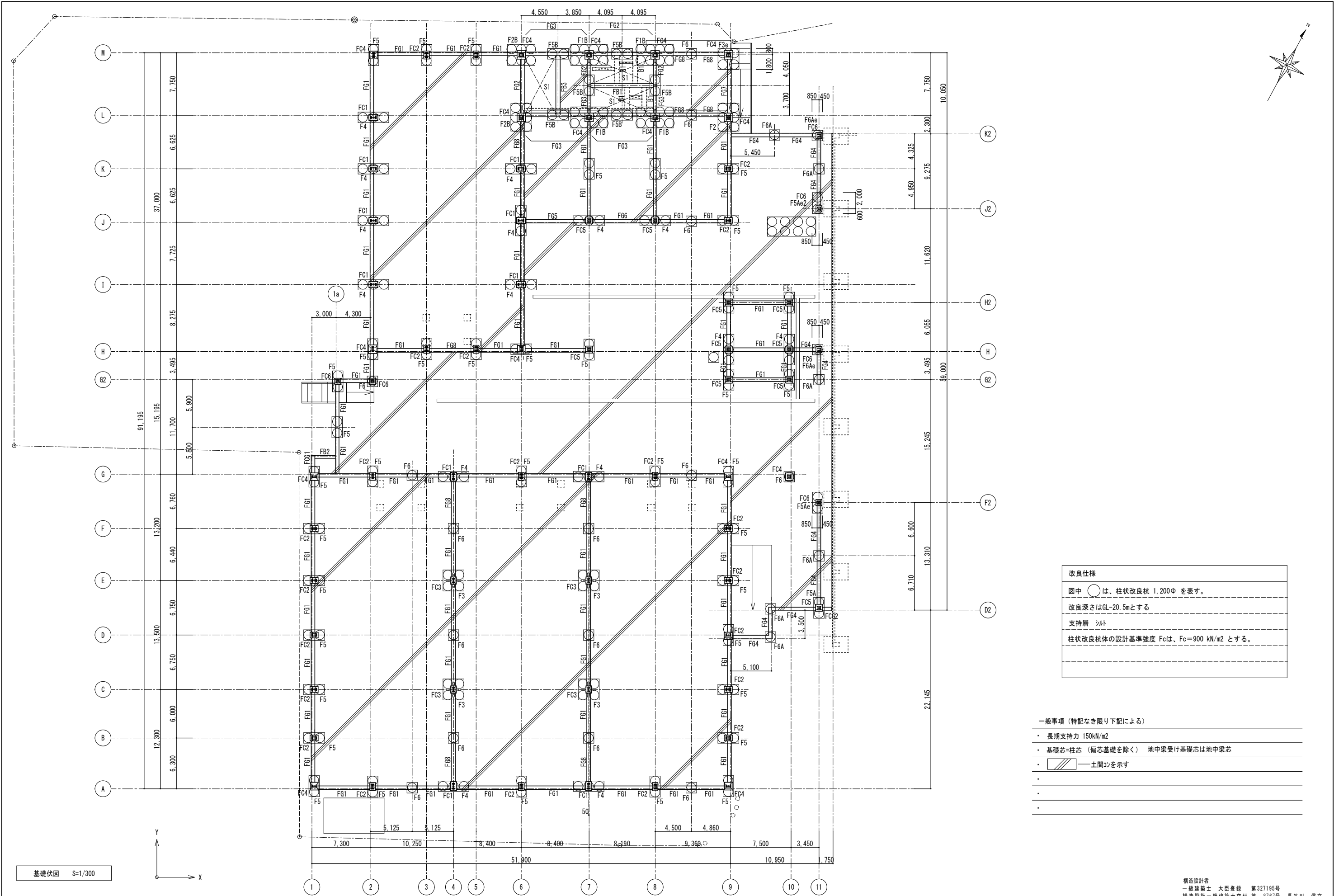
同等工法とする場合は、新たに施工実績及び技術資料等を求め適用性を判断すること。

問合せ先・・・スリーエスG工法協会 本部E-mail. 3sg@gansui.co.jp

T I T L E 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	N A M E 地盤改良特記仕様書	S C A L E —		株 式 会 社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	D A T E R06.03	C H E C K	D R A W I N G	N O . S — 11 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					



TITLE	NAME	SCALE		株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S - 12 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	地盤調査結果	—			R06.03			

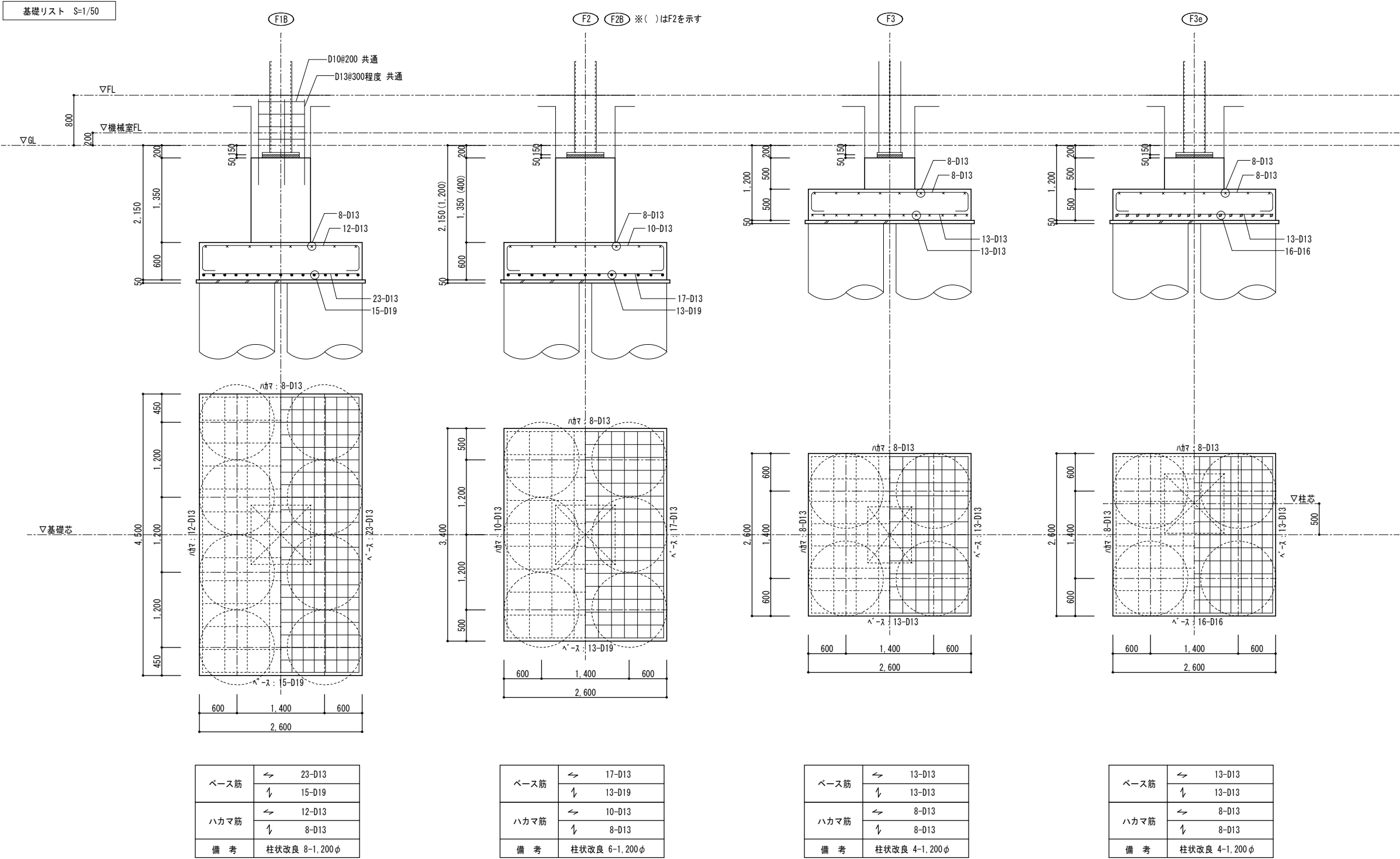


改良仕様
図中 ○ は、柱状改良杭 1,200φ を表す。
改良深さはGL-20.5mとする
支持層 シルト
柱状改良杭体の設計基準強度 Fclは、Fc=900 kN/m2 とする。

一般事項（特記なき限り下記による）
・ 長期支持力 150kN/m2
・ 基礎芯=柱芯（偏芯基礎を除く） 地中梁受け基礎芯は地中梁芯
・  —土間コンを示す
・
・
・

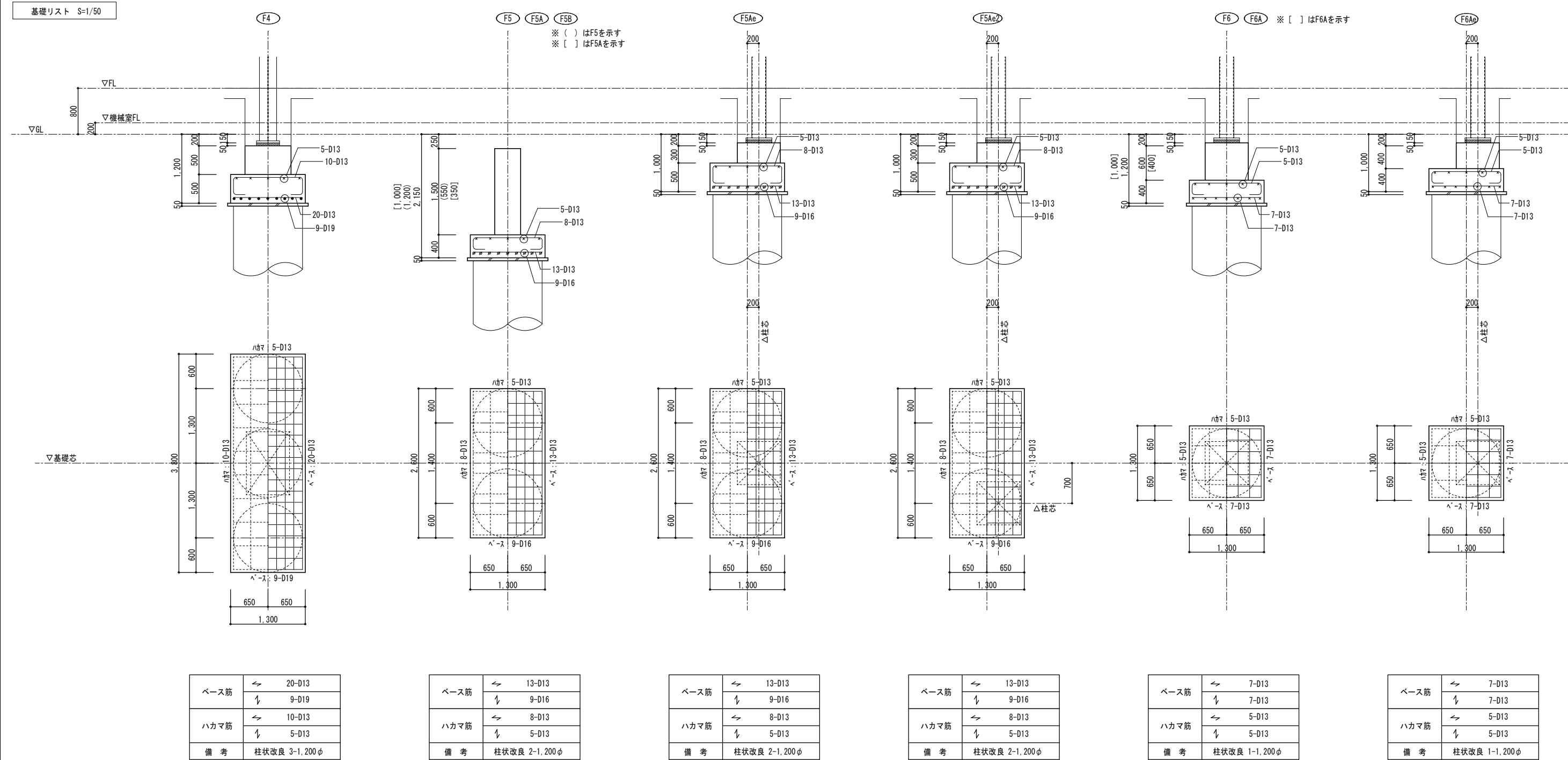
TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築① 基礎伏図	SCALE 1/300	株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 13 /
---------------------------	------------------	----------------	--	----------------	-------	---------	--------------

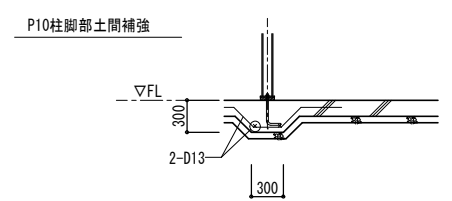
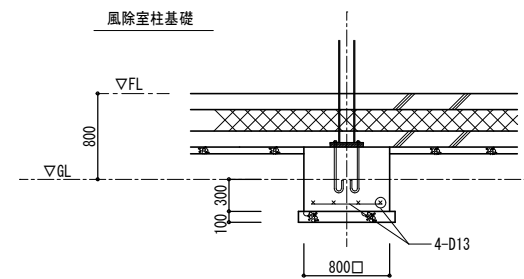
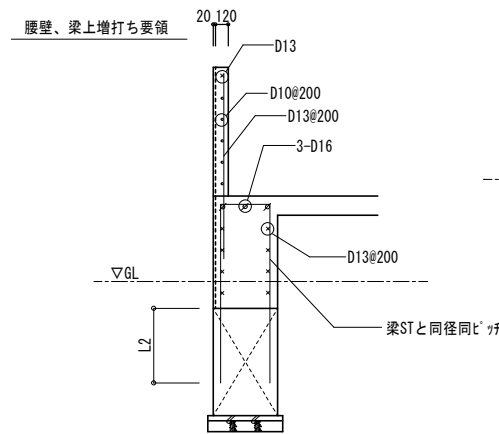
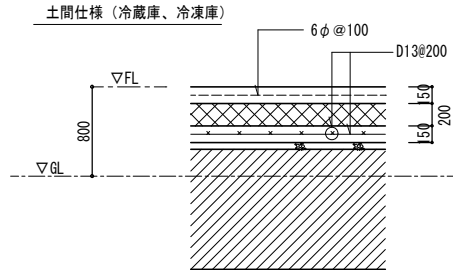
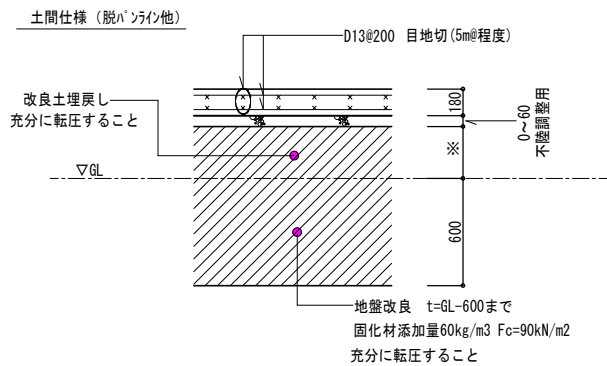
基礎リスト S=1/50



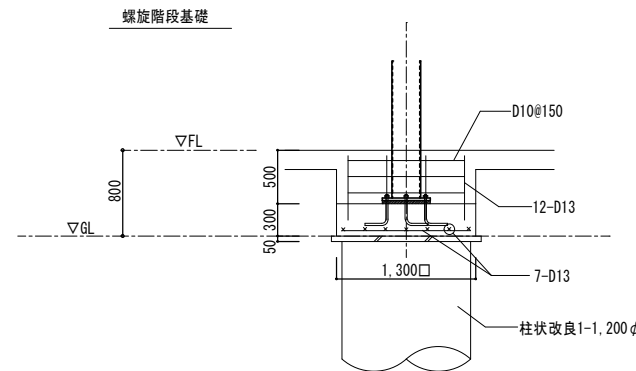
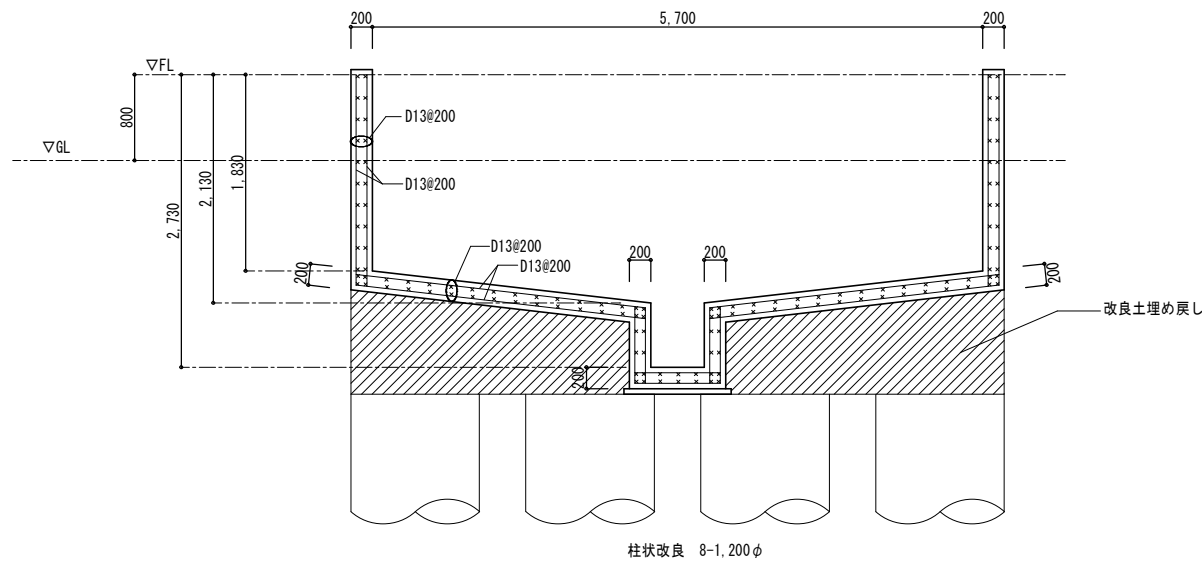
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE		 株式会社 平設計	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S - 14 /
			※A2→A3へ縮小 (70.7%)					
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 基礎リスト (1)	1/50		一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	R06.03			



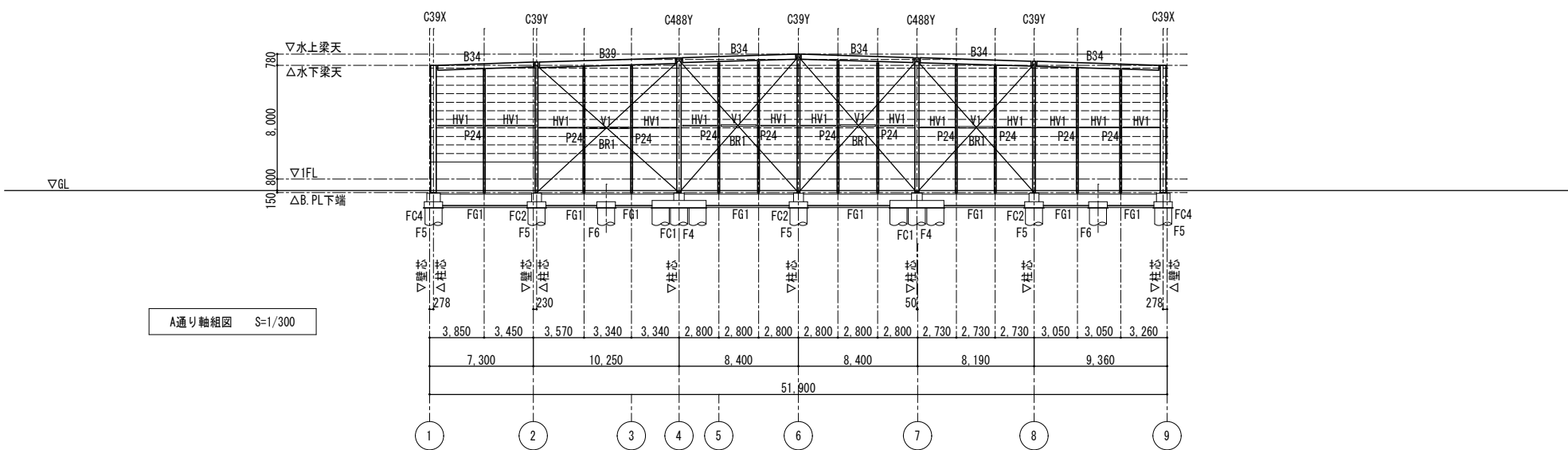


ブッシャー式兒童生積み機詳細図 ※参考

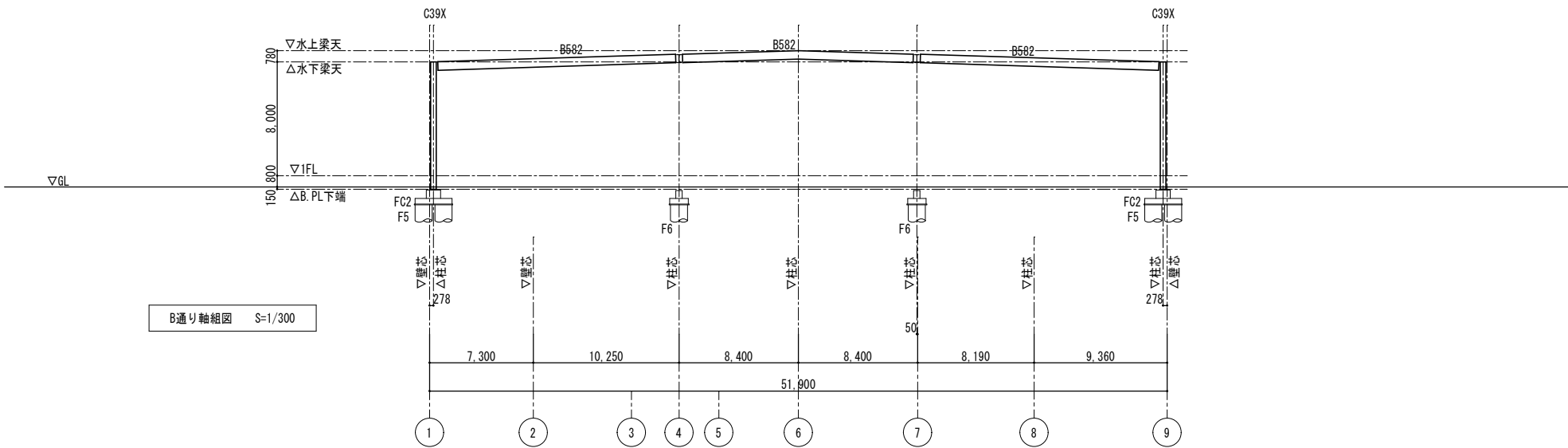


構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

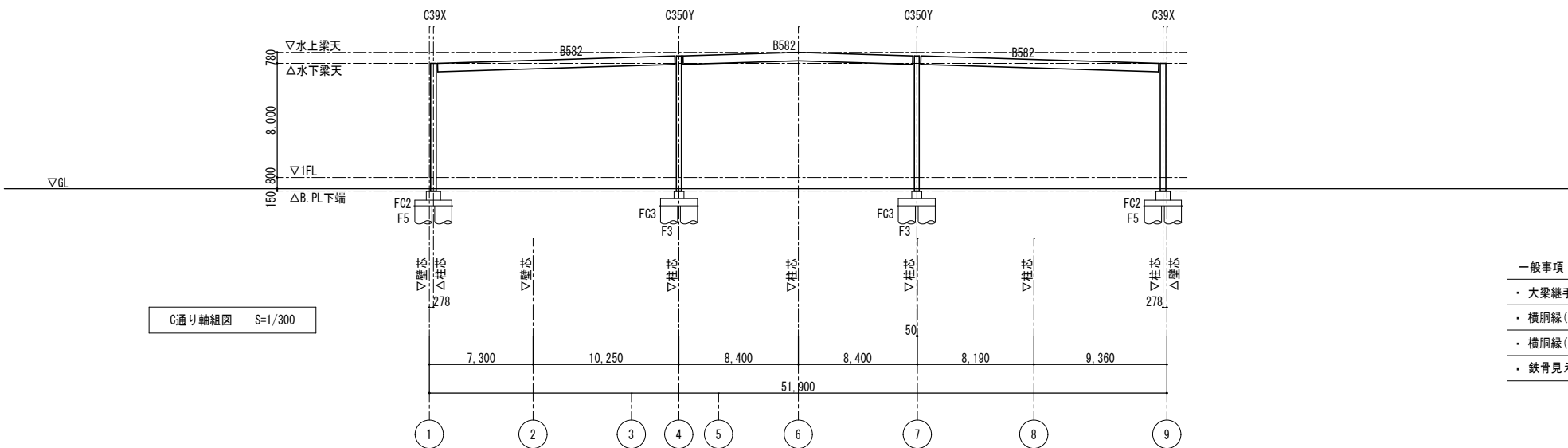
TITLE	NAME	SCALE		株式 会社	平 設 計	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S - 17 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)						
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 基礎リスト (4)	1/50		一級建築士事務所登録03-578号	一級建築士登録93620号	R06.03			足立 收平



A通り軸組図 S=1/300



B通り軸組図 S=1/300

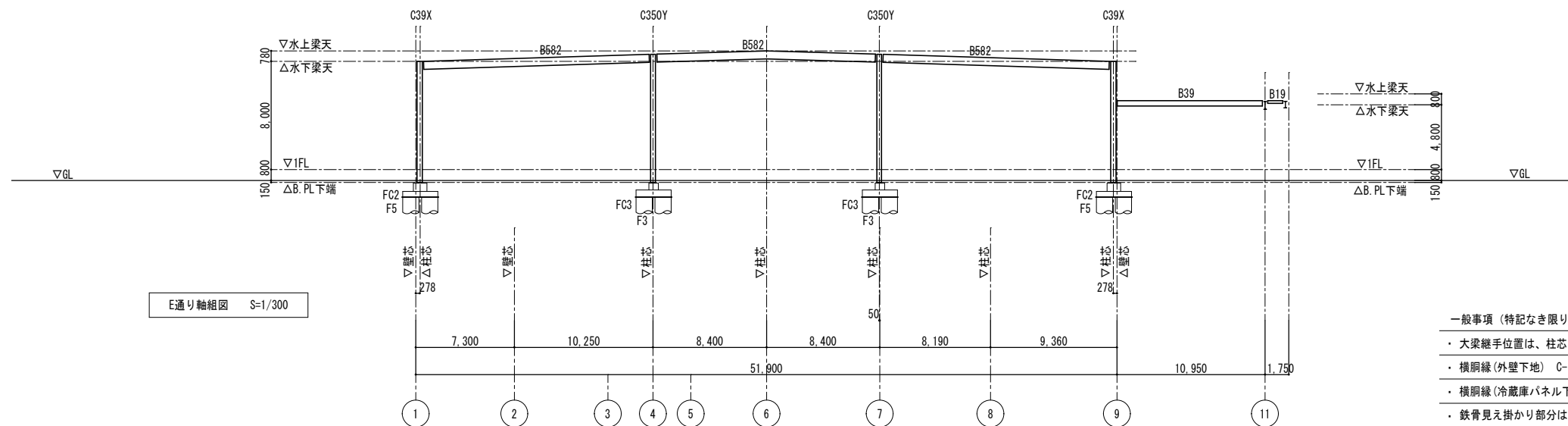
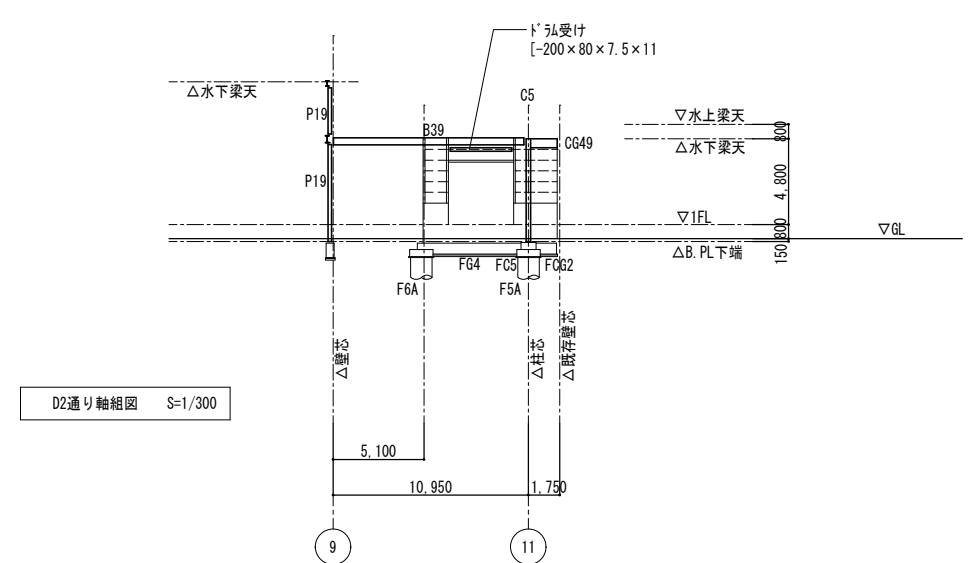
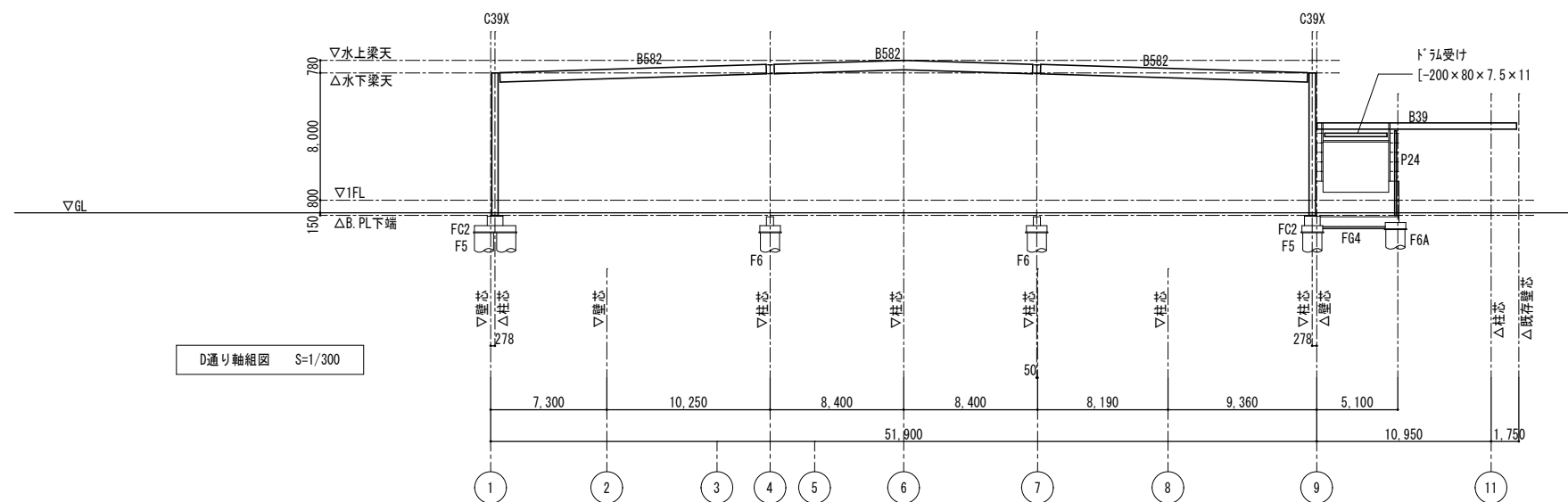


C通り軸組図 S=1/300

- 一般事項 (特記なき限り下記による)
- ・大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・横胴縁(外壁下地) C-100×50×20×2.3 @600
 - ・横胴縁(冷蔵庫パネル下地) C-100×50×20×3.2 @600 縦材口-125×125×3.2@2,000以内
 - ・鉄骨見え掛かり部分は溶融垂鉛付仕様(吹付部分は除く)

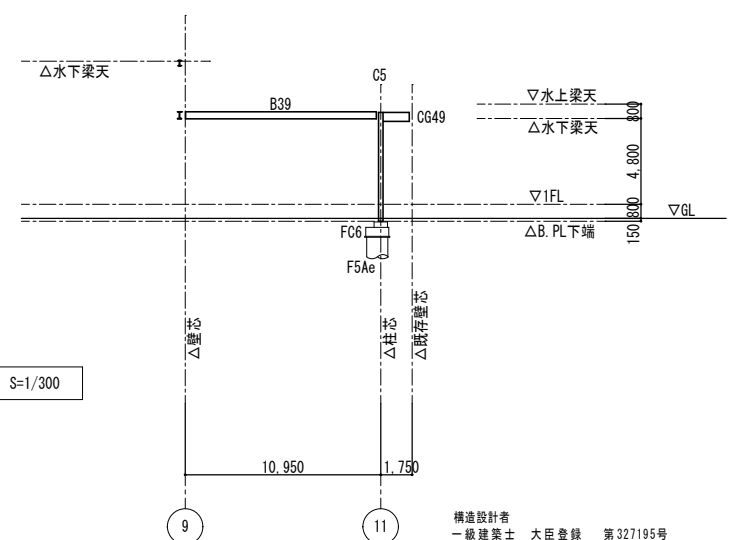
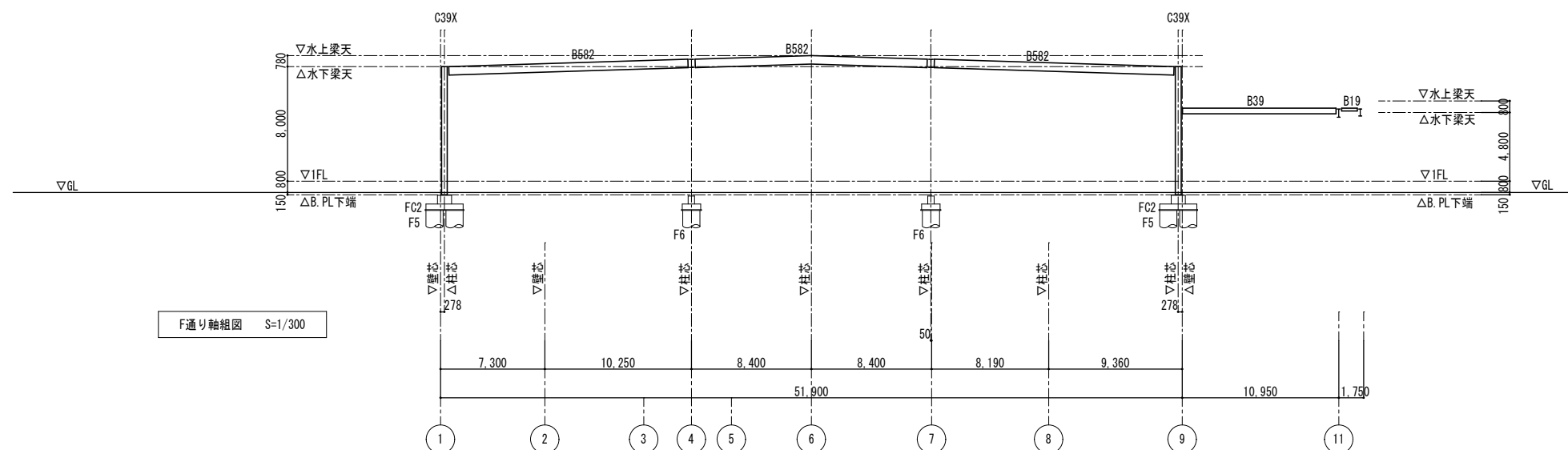
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築① 軸組図 (1)	SCALE 1/300		 株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 20 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					



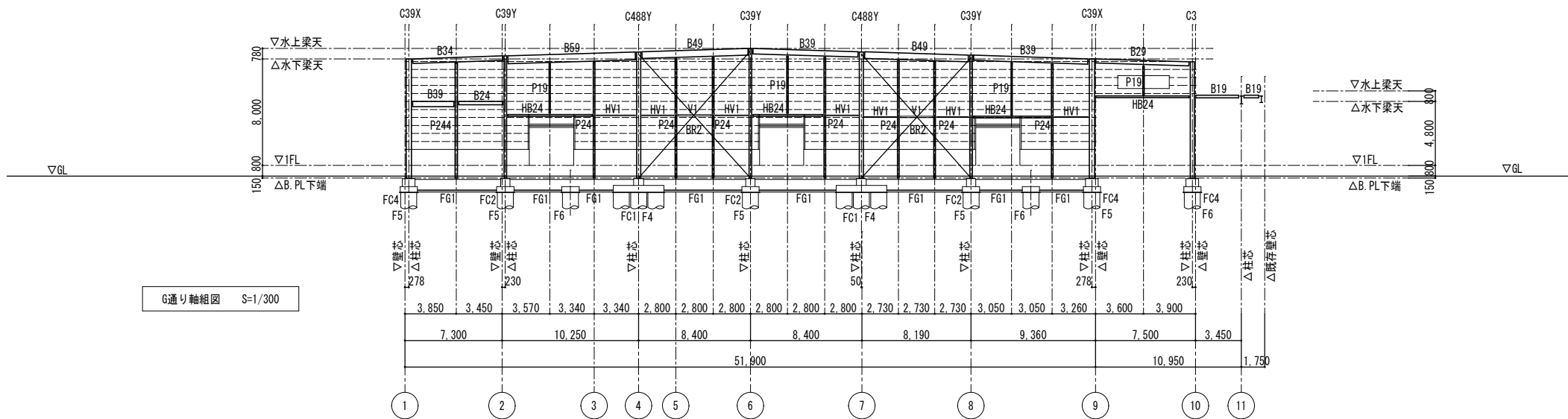
一般事項（特記なき限り下記による）

- ・大梁継手位置は、柱心より 800 とする。2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
- ・横胴縁(外壁下地) C-100×50×20×2.3 #600
- ・横胴縁(冷蔵庫パネル下地) C-100×50×20×3.2 #600 縦材口-125×125×3.2@2,000以内
- ・鉄骨見え掛かり部分は溶融亜鉛めっき仕様(吹付部分は除く)

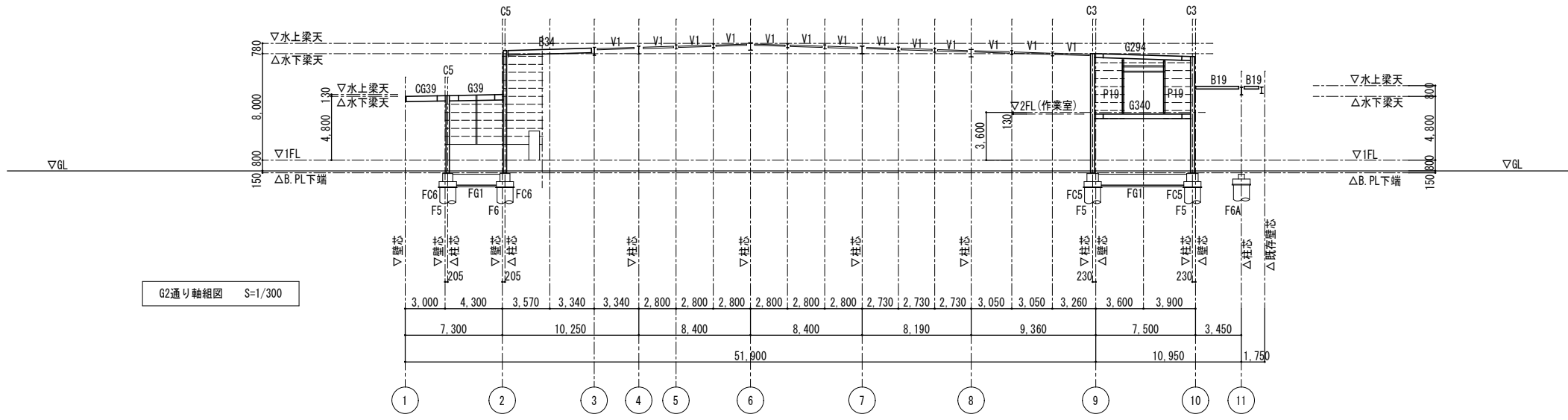


構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

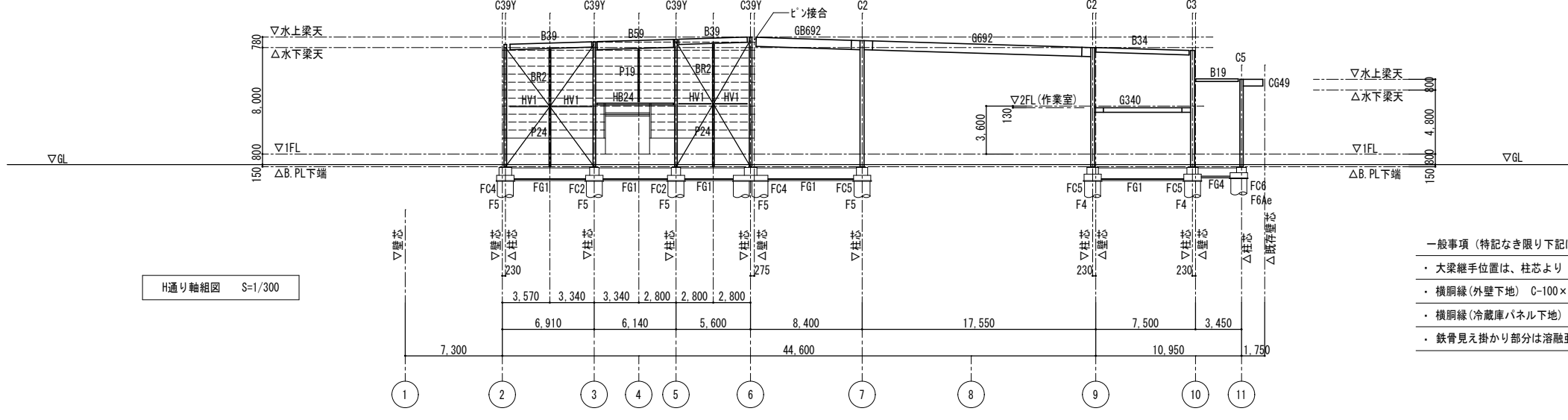
TITLE	NAME	SCALE	 株式会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平			DATE	CHECK	DRAWING	NO. S - 21 /
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 軸組図 (2)	1/300	※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)			R06.03			



G通り軸組図 S=1/300



G2通り軸組図 S=1/300



H通り軸組図 S=1/300

- 一般事項 (特記なき限り下記による)
- ・ 大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・ 横胴縁 (外壁下地) C-100×50×20×2.3 @600
 - ・ 横胴縁 (冷蔵庫パネル下地) C-100×50×20×3.2 @600 縦材口-125×125×3.2@2,000以内
 - ・ 鉄骨見え掛かり部分は溶融垂鉛付仕様 (吹付部分は除く)

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

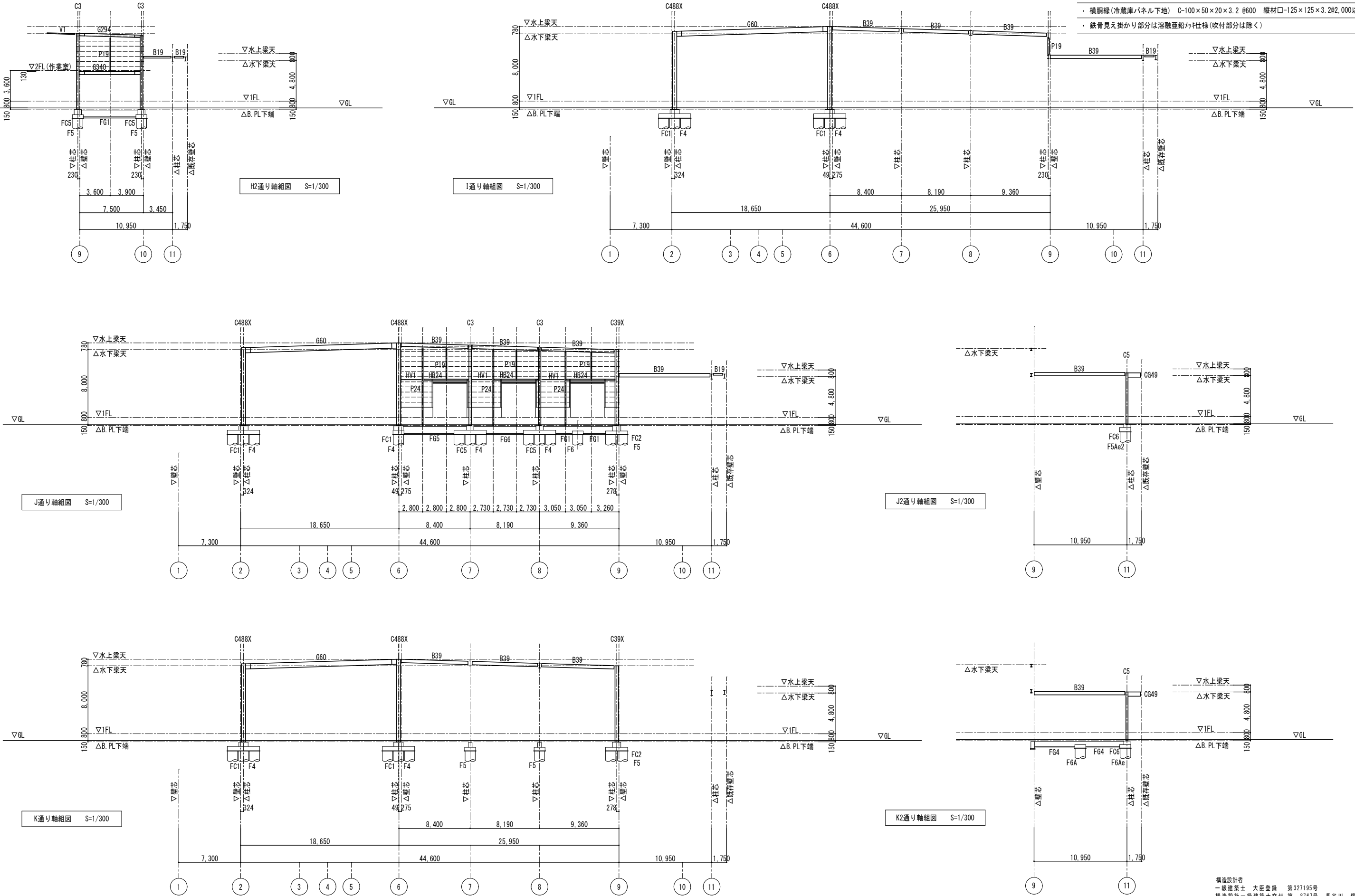
TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築① 軸組図 (3)	SCALE 1/300		 株式会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 22 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					

- 一般事項（特記なき限り下記による）
- ・大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。

・横胴縁(外壁下地) C-100×50×20×2.3 @600

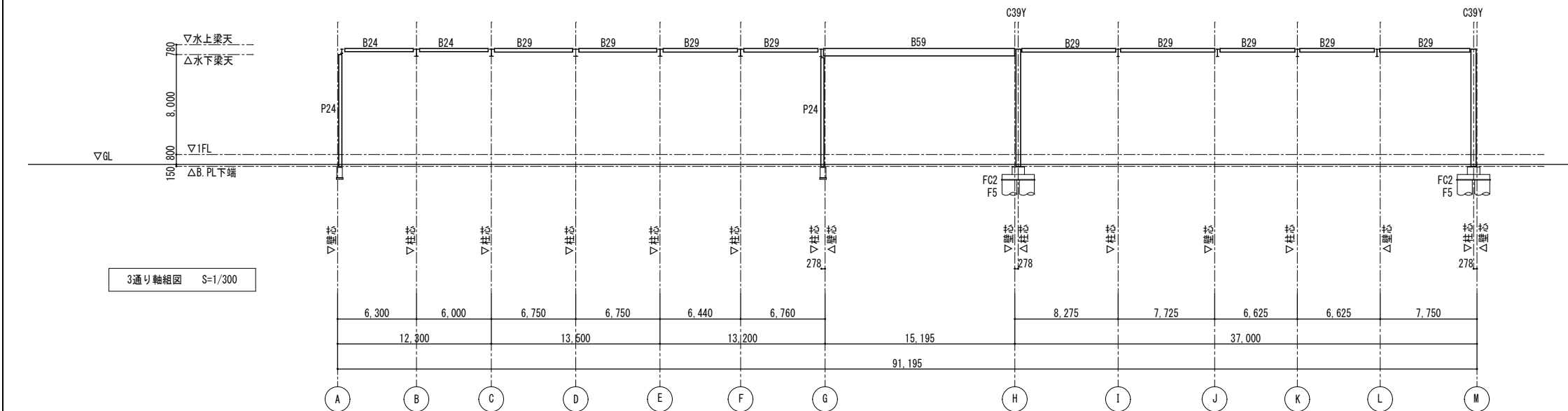
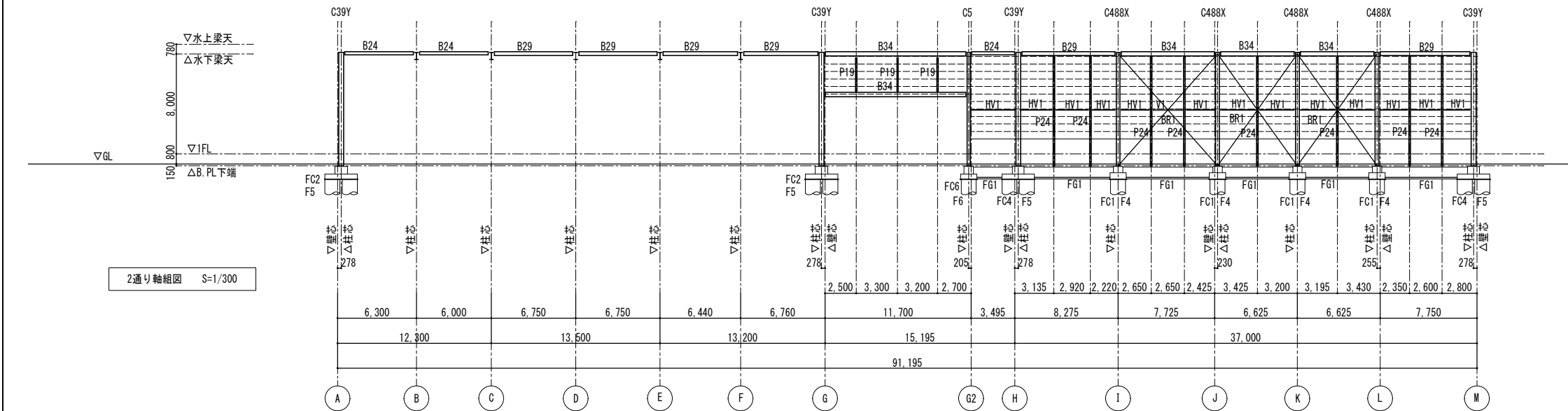
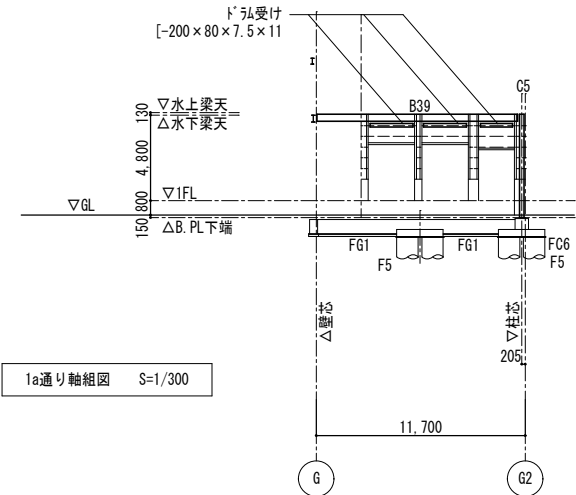
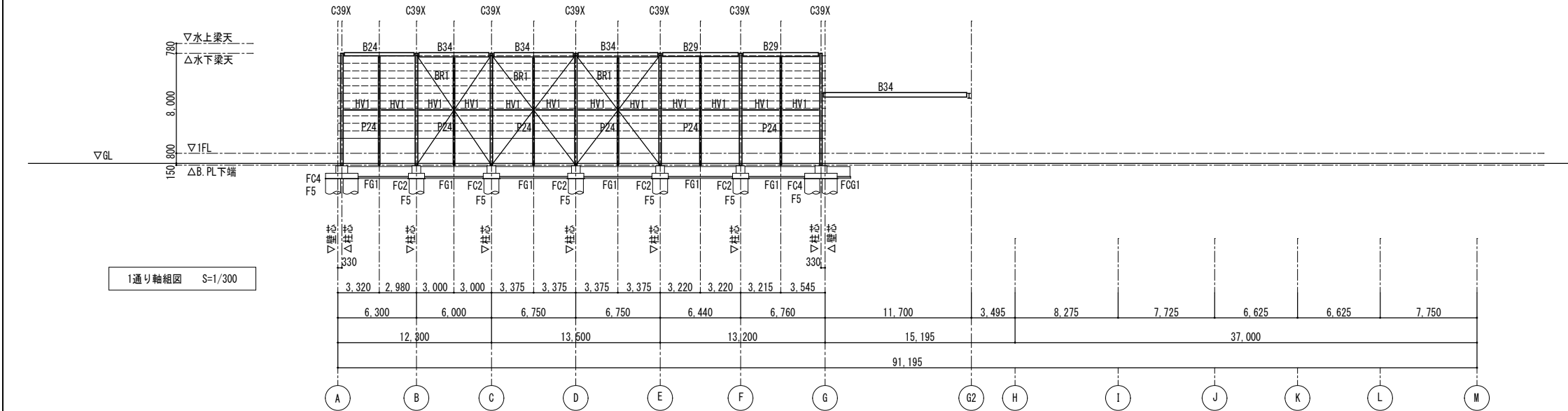
・横胴縁(冷蔵庫パネル下地) C-100×50×20×3.2 @600 縦材□-125×125×3.2@2,000以内

・鉄骨見え掛り部分は溶融亜鉛めっき仕様(吹付部分は除く)



構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

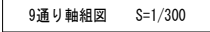
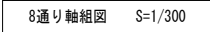
TITLE	NAME	SCALE		株 式 会 社 平 設 計	DATE	CHECK	DRAWING	NO.	S	—	23	／
			※A 2→A 3へ縮小 (70.7%)									
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 軸組図 (4)	1/300		一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	R06.03							



- 一般事項（特記なき限り下記による）
- ・大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・横胴縁（外壁下地） C-100×50×20×2.3 @600
 - ・横胴縁（冷蔵庫パネル下地） C-100×50×20×3.2 @600 縦材口-125×125×3.2@2,000以内
 - ・鉄骨見え掛り部分は溶融垂鉛付仕様（吹付部分は除く）

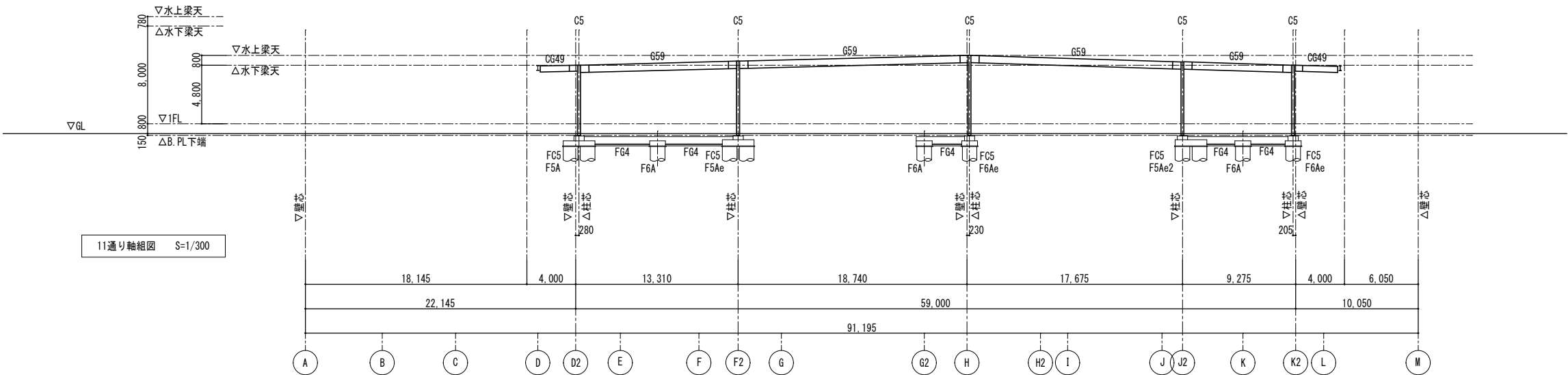
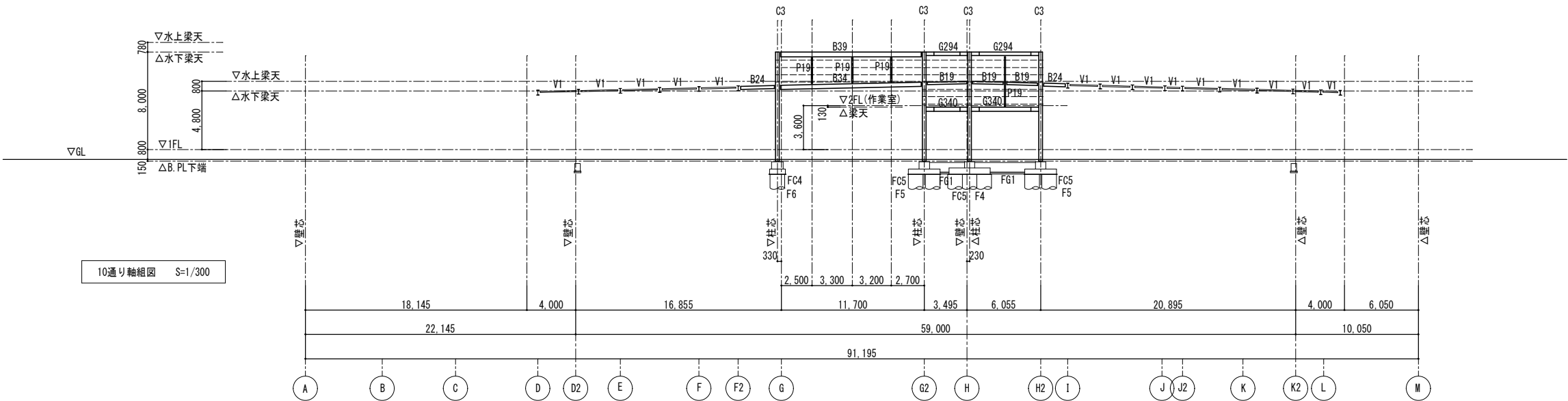
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE	株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平		DATE	CHECK	DRAWING	NO.	S	—	25	／
共同利用冷凍冷蔵施設設備建設工事	増築① 軸組図 (6)	1/300	※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)		R06.03							



構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築① 軸組図 (8)	SCALE 1/300		 株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 27 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					



- 一般事項（特記なき限り下記による）
- ・ 大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・ 横胴縁（外壁下地） C-100×50×20×2.3 @600
 - ・ 横胴縁（冷蔵庫パネル下地） C-100×50×20×3.2 @600 縦材口-125×125×3.2@2,000以内
 - ・ 鉄骨見え掛かり部分は溶融垂鉛材仕様（吹付部分は除く）

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE	株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE	CHECK	DRAWING	NO.
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 軸組図 (9)	1/300	※ A 2→A 3へ縮小 (70.7%)	R06.03			S — 28 /

部材符号及びサイズ	C488	H-488x300x11x18（ﾌﾞﾚｰｽ部）	C39	H-396x199x7x11（ﾌﾞﾚｰｽ部）	C39	H-396x199x7x11（一般部）	C350	H-350x350x12x19	C2 C3	□-300x300x12 □-300x300x9	C2 C5	□-250x250x9	C4	□-350x350x16
姿図														
ベースプレート	B. PL-40x360x760	SN490B	B. PL-40x360x670	SN490B	B. PL-36x260x670	SN490B	B. PL-36x400x630	SN490B	B. PL-36x500x500	SN490B	B. PL-36x450x450	SN490B	B. PL-40x630x630	SN490B
リブプレート	PL-9 H=200	SS400	PL-9 H=200	SS400	-	-	-	-	-	-	-	-	PL-9 H=200	SS400
アンカーボルト	A. BOLT 6-M30	ABR490	A. BOLT 6-M30	ABR490	A. BOLT 4-M27	ABR400	A. BOLT 6-M27	ABR400	A. BOLT 4-M27	ABR400	A. BOLT 4-M24	ABR400	A. BOLT 12-M36	ABR490
	L=650		L=650		L=600		L=600		L=600		L=550		L=880	
補強座金	PL-16 x 60 x 60	SN490B	PL-16 x 60 x 60	SN490B	-		-		-		-		PL-16 x 70 x 70 ※ﾌﾞﾚｰｽ部のみ	SN490B
定着板	PL-19 x 65 x 65	SS400	PL-19 x 65 x 65	SS400	PL-19 x 65 x 65	SS400	PL-19 x 65 x 65	SS400	PL-19 x 65 x 65	SS400	PL-16 x 50 x 50	SS400	PL-22 x 75 x 75	SS400

部材符号及びサイズ	P24	H-244x175x7x11	P24	H-248x124x5x8	P19	H-198x99x4.5x7	P17	H-175x90x5x8	P10	H-100x100x6x8	螺旋階段柱	φ-267.4x6.6
姿図												
ベースプレート	B. PL-16x280x210	SS400	B. PL-16x280x155	SS400	B. PL-12x230x150	SS400	B. PL-12x205x150	SS400	B. PL-9x130x150	SS400	B. PL-25x450x450	SS400
リブプレート	R. PL-9 (h=150)	SS400	R. PL-6 (h=120)	SS400	-	-	-	-	-	-	-	-
アンカーボルト	A. BOLT 4-M20 L=500	SS400	A. BOLT 4-M20 L=500	SS400	A. BOLT 2-M16 L=400	SS400	A. BOLT 2-M16 L=400	SS400	A. BOLT 2-M16 L=400	SS400	A. BOLT 8-M20 L=500	SS400

主柱 アンカーボルトの形状

間柱 アンカーボルトの形状

柱脚の溶接仕様

・主柱であっても、柱の板厚が6mm未満の場合は、隅肉溶接とする。

デッキ合成スラブ仕様 DS1

山上コンクリート厚	80	コンクリート強度	Fc=21N/mm2
デッキプレート	H=50 t=1.2		
配筋	溶接金網 6φ@150		
梁との接合	焼抜き栓溶接	スパン方向@600	
備考	大梁上にひび割れ補強筋D10@200 L=1,000を配置する 柱周りににひび割れ補強筋2-D13@200 L=1,200を配置する		

等圧スラブ仕様 DS2

梁上スタッドボルト 等厚スラブ接合部

特記事項			
鉄筋 : SD345 (D19以上)		鉄骨 : SS400・SN490B・C・BCR295・SSC400・STKR400	
SD295A (D16以下)		HTB : S10T・F8T	
コンクリート : Fc=21N/mm2 (基礎・地中梁)			
Fc=21N/mm2 (土間コン)		Fc=21N/mm2 (デッキコン)	
註 Fc は、コンクリートの設計基準強度を表す。			

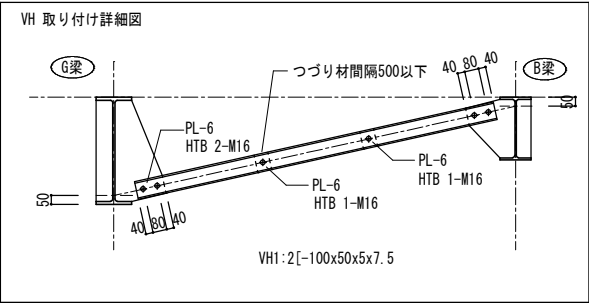
符 号	断面寸法	Joint	備 考
C2	□P-300x300x12 (BCR295)	柱脚リスト参照	
C3	□P-300x300x9 (BCR295)	柱脚リスト参照	
C4	R階 □P-350x350x9 (BCR295)		
	2階 □P-350x350x12 (BCR295)		
	1階 □P-350x350x16 (BCR295)	柱脚リスト参照	
C5	□P-250x250x9 (BCR295)	柱脚リスト参照	
C350Y	H-350×350×12×19	柱脚リスト参照	XYは強軸方向
C488X C488Y	H-488×300×11×18	柱脚リスト参照	XYは強軸方向
C39X C39Y	H-396×199×7×11	柱脚リスト参照	XYは強軸方向
P244	H-244×175×7×11	PL-9 HTB2-M20 柱脚リスト参照	
P175	H-175×175×7.5×11	PL-9 HTB2-M20	
P24	H-248×124×5×8	PL-9 HTB2-M20 柱脚リスト参照	
P19	H-198×99×4.5×7	PL-6 HTB2-M16 柱脚リスト参照	
P17	H-175×90×5×8	PL-6 HTB2-M16 柱脚リスト参照	
P10	H-100×100×6×8	PL-6 HTB2-M16 柱脚リスト参照	
G692 GB692	H-692×300×13×20	GJ-692	
G588	H-588×300×12×20	GJ-588	
G488	H-488×300×11×18	GJ-488	
G340	H-340×250×9×14	GJ-340	
G294	H-294×200×8×12	GJ-294	
G60A	H-600×200×11×17	GJ-60	⑥ 端のみSN490B
G60	H-600×200×11×17	GJ-60	
G59	H-596×199×10×15	GJ-59	
G649	H-496×199×9×14	GJ-49	
G39 CG39	H-396×199×7×11	GJ-39	
G624	H-248×124×5×8	GJ-24	
B582	H-582×300×12×17	BJ-582	
B482	H-482×300×11×15	BJ-482	
B340	H-340×250×9×14	BJ-340	
B59	H-596×199×10×15	BJ-59	
B49	H-496×199×9×14	BJ-49	
B39	H-396×199×7×11	BJ-39	
B34	H-346×174×6×9	BJ-34 BJ-34 (W)	ﾌﾞﾚｽ接合部はW仕様
B29	H-298×149×5.5×8	BJ-29 BJ-29 (W)	ﾌﾞﾚｽ接合部はW仕様
B24 HB24	H-248×124×5×8	BJ-24	HB24は横使い
B19	H-198×99×4.5×7	BJ-19	
V1 HV1 T1	[-100×50×5×7.5	VJ-1	HV1は横使い
2V1	2[-100×50×5×7.5	VJ-1	つづり材φ500以下
VH	2[-100×50×5×7.5	詳細図参照	
鉛直ﾌﾞﾚｽ	BR1 2L-65×65×6	JBR-1	
	BR2 2L-75×75×9	JBR-2	
	BR3 L-65×65×6	JBR-3	
水平ﾌﾞﾚｽ	1-M22	PL-9 HTB1-M22	既製品仕様
	1-M20	PL-9 HTB1-M20	既製品仕様
階段ﾏﾗ	PL-300×12	PL-9 HTB2-M16	A Bolt 1-M16
	C-100×50×20×2.3	PL-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ 2-M12 SW付	@600 2連続梁とする 外壁下地
横胴縁	C-100×50×20×3.2	PL-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ 2-M12 SW付	@600 冷凍庫ﾊﾞﾙﾀ下地
	開口補強 □P-100×100×2.3	PL-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ 2-M12 SW付	
ﾊﾞﾙﾀ受け鐵材	□P-125×125×3.2	PL-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ 2-M12 SW付	@2,000以下 冷凍庫ﾊﾞﾙﾀ下地
天井受け材	C-100×50×20×1.6	PL-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ 1-M12 SW付	@1,000以下
折板受け	C-100×50×20×2.3		
ｼｬｯﾀｰ受け	[-150×75×6.5×10	PL-9 中ﾎﾞﾙﾄ 2-M16	
螺旋階段柱	φ-267.4×6.6	柱脚リスト参照	

サイズ	GJ-692	H-692x300x13x20	GJ-588	H-588x300x12x20	GJ-488	H-488x300x11x18	GJ-340	H-340x250x9x14	GJ-294	H-294x200x8x12
形状										
フランジ	40-M22	L=95 2PL -19x300x530 4PL -19x110x530	32-M22	L=85 2PL -12x300x440 4PL -16x110x440	32-M22	L=75 2PL -12x300x440 4PL -12x110x440	24-M22	L=75 2PL -12x250x410 4PL -12x100x410	24-M22	L=65 2PL -9x200x410 4PL -9x 80x410
ウェブ	18-M22	L=65 2PL - 9x560x170	14-M22	L=65 2PL - 9x440x170	10-M22	L=70 2PL -12x320x170	6-M22	L=60 2PL - 9x200x170	4-M22	L=55 2PL -6x200x170

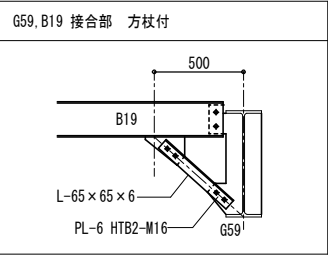
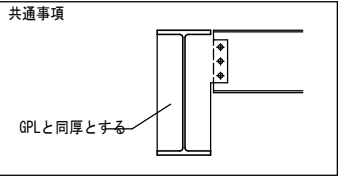
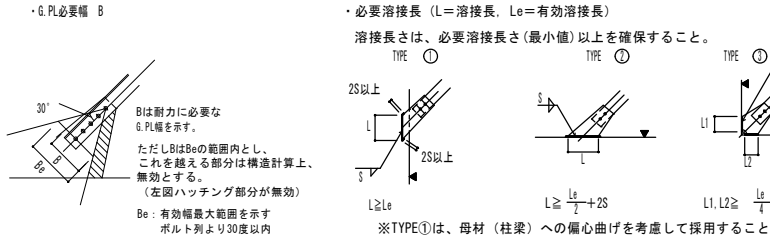
サイズ	GJ-60	H-600x200x11x17	GJ-59	H-596x199x10x15	GJ-49	H-496x199x9x14	GJ-39	H-396x199x7x11	GJ-24	H-248x124x5x8
形状										
フランジ	24-M22	L=75 2PL -12x200x410 4PL -12x 80x410	24-M22	L=75 2PL -12x200x410 4PL -12x 80x410	24-M22	L=75 2PL -12x200x410 4PL -12x 80x410	24-M22	L=65 2PL -9x200x410 4PL -9x 80x410	24-M16	L=45 2PL -12x125x410
ウェブ	14-M22	L=65 2PL - 9x440x170	14-M22	L=65 2PL - 9x440x170	8-M22	L=60 2PL - 9x350x170	6-M22	L=60 2PL -9x260x170	8-M16	L=45 2PL - 6x170x290

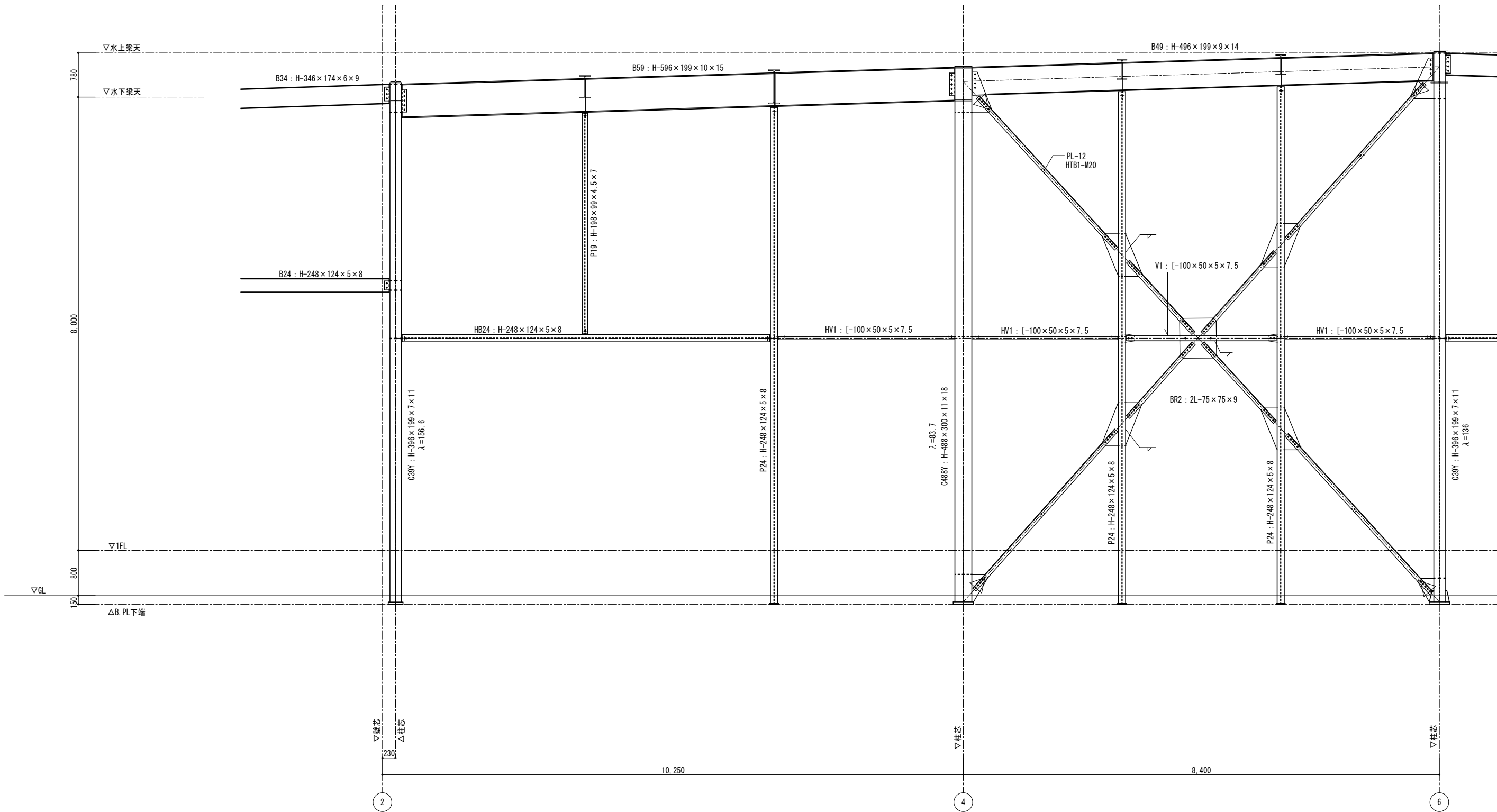
サイズ	BJ-582	H-582x300x12x17	BJ-482	H-482x300x11x15	BJ-340	H-340x250x9x14	BJ-59	H-596x199x10x15	BJ-49	H-496x199x9x14	BJ-39	H-396x199x7x11	BJ-34	H-346x174x6x9	BJ-34 (W)	H-346x174x6x9	BJ-29	H-298x149x5.5x8	BJ-29 (W)	H-298x149x5.5x8
形状																				
H. T. B	6-M22		5-M22		3-M20		5-M22		4-M22		4-M20		3-M20		6-M20		3-M20		6-M20	
G. PL	GPL-16		GPL-16		GPL-9		GPL-12		GPL-12		GPL-9		GPL-9		GPL-9		GPL-9		GPL-9	

サイズ	BJ-24	H-248x124x5x8	BJ-19	H-198x99x4.5x7	VJ-1	[-100x50x5x7.5
形状						
H. T. B	2-M20		2-M16		2-M20	
G. PL	GPL-9		GPL-6		GPL-6	



ﾌﾞﾚｽ接合部 S=1/30		符 号		部 材	JBR-1	2L-65x65x6	JBR-2	2L-75x75x9	JBR-3	L-65x65x6
形状				ﾎﾞﾙﾄ	5-M16		5-M20		5-M16	
				ﾌﾟﾚｰﾄ	GPL-9		GPL-12		GPL-6	
				B	165		205		110	
				必要溶接長さ(最小値) Le Le/2+2S Le/4+2S	456	242	128	589	313	165

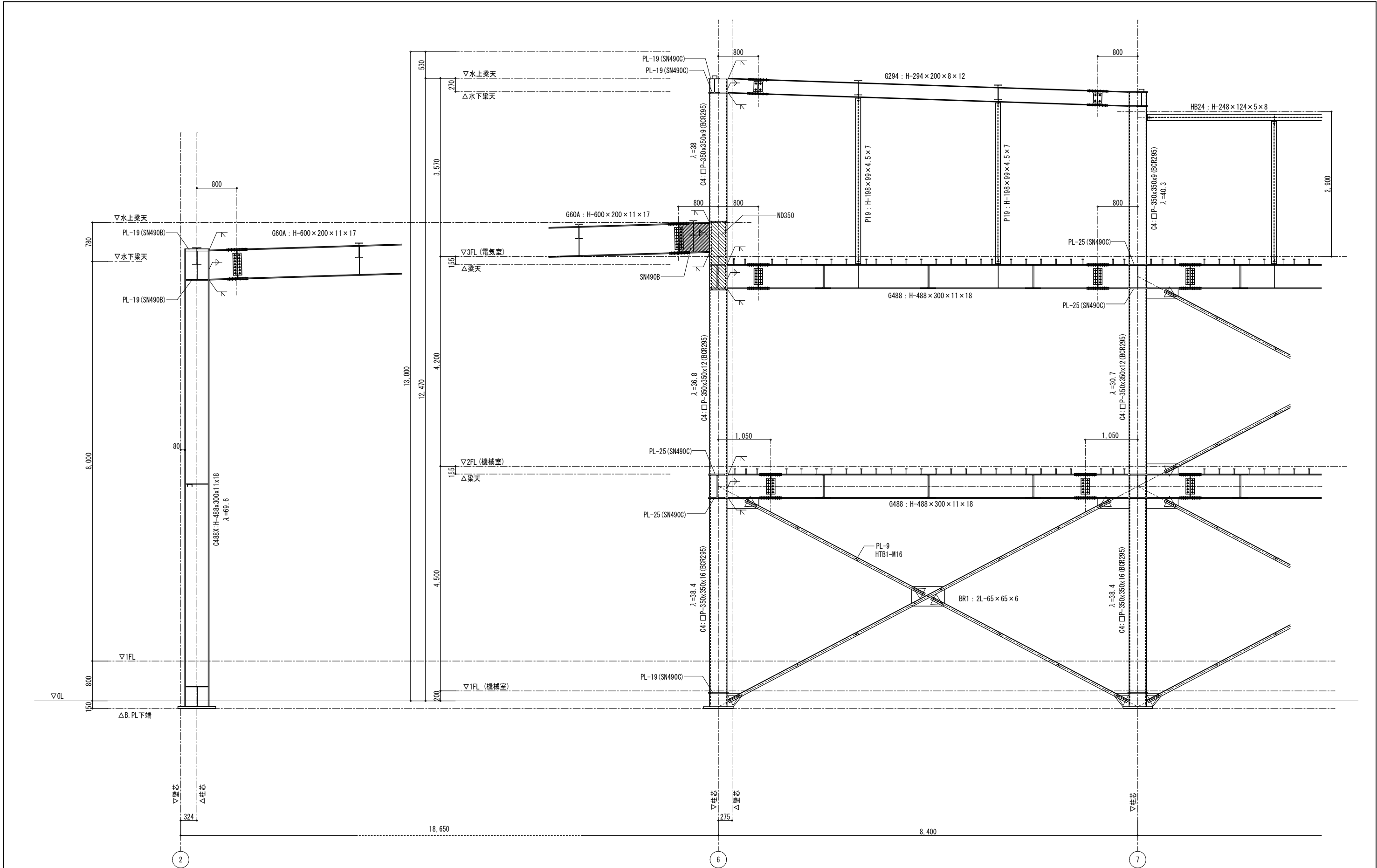




G通り鉄骨詳細図 S=1/50
特記なき部材はSS400とする

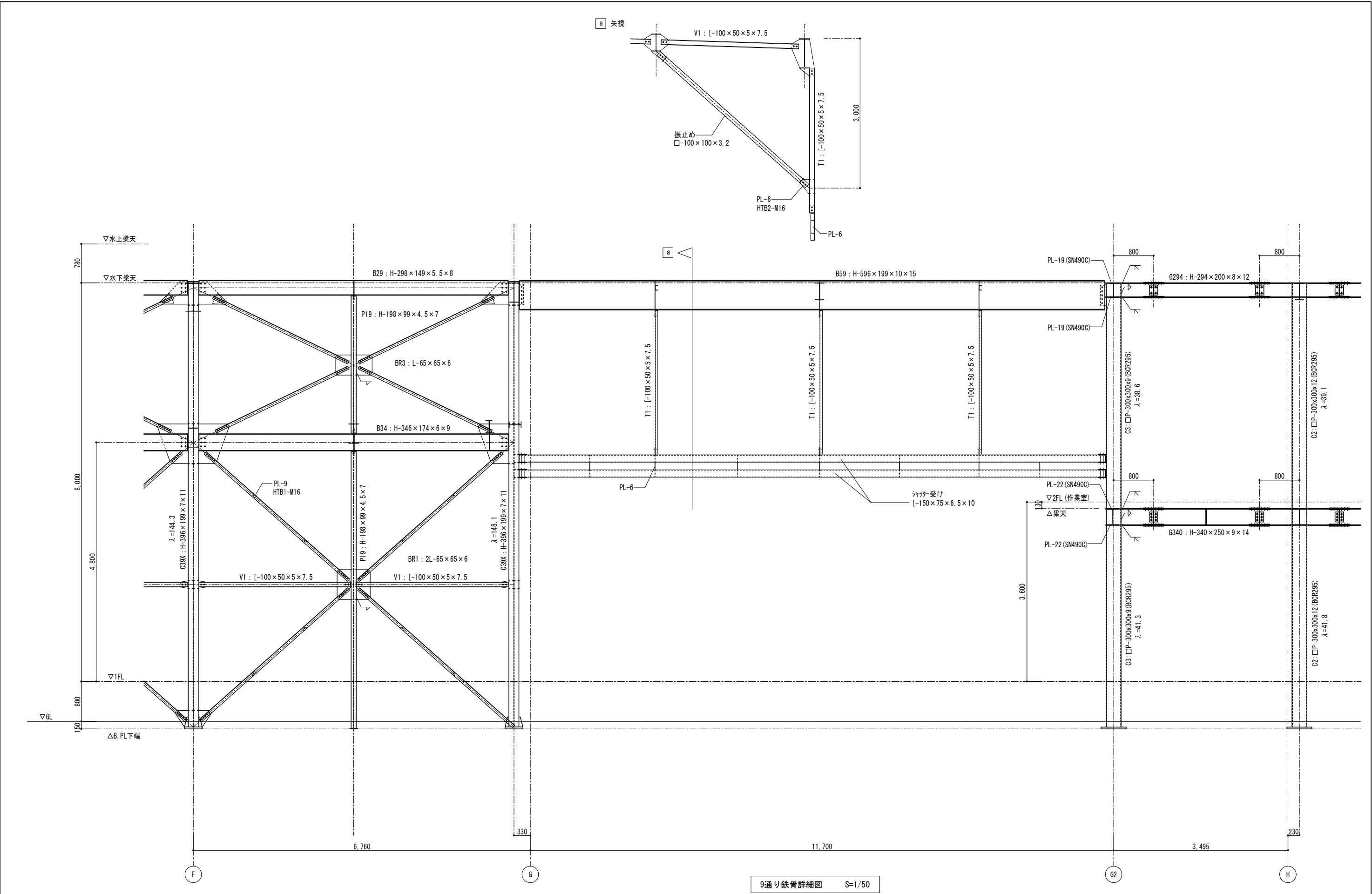
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE		株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE	CHECK	DRAWING	NO.	S — 31 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)						
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 鉄骨詳細図 (1)	1/50			R06.03				



TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築① 鉄骨詳細図 (2)	SCALE 1/50		株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 32 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					

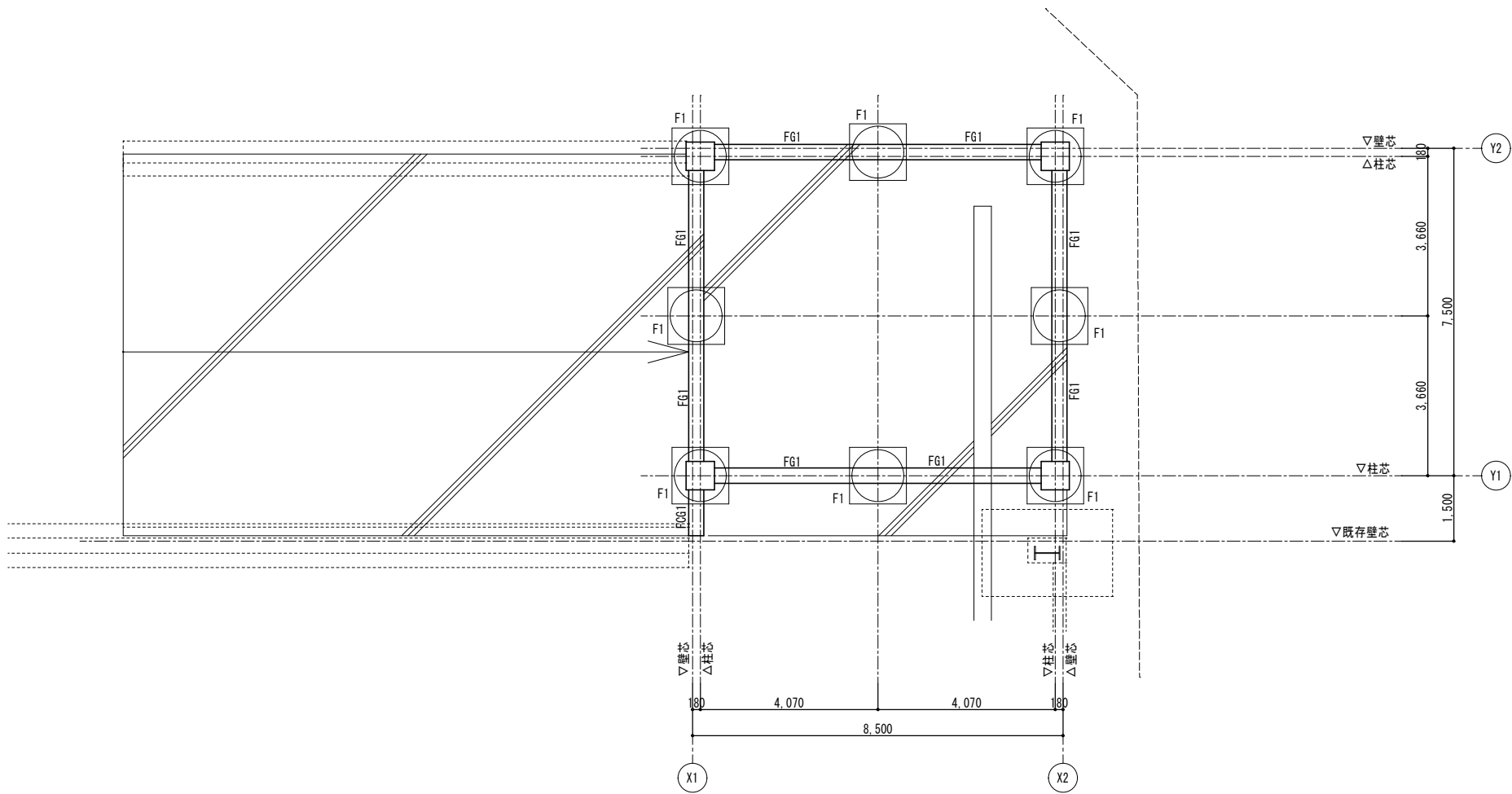
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文



9通り鉄骨詳細図 S=1/50

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE		株式 会社	平 設 計	DATE	CHECK	DRAWING	NO.	S - 33 /
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築① 鉄骨詳細図 (3)	1/50	※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)	一級建築士事務所登録03-578号	一級建築士登録93620号	足立 收平	R06.03			



改良仕様
図中 ○ は、柱状改良杭 1,200φ を表す。
改良深さはGL-20.5mとする
支持層 シルト
柱状改良杭体の設計基準強度 Fclは、Fc=900 kN/m2 とする。

一般事項（特記なき限り下記による）

- ・ 長期支持力 150kN/m2
- ・ 基礎芯=柱芯 地中梁受け基礎芯は地中梁芯
- ・  土間をを示す

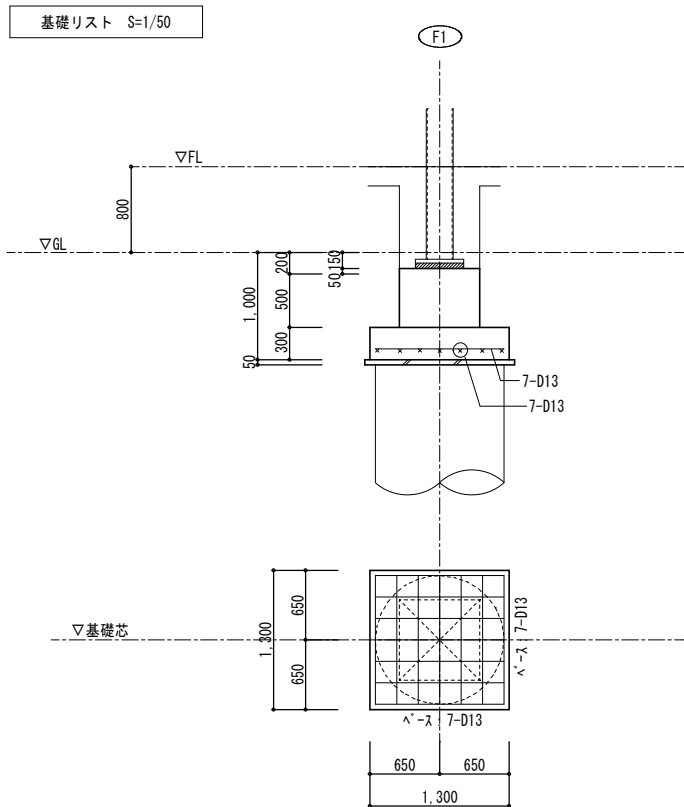
・

・

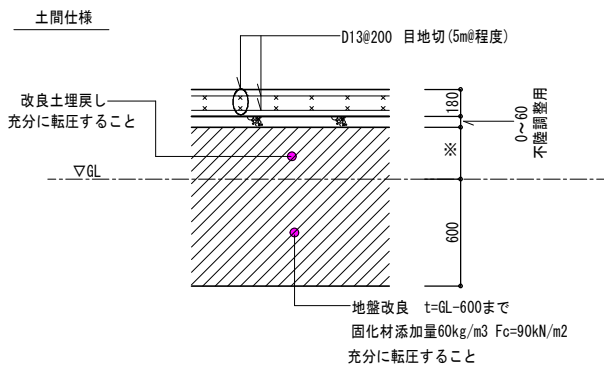
・

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号 長谷川 信文
構造設計一級建築士交付 第 8767号

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築② 基礎伏図	SCALE 1/100		 株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 34 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					



ベース筋	↖	7-D13
	↗	7-D13
ハカマ筋	↖	—
	↗	—
備 考	柱状改良 1-1,200 φ	

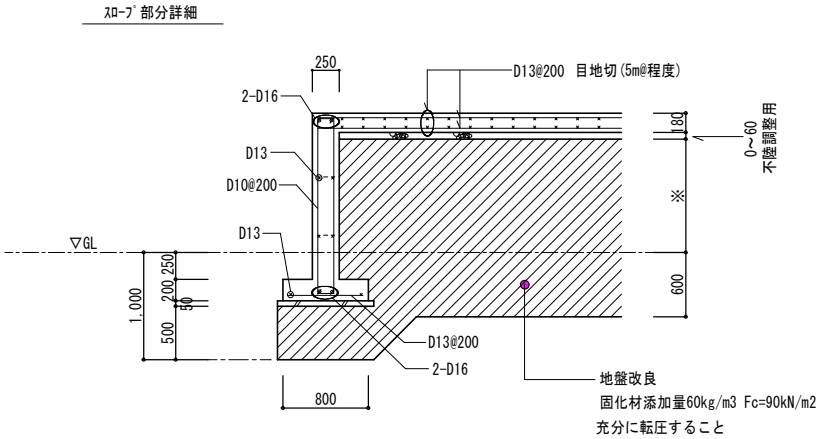
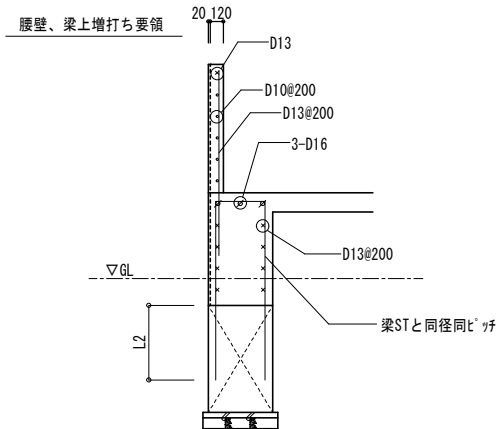


基礎柱リスト S=1/50

鉄骨柱符号	C1
断面	
柱型主筋	12-D19
HOOP	D10@100

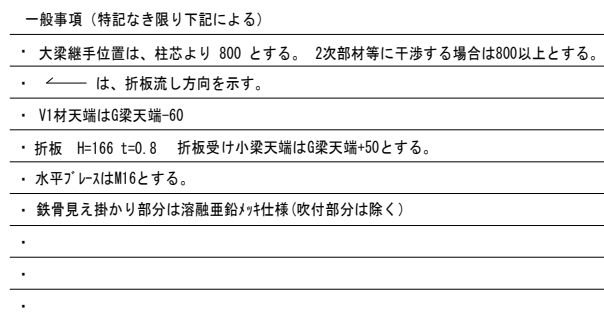
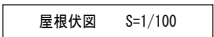
地中梁リスト S=1/50

符号	FG1、FG1
位置	全断面
▽FL	
▽GL	
断面	
上端筋	3-D22
下端筋	3-D22
スチーリング	□-D10@200
腹筋	2-D10
巾止め筋	1-D10@1,000

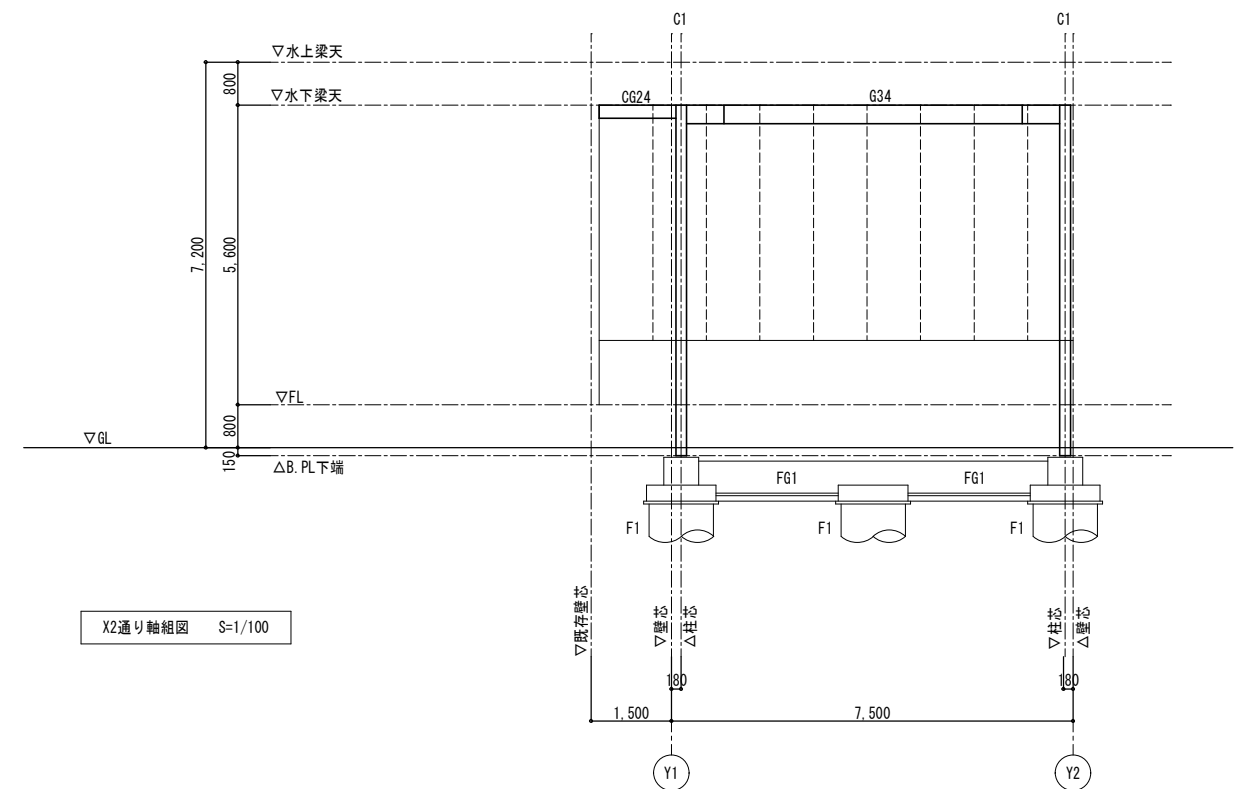
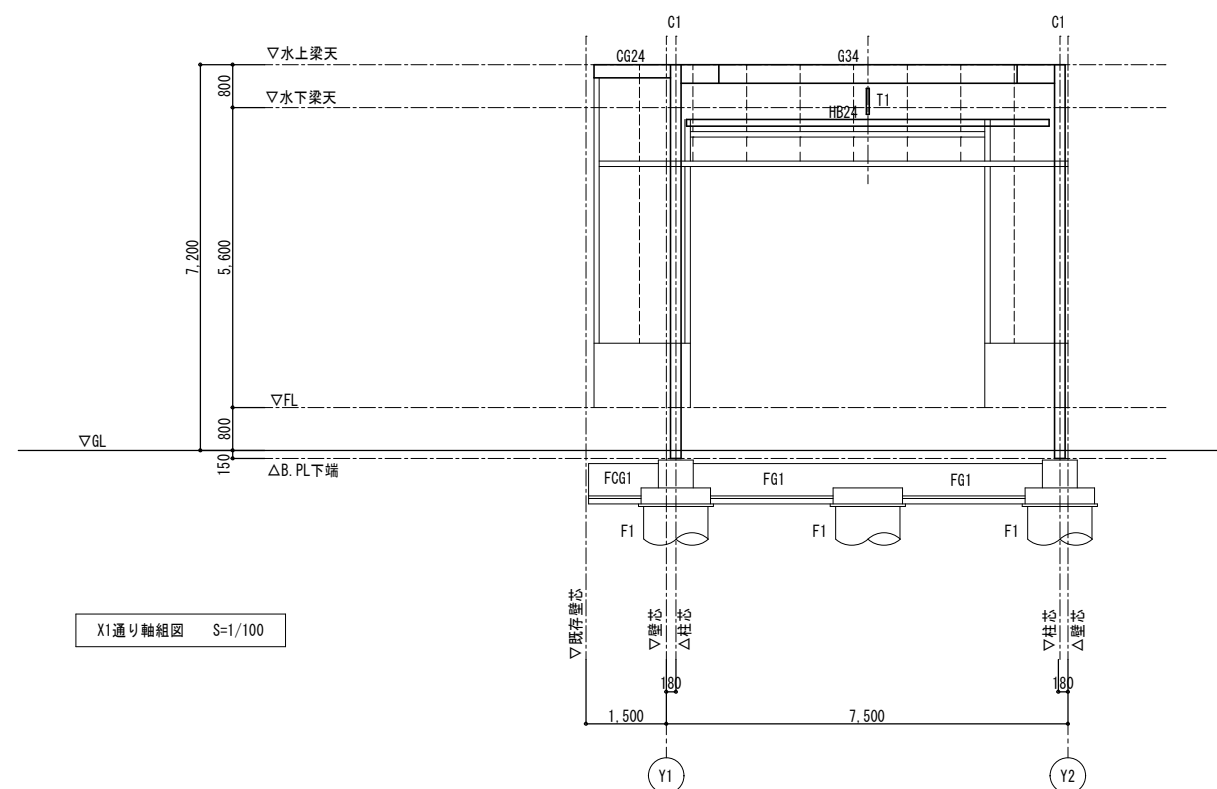
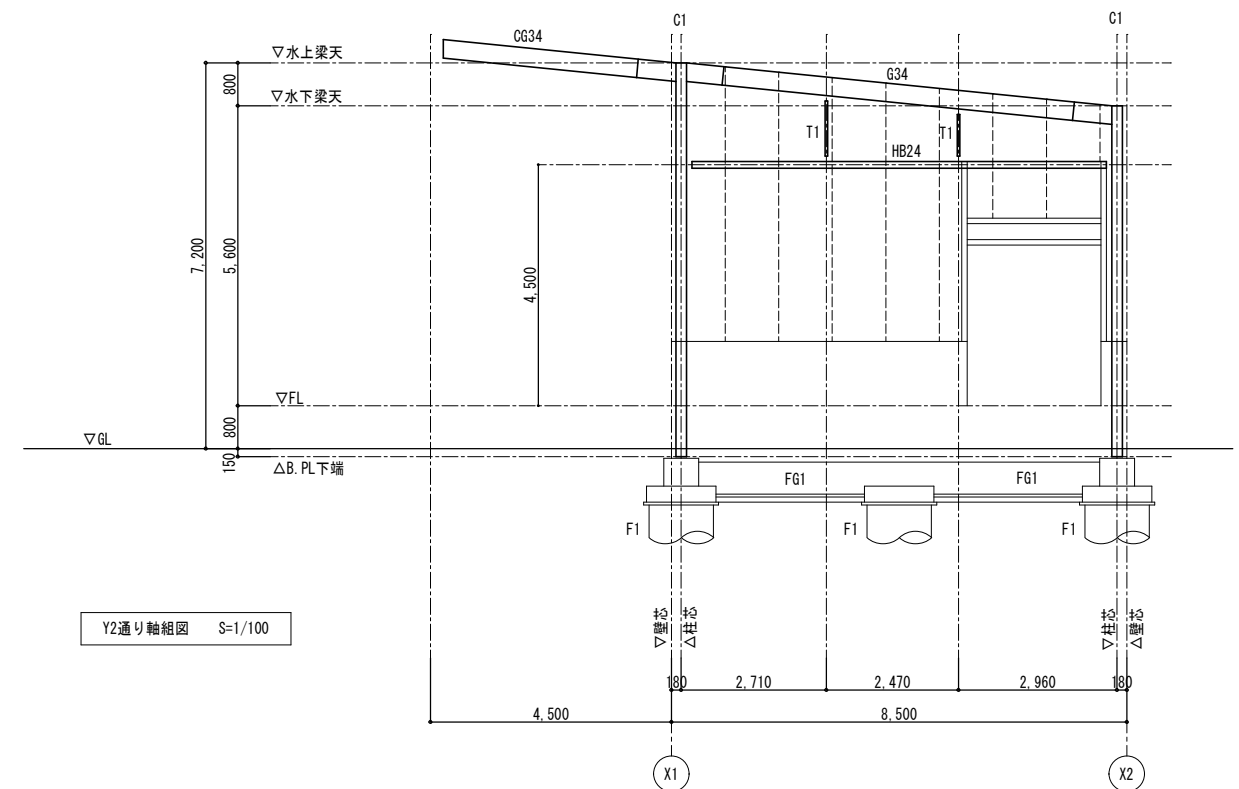
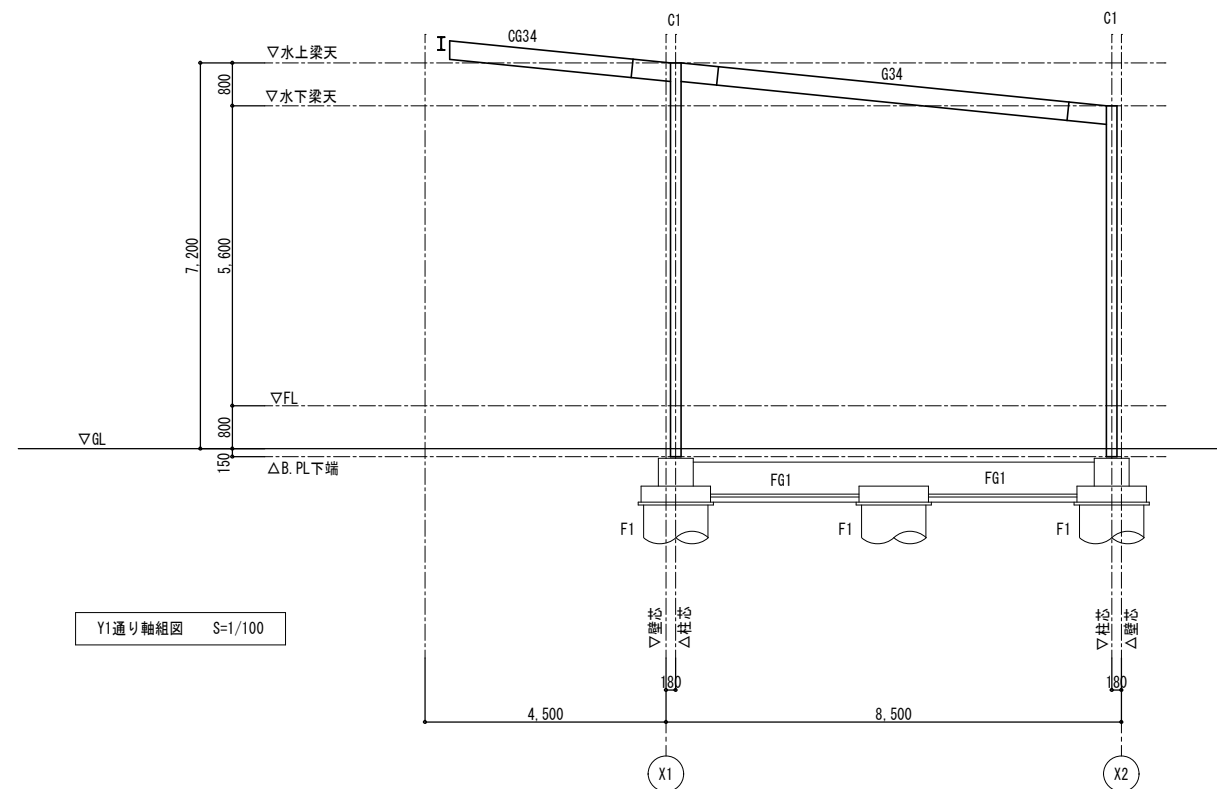


構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築② 基礎リスト	SCALE 1/50		 株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S — 35 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					



TITLE	NAME	SCALE	 株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平			DATE	CHECK	DRAWING	NO. S — 36 /
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築② 屋根伏図	1/100				R06.03			
			※ A2→A3へ縮小 (70.7%)						



- ・ 一般事項（特記なき限り下記による）
- | |
|---|
| ・ 大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2 次部材等に干渉する場合は 800 以上とする。 |
| ・ 縦鋼縁（外壁地下） C-100×50×20×2.3 @1,000 以下 |
| ・ 鉄骨見え掛り部分は溶融亜鉛メッキ仕様（収付部分は除く） |

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

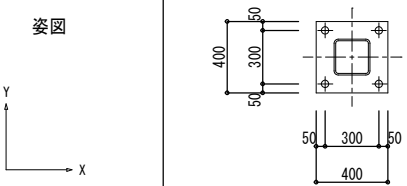
T I T L E 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	N A M E 増築② 軸組図	S C A L E 1/100		 株式会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	D A T E R06.03	C H E C K	D R A W I N G	N O . S - 37 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					

部材リスト

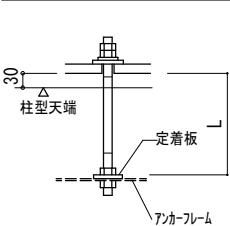
特記なき限り材質はSS400級とする。鉄骨見え掛かり部分は溶融亜鉛めっき仕様(吹付部分は除く)

符 号	断面寸法	Joint	備 考
G1	□P-200x200x9 (BCR295)	柱脚リスト参照	
G34、CG34	H-346×174×6×9	GJ-34	
CG24	H-248×124×5×8		
B24、HB24	H-248×124×5×8	BJ-24	HB24は横使い
B19	H-198×99×4.5×7	BJ-19	
V1、T1	[-100×50×5×7.5	VJ-1	
2V1	2[-100×50×5×7.5	VJ-1	つづり材φ500以下
水平ブレース	1-M16	PL-6 HTB1-M16	既製品仕様
縦胴縁	C-100×50×20×2.3	PL-4.5 中ボルト 2-M12 SW付	φ1,000以下
開口補強	□P-100×100×2.3	PL-4.5 中ボルト 2-M12 SW付	
折板受け	C-100×50×20×2.3		

柱脚リスト 1/30

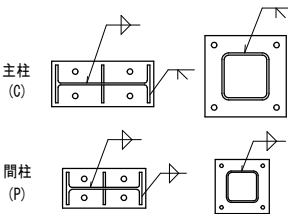
部材符号及びサイズ	G1	□-200x200x9
姿図		
ベースプレート	B. PL-32x400x400	SN490B
リブプレート	-	-
アンカーボルト	A. BOLT 4-M24	ABR400
	L=680	
補強座金	-	
定着板	PL-16×50×50	

主柱 アンカーボルトの形状



定着板タイプ

柱脚の溶接仕様

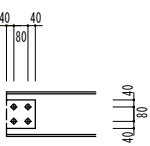
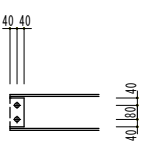
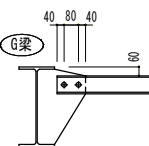


・主柱であっても、柱の板厚が6mm未満の場合は、隅肉溶接とする。

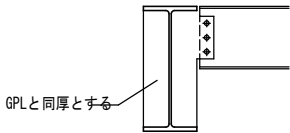
梁接合部リスト 1/30

高力ボルトはS10Tとする。亜鉛メッキ仕様はF8Tとする。

サイズ	GJ-34	H-346x174x6x9	
形状			

サイズ	BJ-24	H-248x124x5x8	BJ-19	H-198x99x4.5x7	VJ-1	[-100x50x5x7.5 2[-100x50x5x7.5
形状						
H.T.B	4-M20		2-M16		2-M20	
G.PL	GPL-9		GPL-6		GPL-6	

共通事項



特記事項			
鉄筋	: SD345 (D19以上)	鉄骨	: SS400・SN490B・C・BCR295・SSC400・STKR400
	SD295A (D16以下)	HTB	: S10T、F8T
コンクリート : Fc=21N/mm2 (基礎・地中梁)			
Fc=21N/mm2 (土間コン)			
註 Fc は、コンクリートの設計基準強度を表す。			

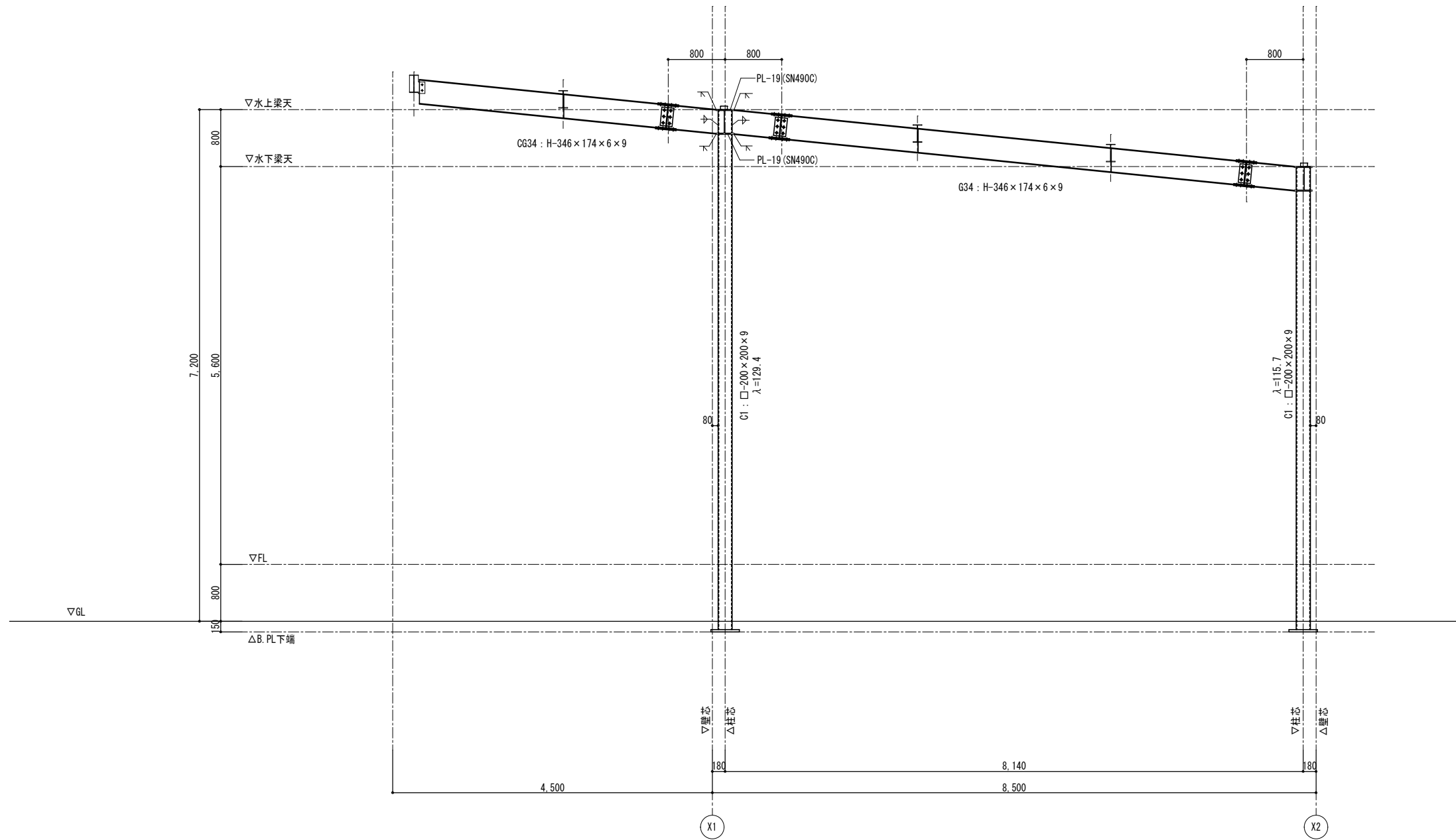
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE	株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平			DATE	CHECK	DRAWING	NO. S — 38 /
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築② 部材リスト	1/30	※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)			R06.03			



株式会社
平設計

一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平

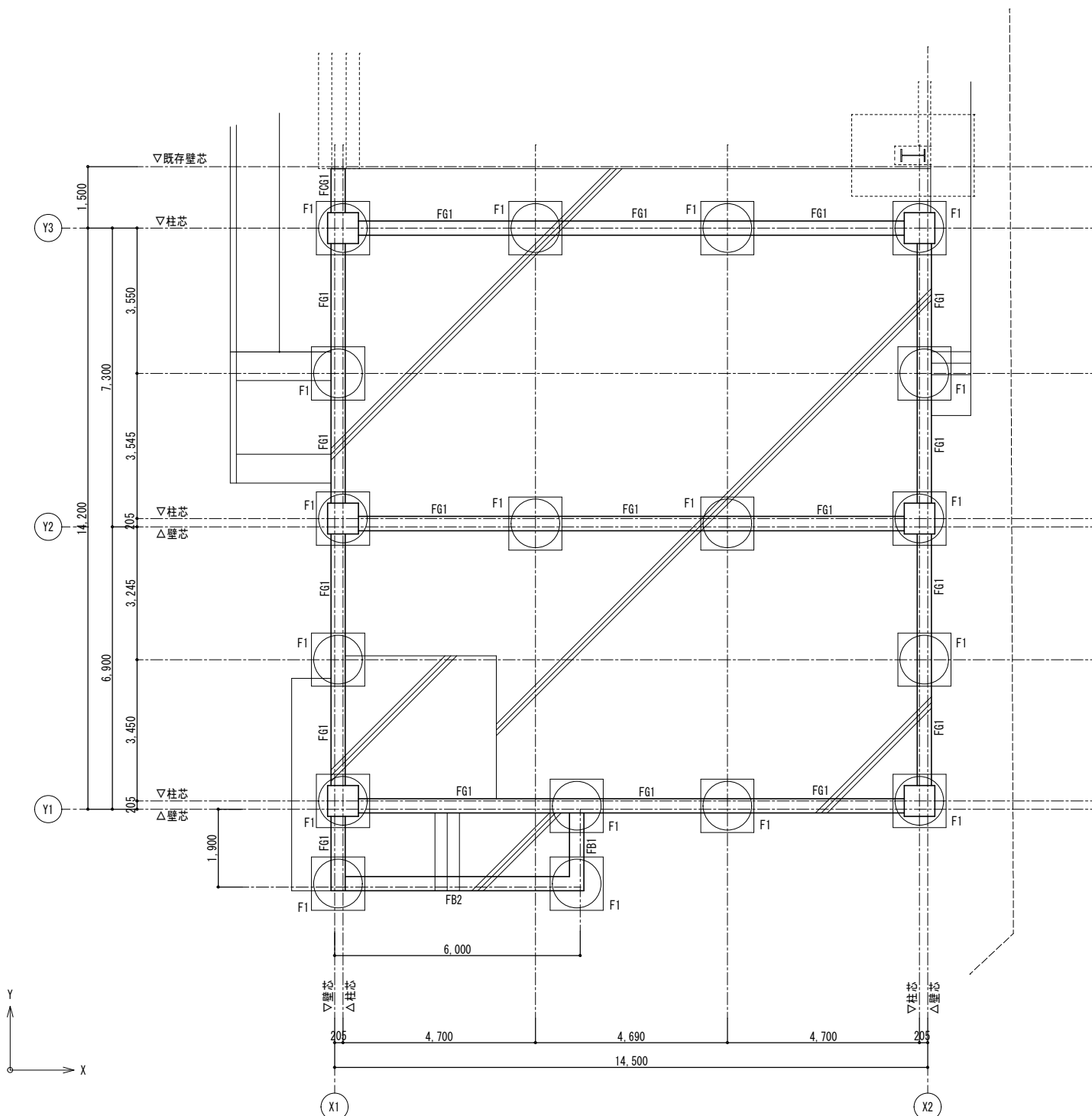


Y1通り鉄骨詳細図 S=1/50

特記なき部材はSS400とする

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE		 株式 会社 平 設 計	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S — 39 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築② 鉄骨詳細図	1/50		一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	R06.03			



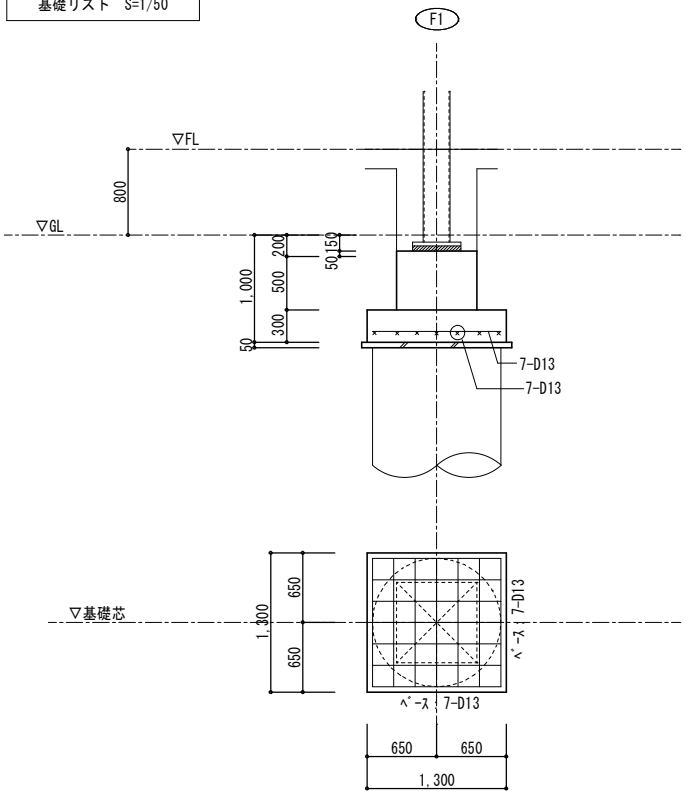
改良仕様
図中 ○ は、柱状改良杭 1,200φ を表す。
改良深さはGL-20.5mとする
支持層 シルト
柱状改良杭体の設計基準強度 F_{cl} は、 $F_c=900 \text{ kN/m}^2$ とする。

一般事項（特記なき限り下記による）
・ 長期支持力 150kN/m2
・ 基礎芯=柱芯 地中梁受け基礎芯は地中梁芯
・  土間をを示す
・
・
・

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号 長谷川 信文
構造設計一級建築士交付 第 8767号

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築③ 基礎伏図	SCALE 1/100		 株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 40 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					

基礎リスト S=1/50



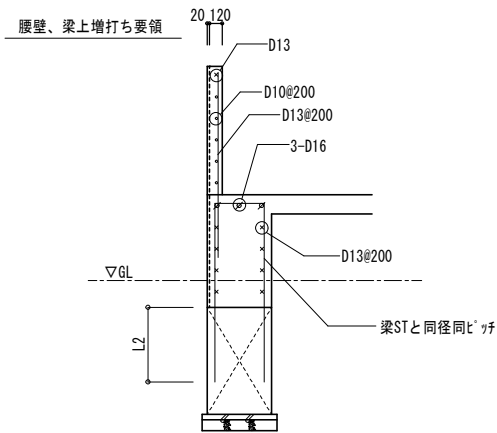
ベース筋	↔	7-D13
	↑↓	7-D13
ハカマ筋	↔	—
	↑↓	—
備 考	柱状改良 1-1,200φ	

基礎柱リスト S=1/50

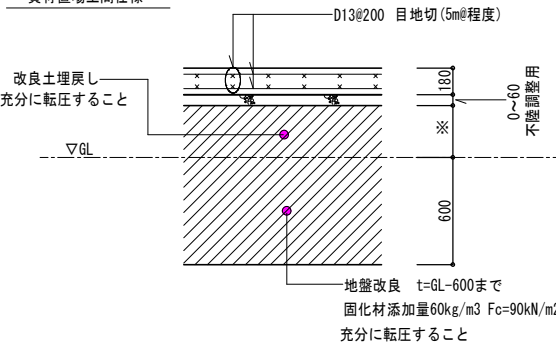
鉄骨柱符号	C1、C2
断面	
柱型主筋	12-D22
HOOP	D13@100

地中梁リスト S=1/50

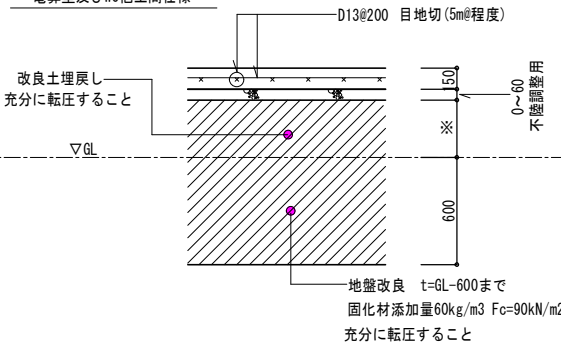
符号	F61、FC61	FB1	FB2
位置	全断面	全断面	全断面
▽FL			
▽GL			
断面			
上端筋	3-D22	3-D19	3-D19
下端筋	3-D22	3-D19	3/2-D19
スラップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10
巾止め筋	1-D10@1,000	1-D10@1,000	1-D10@1,000



資材置場土間仕様

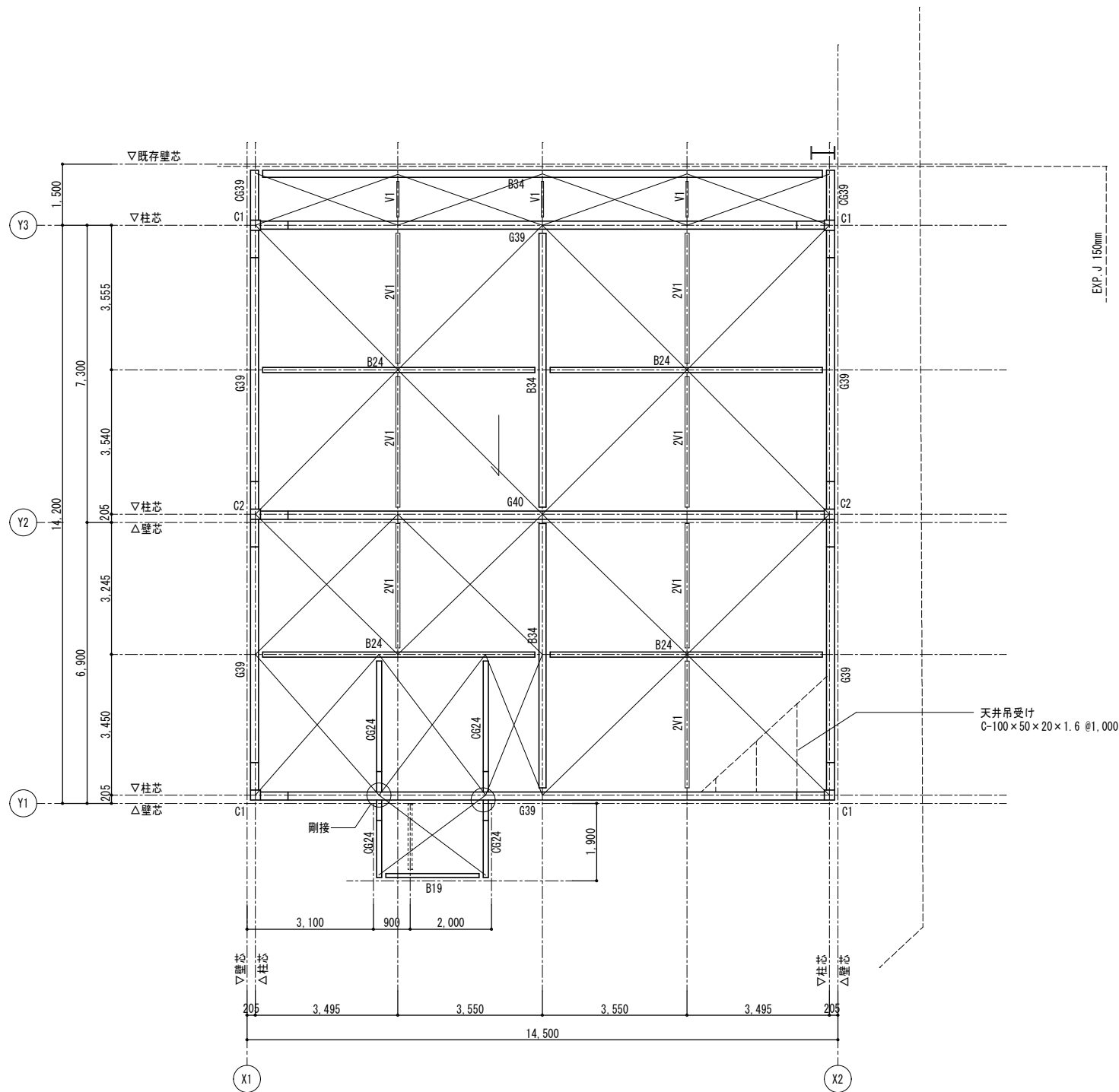


電算室及びWC他土間仕様



構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE	株式 会社 平 設 計		DATE	CHECK	DRAWING	NO.
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築③ 基礎リスト	1/50			R06.03			S — 41 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					
			一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平					

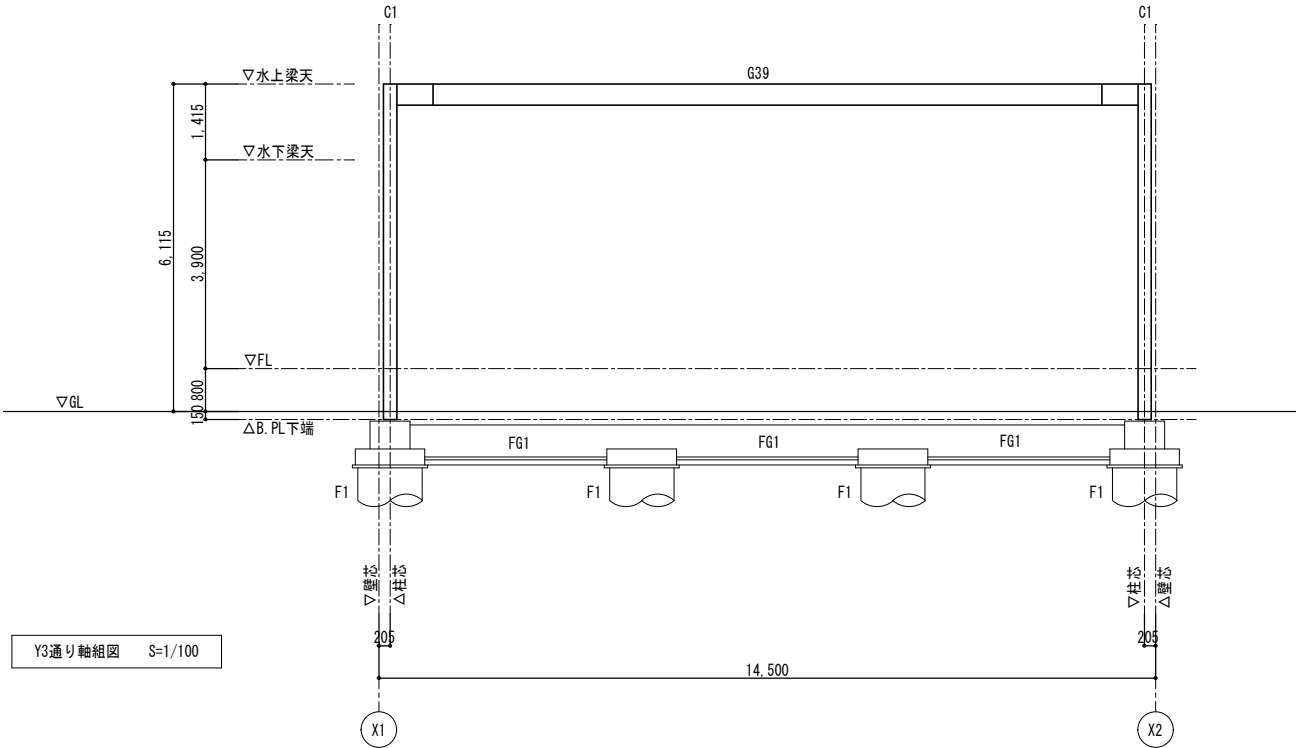
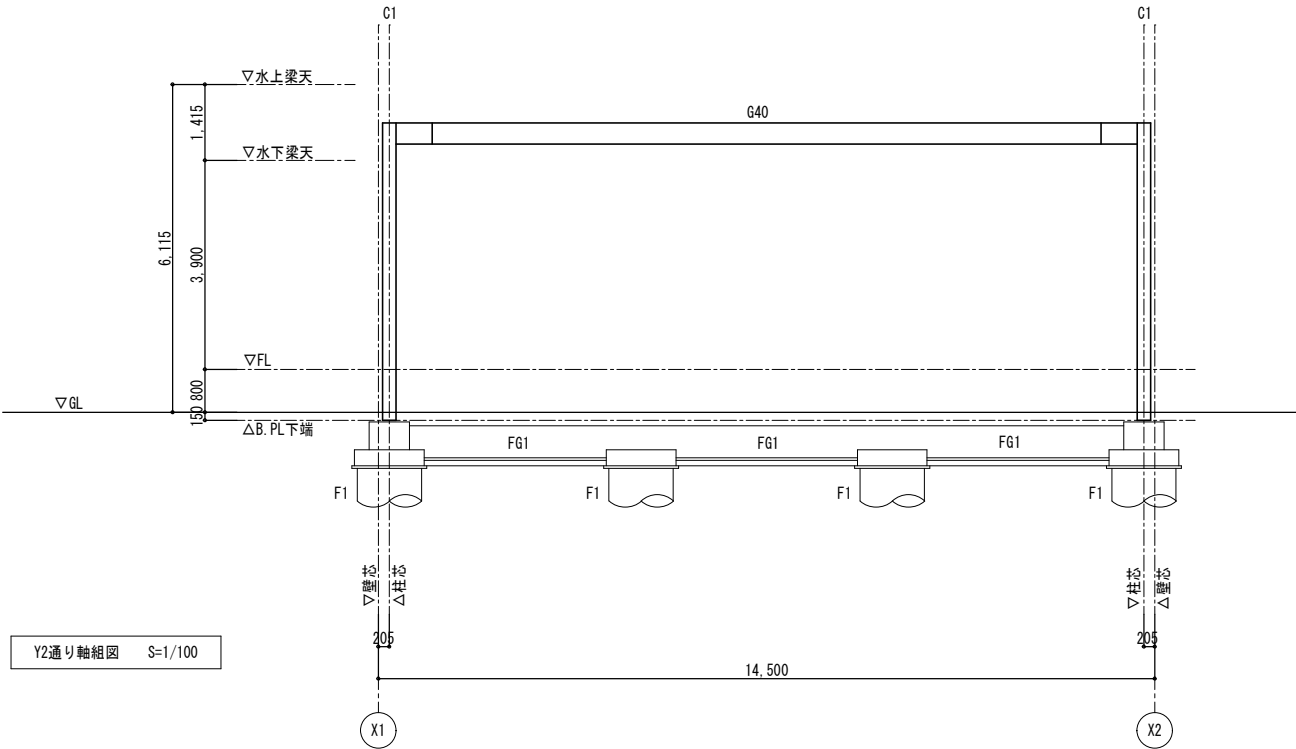
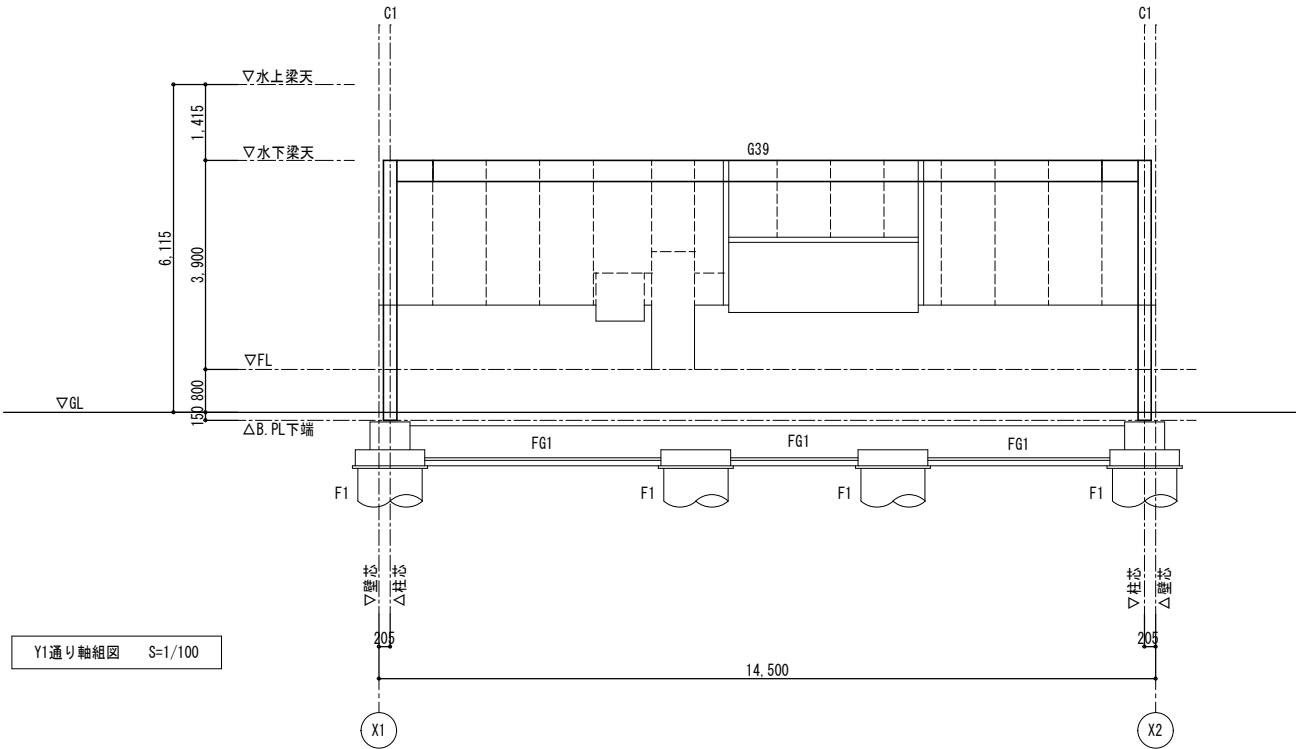


屋根伏図 S=1/100

- 一般事項（特記なき限り下記による）
- ・ 大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・ 〓 は、折板流し方向を示す。
 - ・ 2V1、V1材天端はG梁天端+60
 - ・ 折板 H=166 t=0.8 折板受け小梁天端はG梁天端+50とする。
 - ・ 水平ブレースはM16とする。
 - ・ 鉄骨見え掛かり部分は溶融亜鉛メッキ仕様（吹付部分は除く）
 - ・
 - ・
 - ・

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

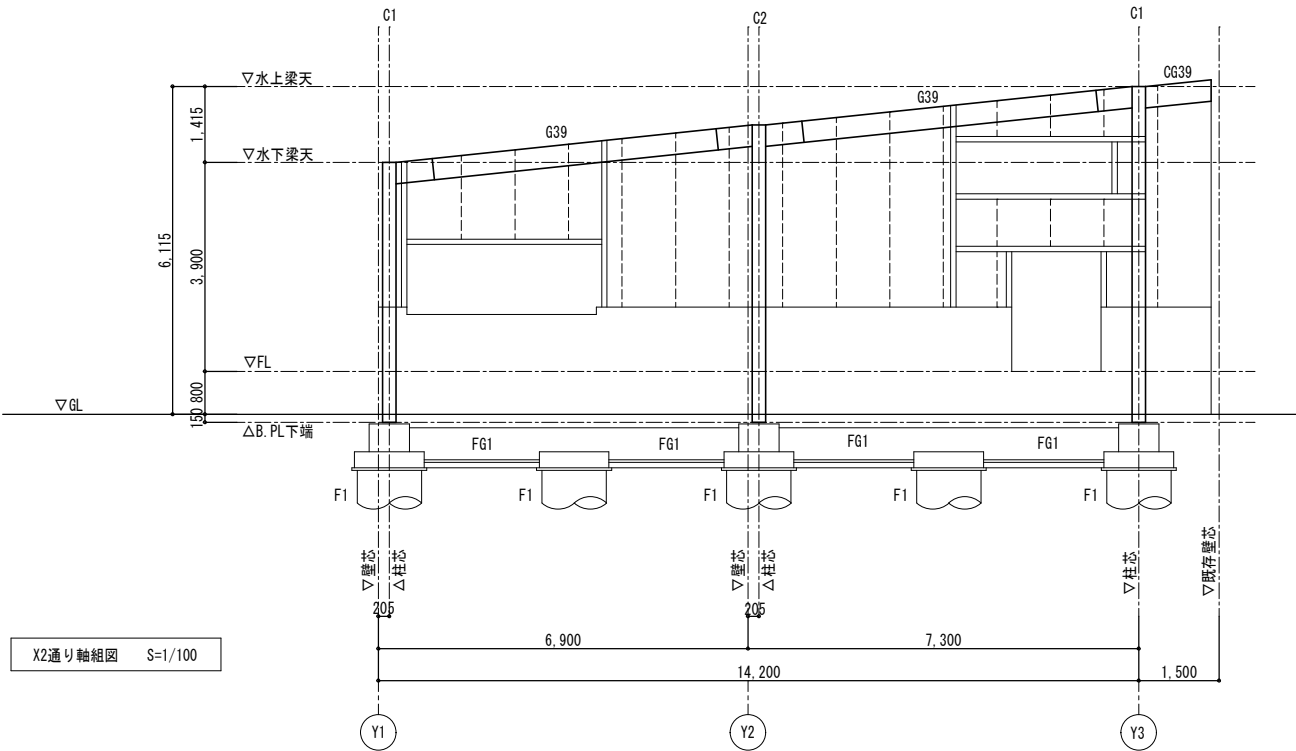
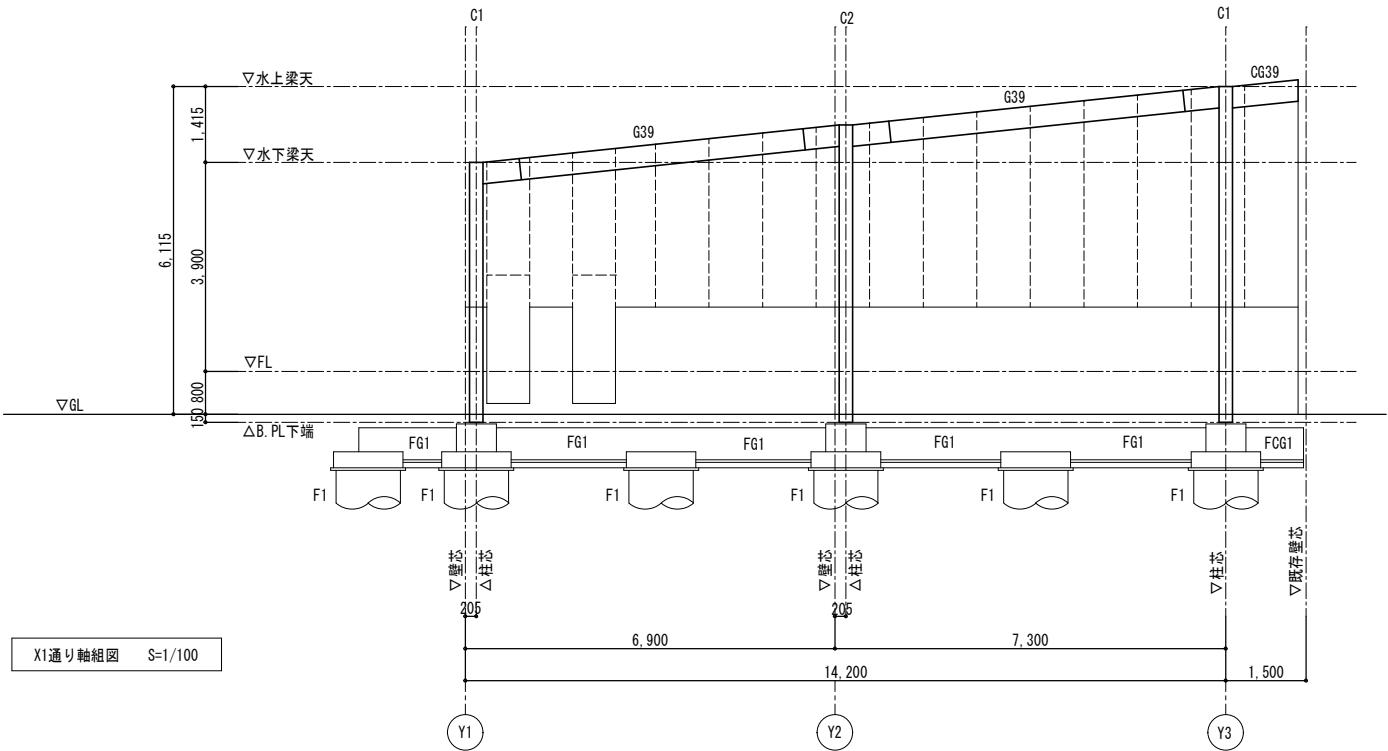
TITLE	NAME	SCALE		株式 会社	平 設 計	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S — 42 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)						
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築③ 屋根伏図	1/100		一級建築士事務所登録03-578号	一級建築士登録93620号	R06.03			足立 收平



- 一般事項（特記なき限り下記による）
- ・ 大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・ 縦胴縁（外壁下地） C-100×50×20×2.3 @1,000以下
 - ・ 鉄骨見え掛かり部分は溶融亜鉛メッキ仕様（吹付部分は除く）

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築③ 軸組図（1）	SCALE 1/100		株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S - 43 /
			※ A 2→A 3 へ縮小（70.7%）					

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文



- 一般事項（特記なき限り下記による）
- ・ 大梁継手位置は、柱芯より 800 とする。 2次部材等に干渉する場合は800以上とする。
 - ・ 縦胴縁(外壁下地) C-100×50×20×2.3 @1,000以下
 - ・ 鉄骨見え掛かり部分は溶融亜鉛メッキ仕様(吹付部分は除く)

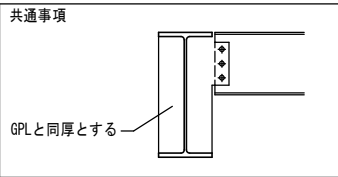
構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文

TITLE	NAME	SCALE		株 式 公 司 平 設 計	DATE	CHECK	DRAWING	NO.	S — 44 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)						
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	増築③ 軸組図 (2)	1/100		一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	R06.03				

符 号	断面寸法	Joint	備 考
C1	□P-250x250x9 (BCR295)	柱脚リスト参照	
C2	□P-250x250x12 (BCR295)	柱脚リスト参照	
G40	H-400×200×8×13	GJ-40	
G39、CG39	H-396×199×7×11	GJ-39	
CG24	H-248×124×5×8	GJ-24	
B34	H-346×174×6×9	BJ-34	
B24	H-248×124×5×8	BJ-24	
B19	H-198×99×4.5×7	BJ-19	
V1	[-100×50×5×7.5	VJ-1	
2V1	2[-100×50×5×7.5	VJ-1	つづり材#500以下
水平ブレース	1-M16	PL-6 HTB1-M16	既製品仕様
縦鋼線	C-100×50×20×2.3	PL-4.5 中ボルト 2-M12 SW付	@1,000以下
開口補強	□P-100×100×2.3	PL-4.5 中ボルト 2-M12 SW付	
天井受け材	C-100×50×20×1.6	PL-4.5 中ボルト 1-M12 SW付	@1,000以下
折板受け	C-100×50×20×2.3		

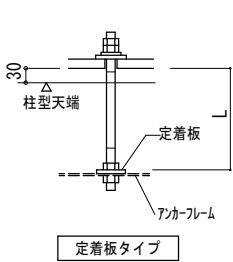
サイズ	GJ-40	H-400x200x8x13	GJ-39	H-396x199x7x11	GJ-24	H-248x124x5x8			
形状									
フランジ	24-M22	L=65	2PL -9x200x410 4PL -9x 80x410	24-M22	L=65	2PL -9x200x410 4PL -9x 80x410	24-M16	L=45	2PL -12x125x410
ウェブ	6-M22	L=60	2PL -9x260x170	6-M22	L=60	2PL -9x260x170	8-M16	L=45	2PL - 6x170x290

サイズ	BJ-34	H-346x174x6x9	BJ-24	H-248x124x5x8	BJ-19	H-198x99x4.5x7	VJ-1	[-100x50x5x7.5
形状								
H.T.B	3-M20		4-M20		2-M16		2-M20	
G.PL	GPL-9		GPL-9		GPL-6		GPL-6	

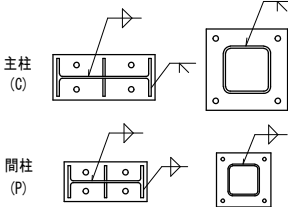


部材符号及びサイズ	C1	C2	□-250x250x9	□-250x250x12
姿図				
ベースプレート	B. PL-36x450x450		SN490B	
リブプレート	-		-	
アンカーボルト	A. BOLT 4-M27		ABR400	
	L=680			
補強座金	-			
定着板	PL-19 x 65 x 65			

主柱 アンカーボルトの形状



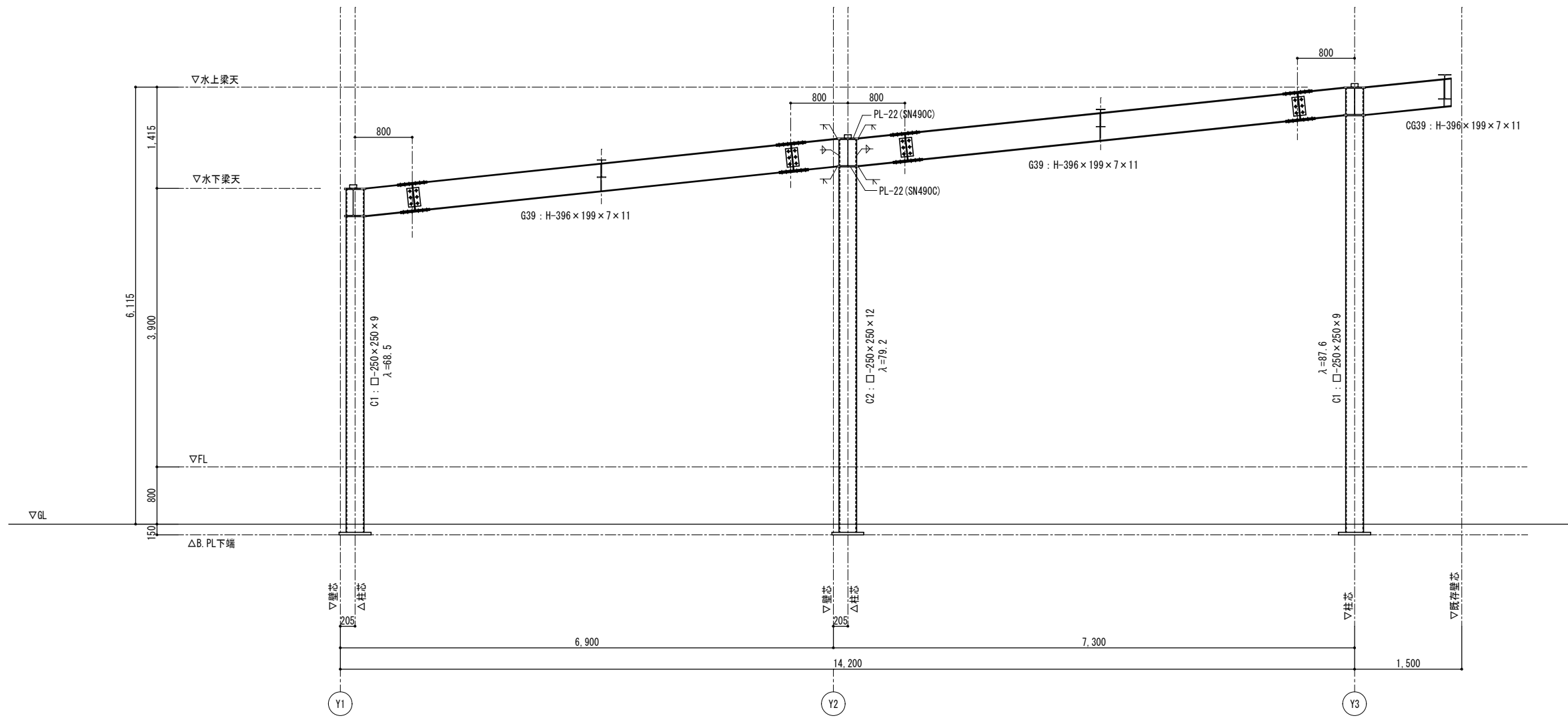
柱脚の溶接仕様



・主柱であっても、柱の板厚が6mm未満の場合は、隅肉溶接とする。

特記事項			
鉄筋	: SD345 (D19以上)	鉄骨	: SS400・SN490B、C・BCR295・SSC400・STKR400
	SD295A (D16以下)	HTB	: S10T、F8T
コンクリート : Fc=21N/mm2 (基礎・地中梁)			
Fc=21N/mm2 (土間コン)			
註 Fc は、コンクリートの設計基準強度を表す。			

構造設計者
一級建築士 大臣登録 第327195号
構造設計一級建築士交付 第 8767号 長谷川 信文



X1通り鉄骨詳細図 S=1/50
特記なき部材はSS400とする

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 増築③ 鉄骨詳細図	SCALE 1/50		株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S — 46 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					

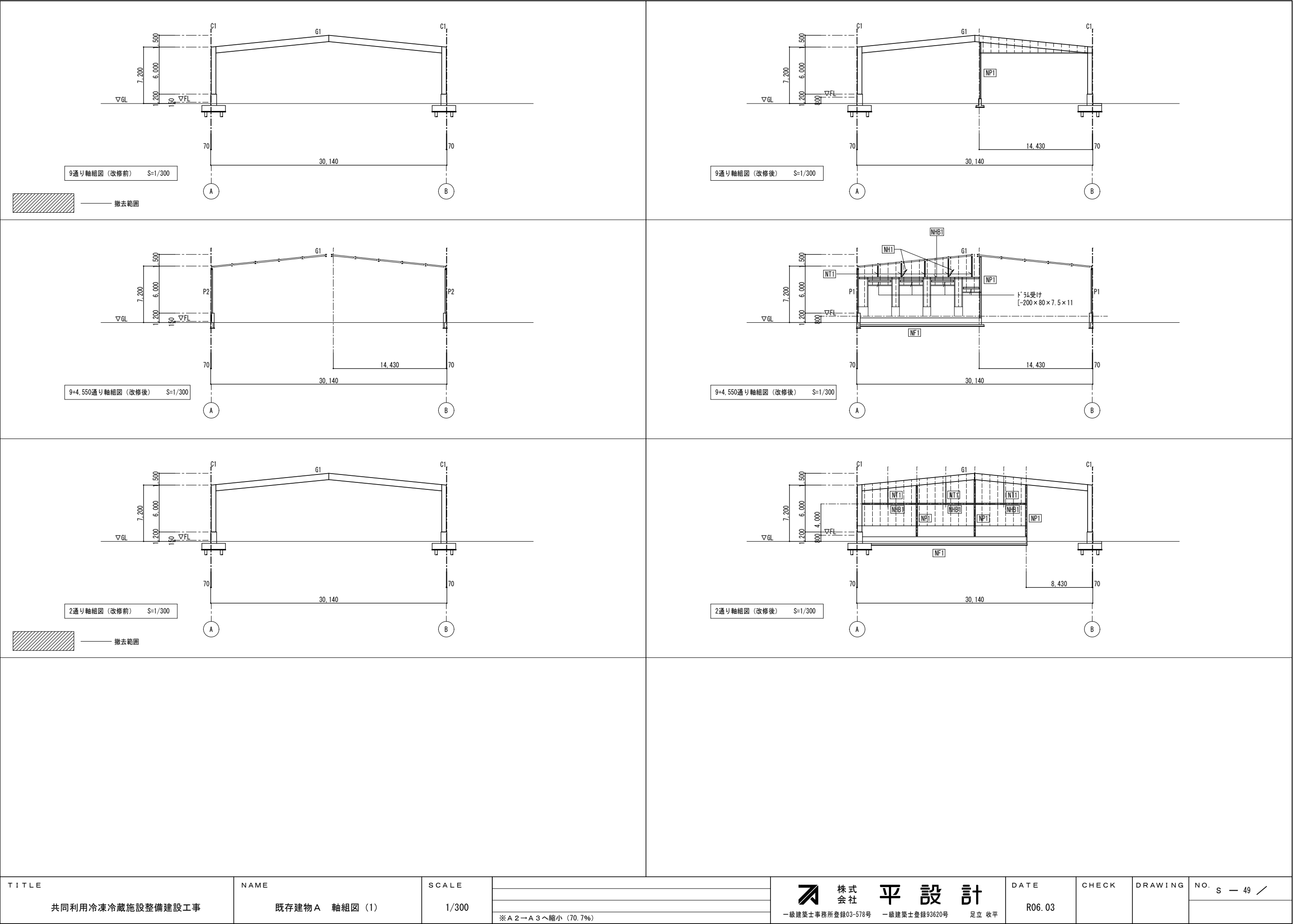


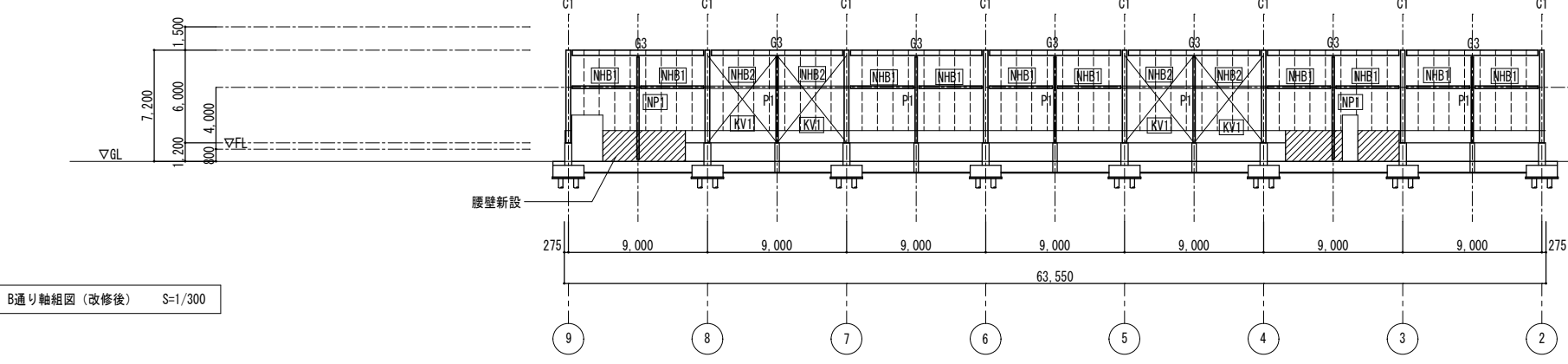
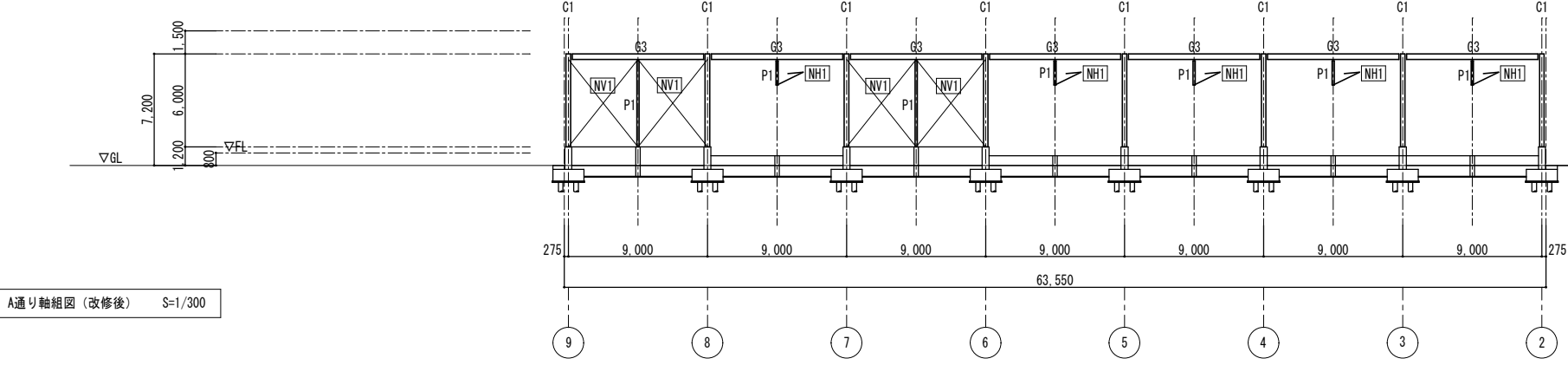
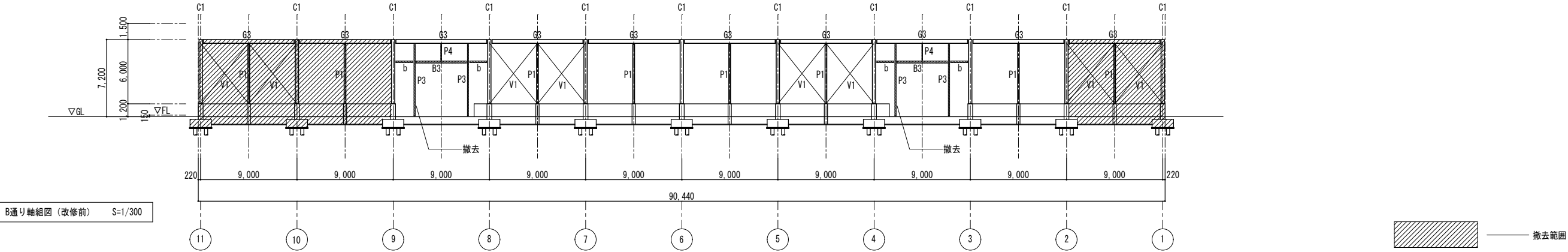
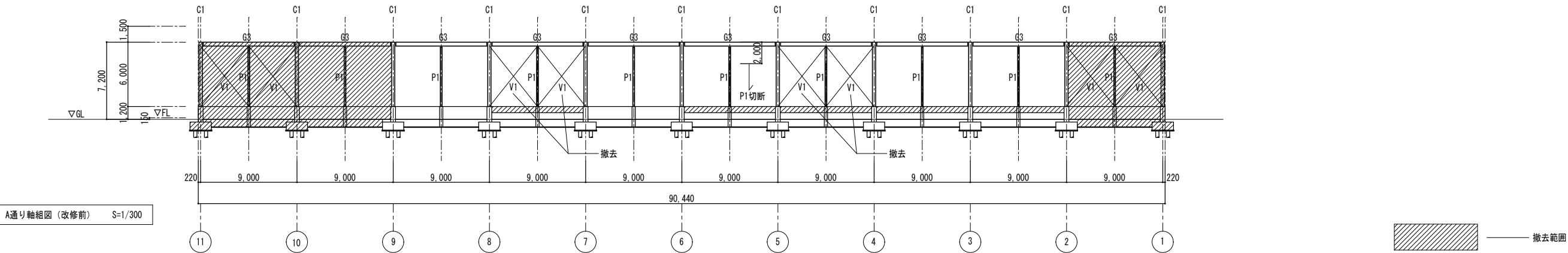
屋根伏図 (改修前)	S=1/300
------------	---------



屋根伏図（改修後）	S=1/300
-----------	---------

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 既存建物 A 屋根伏図	SCALE 1/300	株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平			DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S — 48 /
※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)									





既存部材リスト

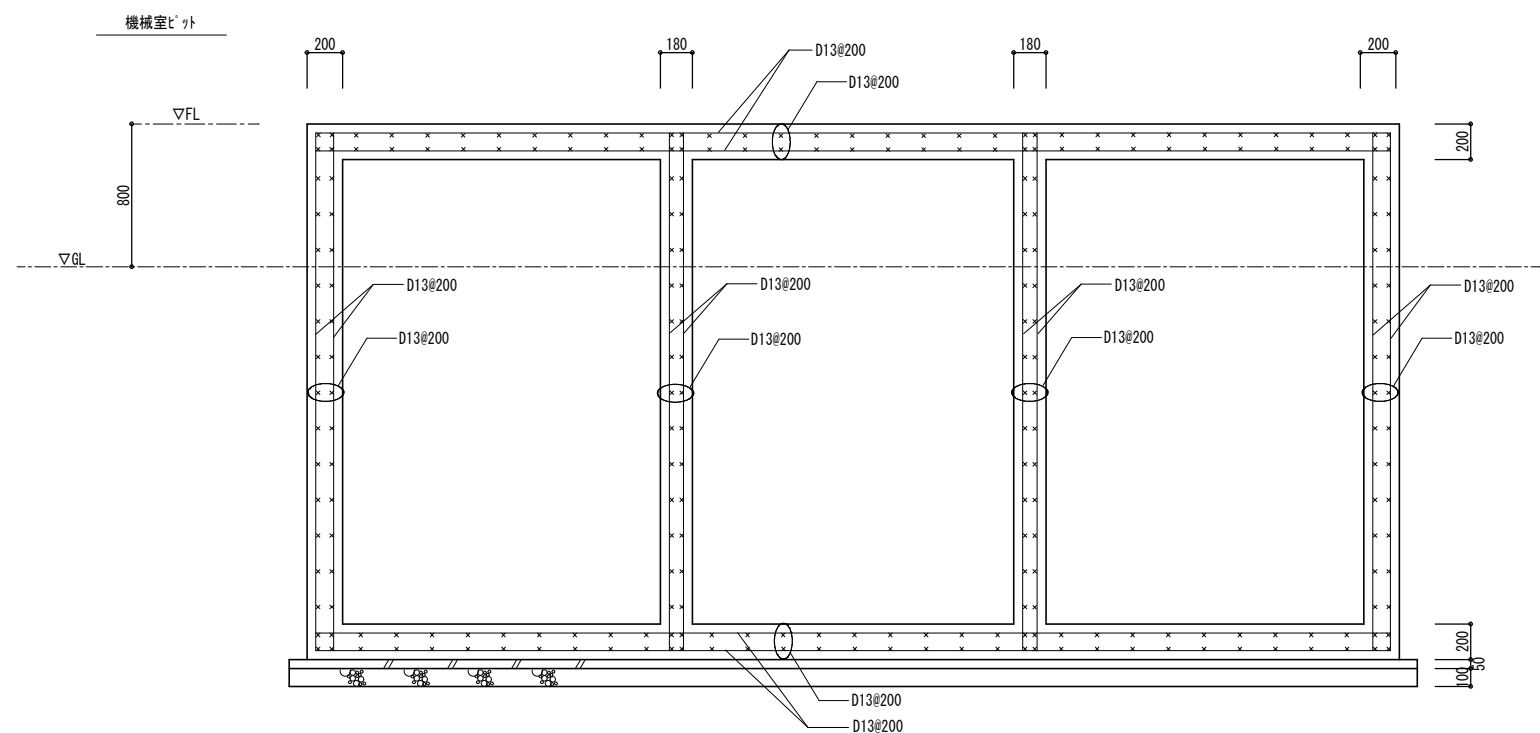
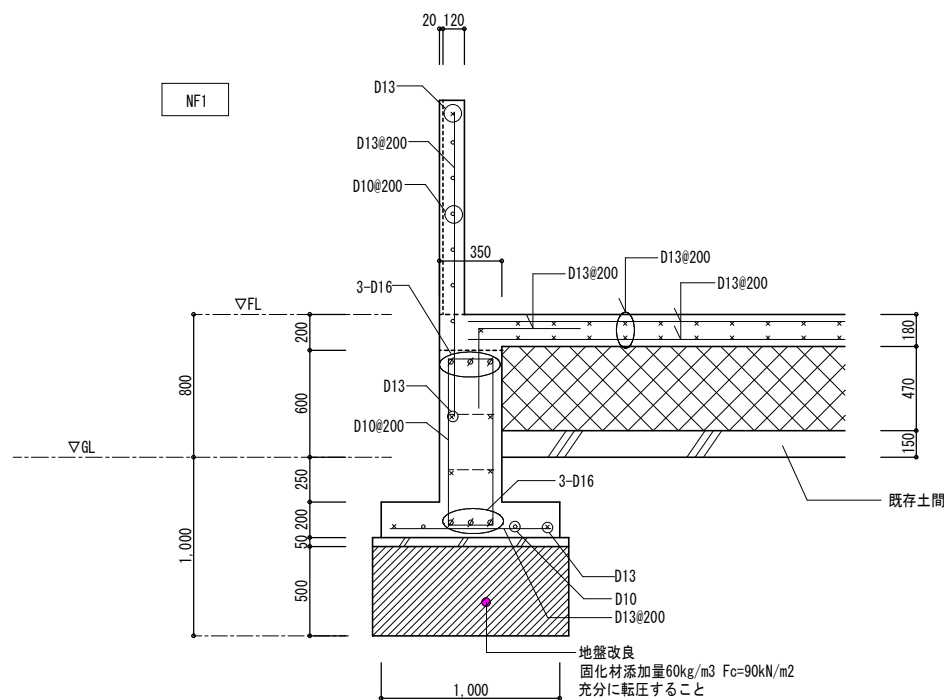
符 号	断面寸法	Joint	備 考
C1	H-594×302×14×23		
G1	H-800×300×14×26		
G3	H-350×175×7×11	PL-9 HTB4-M20	
P1	H-150×150×7×10	PL-12 HTB4-M20	
P2	H-250×125×6×9	PL-9 HTB2-M16	
P3	H-125×125×6.5×9	PL-9 HTB2-M16	
P4	H-150×75×5×7	PL-6 HTB2-M16	
B1	H-300×150×6.5×9	PL-9 HTB3-M20	
b	H-150×75×5×7	PL-6 HTB2-M16	
V1 鉛直ﾌﾞﾚｽ	L-125×65×6×8	PL-9 HTB4-M20	
V2 水平ﾌﾞﾚｽ	L-65×65×6	PL-9 HTB5-M16	
V3 水平ﾌﾞﾚｽ	M16	PL-9 HTB1-M16	
横胴縁	C-120×60×20×3.2	中ﾎﾞﾙﾄ 2-M12	

新設部材リスト

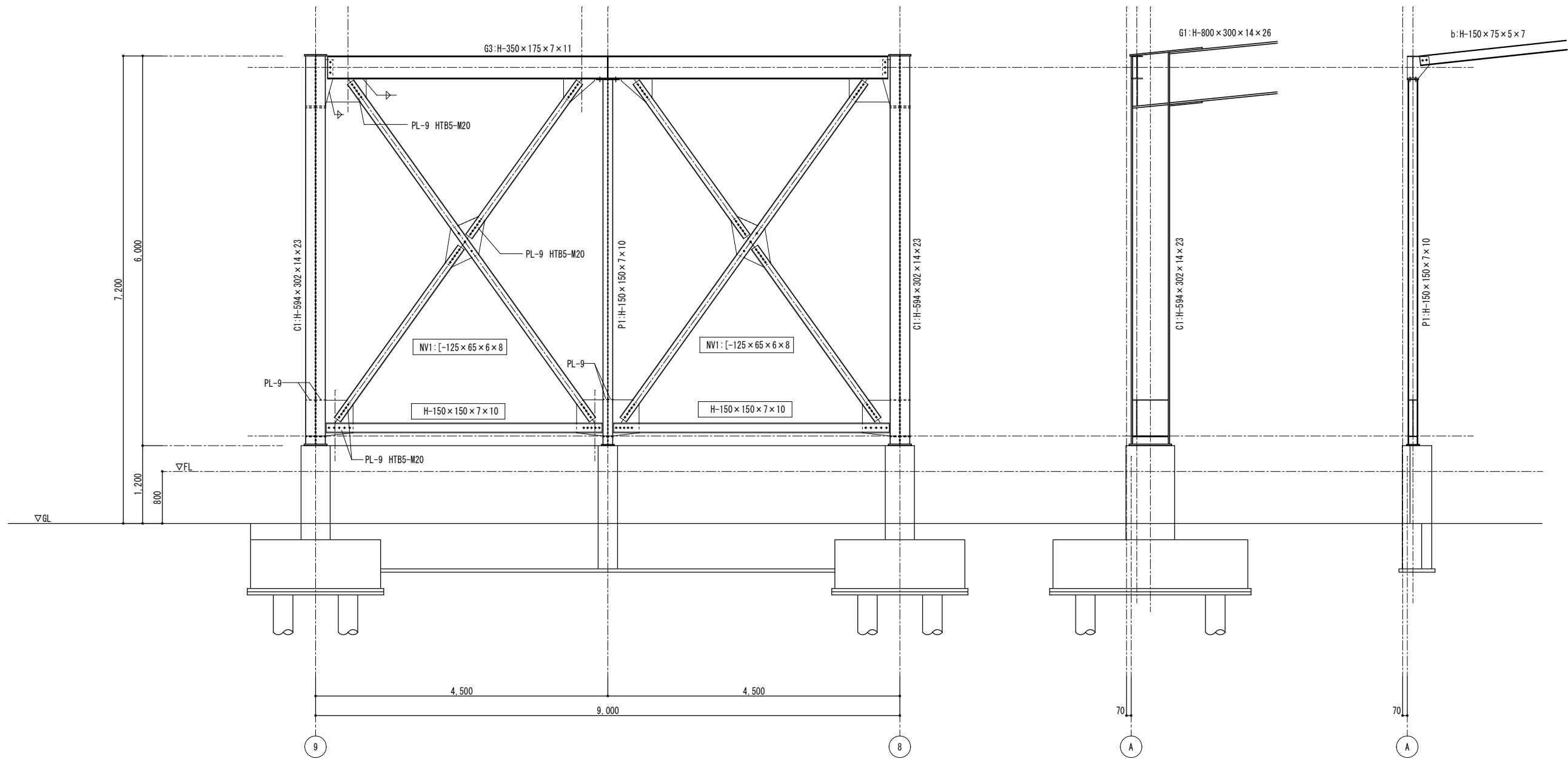
符 号	断面寸法	Joint	備 考
NP1	H-175×175×7.5×11	PL-9 HTB2-M20	
NHB1	H-194×350×6×9	PL-9 HTB2-M20	横使い
NHB2	□-100×150×3.2	中* 1/2 2-M12	壁面内
NH1	□-100×100×3.2	PL-6 HTB2-M16	
NT1	[-100×50×5×7.5	中* 1/2 2-M12	
NV1 鉛直ﾌﾞﾚｽ	[-125×65×6×8	PL-9 HTB5-M20	新設ﾌﾞﾚｽ 詳細図参照
KV1 鉛直ﾌﾞﾚｽ	[-125×65×6×8	PL-9 HTB4-M20	改修ﾌﾞﾚｽ 詳細図参照
縦胴縁	C-100×50×20×2.3	中* 1/2 2-M12	≦1,000以内

柱脚リスト

部材符号及びサイズ	NP1	H-175x175x7.5x11
図 2		
ベースプレート	B. PL-16x210x210	SS400
リブプレート	—	—
アンカーボルト	A. BOLT 2-M22 L=500	SS400



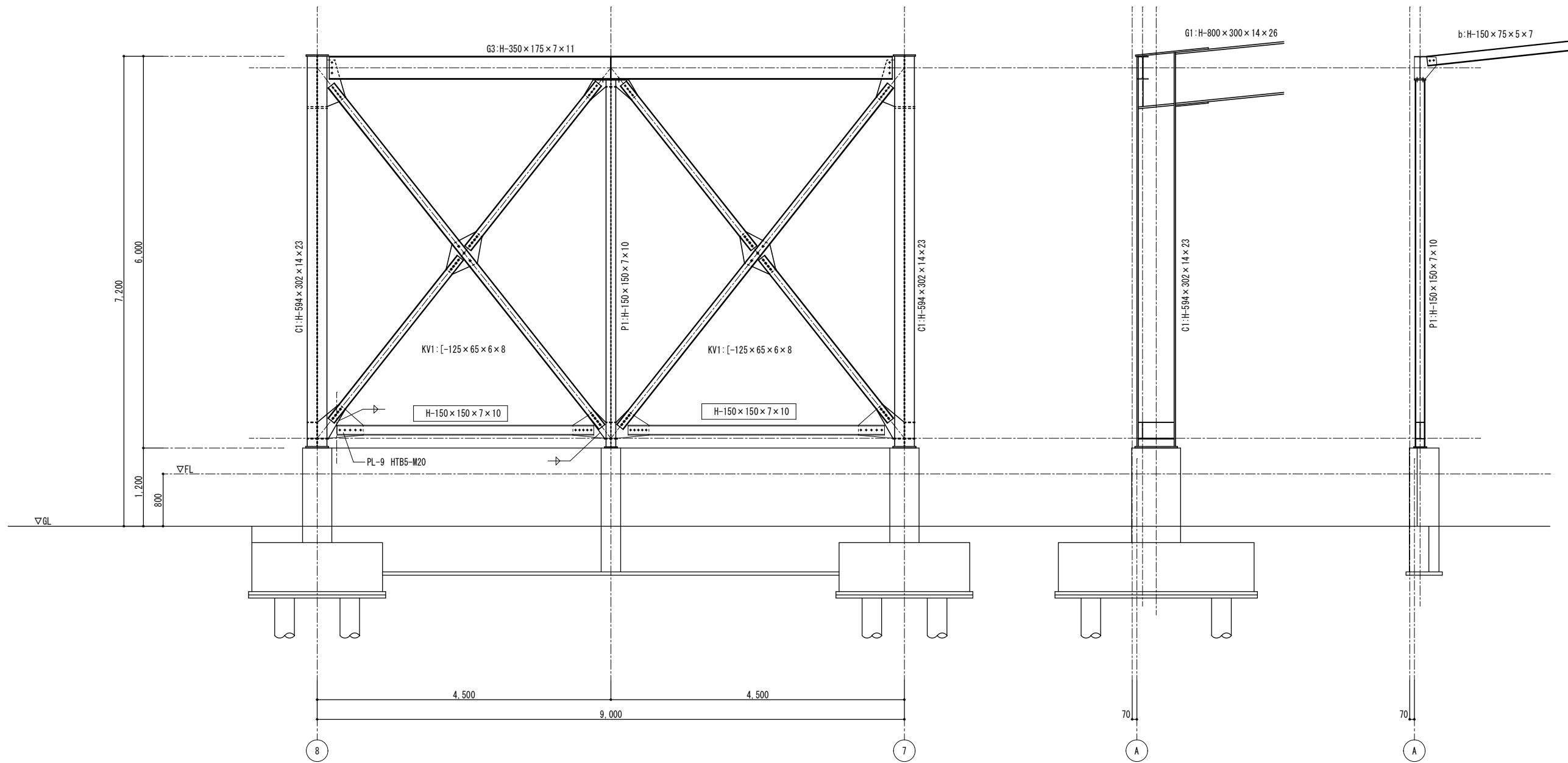
TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 既存建物A 部材リスト	SCALE 1/30		株式会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S — 51 /
			※A2→A3へ縮小 (70.7%)					



A通り鉄骨詳細図 S=1/50

は新設部材を示す

TITLE	NAME	SCALE		株式 会社 平 設 計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE	CHECK	DRAWING	NO. S — 52 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					
共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	既存建物 A 改修詳細図 (1)	1/50			R06.03			



B通り鉄骨詳細図 S=1/50 は新設部材を示す

TITLE 共同利用冷凍冷蔵施設整備建設工事	NAME 既存建物A 改修詳細図 (2)	SCALE 1/50		株式会社 平設計 一級建築士事務所登録03-578号 一級建築士登録93620号 足立 收平	DATE R06.03	CHECK	DRAWING	NO. S — 53 /
			※ A 2 → A 3 へ縮小 (70.7%)					